

ノ權利義務ヲ承繼ス
第六十八條 組合ハ總組合員ノ同意ヲ以テ其ノ組織ヲ變更スルコトヲ得
組合カ組織變更ニ因リ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ第四十條及第四十一條ニ定メタル手續ヲ爲
スヘシ

第六十九條 民法第七十條ノ規定ハ産業組合ノ解散ニ之ヲ準用ス

第八章 清算

第七十條 清算人ハ其ノ職務ノ範圍内ニ於テ理事ト同一ノ權利義務ヲ有ス

第七十一條 清算人ハ就職後遲滞ナク組合財産ノ現況ヲ調査シ財産目録及貸借對照表ヲ作り之ヲ總
會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十二條 清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟シ又ハ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合財産
ヲ分配スルコトヲ得ス

第七十三條 清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ總會ニ提出シテ其
ノ承認ヲ求ムヘシ

第七十四條 清算人ノ解任アリタルトキハ二週内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲シ且之
ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第七十五條 民法第七十三條乃至第八十三條ノ規定ハ産業組合ノ清算ニ之ヲ準用ス但シ同規定中一
週間トアルハ二週間トス

第九章 罰則

第七十六條 組合ノ理事、監事又ハ清算人ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上三百圓以下ノ過料ニ處セラ
ル

一 本法ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ登記ヲ爲シタルトキ

二 官廳又ハ總會ニ對シ不實ノ申立ヲ爲シ又ハ事實ヲ隱蔽シタルトキ

三 第二十九條第一項及第三十條第一項ノ規定ニ違背シ又ハ第二十九條第一項及第三十條第一項
ニ掲ケタル書類ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ若ハ正當ノ理由
ナクシテ其ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

四 第四十條、第四十一條、第四十三條乃至第四十六條、第四十八條又ハ第七十二條ノ規定ニ違背
シタルトキ

五 第六十條ノ報告ヲ爲サス又ハ検査ヲ拒ミ其ノ他監督官廳ノ命令又ハ處分ニ從ハサルトキ

六 民法第七十九條ノ期間内ニ債權者ニ辨償ヲ爲シタルトキ

七 民法第七十九條又ハ第八十一條ニ定メタル公告ヲ爲スコトヲ怠リ又ハ不正ノ公告ヲ爲シタル
トキ

八 民法第七十條又ハ第八十一條ノ規定ニ違背シタルトキ

第七十七條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

第七十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十九條 産業組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其ノ出張所ヲ以テ管轄登記
所トス

第八十條 各登記所ニ産業組合登記簿ヲ備フ

第八十一條 組合設立ノ登記ハ理事及監事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 定款

二 地方長官ノ許可書又ハ其ノ認證アル謄本

三 第十五條第二號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ證スル書面

第八十二條 事務所ノ新設、移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス
申請書ニハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且地方長官ノ認可ヲ要スルモノニ付テハ其ノ認
可書又ハ其ノ認證アル謄本ヲ添附スヘシ

前二項ノ規定ハ組合員名簿ノ記載ノ申請ニ之ヲ準用ス

第八十三條 出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少ノ登記ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 地方長官ノ認可書又ハ其ノ認證アル謄本

二 第四十條第二項ニ依ル催告ヲ爲シタルコト、若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ
辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面

第八十四條 組合ノ解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且組合カ總會ノ決議ニ因リテ解散
シタルトキハ總會ノ決議録ヲ添附スヘシ

第八十五條 合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請書ニハ第八十三條ニ掲ケタル書面ヲ添附スヘシ

組合カ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ監督官廳ノ囑託ニ因リテ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第八十六條 第八十一條第一項ノ規定ハ出資一口ノ金額又ハ組合員ノ責任ノ減少、組合ノ解散及組
合ノ合併ニ因ル變更、設立又ハ解散ノ登記ノ申請ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第八十七條 本法ノ規定ニ依リ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ但シ組合員名簿ニ
記載シタル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第八十八條 非訟事件手續法第三百三十六條乃至第三百三十八條、第四百十一條乃至第四百五十一條、第百

五十四條乃至第五百五十八條、第六十三條乃至第六十五條及第七十五條乃至第七十七條ノ
規定ハ産業組合ノ登記ニ之ヲ準用ス

第八十九條 本法ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テ
ハ支廳長、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第九十條 北海道ニ於ケル産業組合ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設タルコトヲ得

○産業組合法施行期日ノ件 明治三十三年七月十二日 勅令第三〇二號

産業組合法ハ明治三十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

○産業組合法施行規則 明治三十三年七月三日 省令第一六號

第一條 出資一口ノ金額ハ五十圓ヲ超ユルコトヲ得ス但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第二條 第一拂回込ノ金額ハ出資一口ノ金額ノ十分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第三條 準備金ノ額ハ出資總額ヲ下ルコトヲ得ス

第四條 組合カ新ニ加入スル者ヨリ加入金ヲ徴收スルトキハ其金額ハ之ヲ準備金ニ組入ル、コトヲ
要ス脱退シタル組合員ニ對シ其持分ノ一部ヲ拂戻スヘキコトヲ定メタルトキハ其殘額ニ付キ亦同
シ

第五條 理事及ヒ監事ハ定款ノ規定又ハ總會ノ決議ニ依ルニ非サレハ給料、報酬又ハ賞與ヲ受クル
コトヲ得ス

第六條 組合ノ事業年度ハ曆年ニ依ル但特別ノ理由アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 理事ハ總會ノ承認ヲ經タル後遲滯ナク産業組合法第三十條第一項ニ掲ケタル書類ヲ地方長

官ニ差出スコトヲ要ス

第八條 組合ノ事業報告書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 組合員ノ數及ヒ出資口數ノ異動
- 二 出資拂込ノ總額及ヒ剩餘金ヲ以テ出資ノ拂込ニ充テタルトキハ其總額
- 三 借入金及ヒ其償還
- 四 準備金及ヒ各種ノ積立金
- 五 總會ノ決議
- 六 事業ノ狀況
- 七 信用組合ニ在リテハ貸付シ又ハ償還ヲ受ケタル金額、受入又ハ拂戻シタル貯金額及ヒ貯金並ニ貸付金ノ利率其他ノ組合ニ在リテハ販賣、購買又ハ生産シタル物ノ種目別ノ數量及ヒ價額
- 八 組合員ノ職業別ノ數及ヒ出資口數
- 九 保證責任組合ニ在リテハ保證金額
- 十 處務ノ要件

第九條 理事ハ毎年總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ地方長官ニ報告スルコトヲ要ス

一 一事業年度ニ於テ借入ル、コトヲ得ヘキ最高金額

二 信用組合ニ在リテハ一事業年度ニ於テ一組合員ニ貸付スルコトヲ得ヘキ最高金額

第十條 出資一口ノ金額又ハ保證金額ノ減少ノ認可申請書ニハ理由書、總會ノ決議録、財産目錄及ヒ貸借對照表ヲ添附スルコトヲ要ス

第十一條 持分ニ對スル剩餘金分配ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

第十二條 合併ノ認可申請書ニハ第十條ニ掲ケタル書類ノ外合併契約書及ヒ合併後存續スル組合又

ハ合併ニ因リテ設立スル組合ノ定款ヲ添附スルコトヲ要ス

第十三條 組織變更ノ認可申請書ニハ總組合員ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ組合員ノ責任ヲ減少スルトキハ尙ホ第十條ニ掲ケタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第十四條 郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者カ産業組合法第六十條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ハントスルトキハ地方長官ノ指揮ヲ請フコトヲ要ス

第十五條 地方長官カ産業組合法第六十條又ハ第六十一條ノ規定ニ依リ命令ヲ發シ又ハ處分ヲ行ヒタルトキハ直チニ其旨ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條 組合カ産業組合法ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ遲滞ナク登記シタル事項及ヒ其登記ノ年月日ヲ地方長官ニ届出ルコトヲ要ス但組合員名簿ニ爲シタル記載ハ此限ニ在ラス

第十七條 組合ヨリ地方長官ニ差出スヘキ書類ハ郡長又ハ郡長ノ職務ヲ行フヘキ者ヲ經由スルコトヲ要ス

附 則

第十八條 本則ハ産業組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條 本則ハ明治三十三年勅令第二百五十五號ニ依リ設立スル産業組合ニハ之ヲ適用セス

○北海道ニ於ケル産業組合 明治三十三年六月一日 勅令第二百五號

第一條 本令ハ北海道ニ於テ農業者ノ設立スル産業組合ニ之ヲ適用ス

第二條 組合ノ組織ハ無限責任トス但シ設立後十箇年ヲ經タルモノハ北海道廳長官ノ許可ヲ得テ有限責任又ハ保證責任ト爲スコトヲ得

第三條 産業組合ハ二十人以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第四條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ三箇年以内ノ期限ヲ以テ組合創業費ノ一部又ハ全部ヲ其ノ組合ニ貸與スルコトヲ得

第五條 出資ハ勞務ヲ以テ其ノ目的ト爲スコトヲ得

第六條 組合員ノ出資口數ハ一口トス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ十口以下ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得

第七條 組合ノ理事ハ三名以上監事ハ二名以上トス但シ北海道廳長官ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條 理事ハ總組合員ノ承諾アルニ非サレハ組合ト同一ノ事業ヲ目的トスル他ノ組合ノ理事ト爲ルコトヲ得ス

第九條 組合ハ毎事業年度ノ終リ迄ニ總會ノ決議ヲ經テ左ノ事項ヲ北海道廳支廳長ニ報告スヘシ

一 次年度ニ於ケル業務施行ノ方針

二 次年度ニ於ケル負債額ノ最高限度

三 信用組合ニ在テハ次年度ニ於テ組合員ニ貸付シ得ヘキ金額ノ最高限度

前項第二號ノ負債額ノ最高限度ハ現在負債額ヲ合シテ之ヲ定メ其ノ年度内ハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第十條 組合ハ組合員ノ脱退シタル場合ニ於テモ出資ノ外其ノ持分ヲ拂戻スコトヲ得ス

第十一條 存立時期ヲ定メタル組合ニ於テハ其ノ組合員ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外總組合員ノ同意アルニ非サレハ脱退スルコトヲ得ス

第十二條 組合ハ組合員ノ數二十人以下ニ減シタルトキハ解散ス

第十三條 登記及届出ニ關シ産業組合法ニ於テ定メタル二週間ノ期間ハ本令ニ於テハ之ヲ三週間ト

ス

第十四條 産業組合法ニ定メタル郡長ノ職務ハ支廳長之ヲ行フ

附 則

本令施行ノ期日ハ内務大臣之ヲ定ム

○産業組合ニ關スル打合并ニ報告事項 明治三十三年七月十三日 内訓農發第一三一號 (道廳府縣)

一 産業組合ノ設立ヲ許可シタルトキハ定款ヲ添ヘ其ノ旨ヲ報告スヘシ定款ノ變更ヲ認可シタルトキハ亦同シ

二 出資一口ノ金額五十圓ヲ超ユルモノアルトキハ組合ノ設立ヲ許可シ又ハ定款ノ變更ヲ認可スル前意見ヲ具シテ指揮ヲ請フヘシ

三 市町村以上ノ區域ニ依リ信用組合ノ設立ヲ許可シタルトキハ事由ヲ具シ其旨報告スヘシ

四 組合ノ事業報告書ヲ受ケタルトキハ其謄本ヲ差出スヘシ

五 組合ノ解散ヲ命セントスルトキハ其事由ヲ具シテ指揮ヲ請フヘシ

六 組合ノ解散ヲ命シタルトキハ遲滞ナク管轄登記所ニ其旨ヲ通知スヘシ

七 産業組合法施行前ニ設立シタル組合ニシテ其ノ名稱中ニ産業組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ユルモノアルトキハ法律ノ規定ニ從ヒ新ニ設立ノ許可ヲ申請セシムルカ然ラサレハ其名稱ヲ變更セシムヘシ

○農會法 明治三十二年六月八日 法律第一〇三號

- 第一條 農會ハ農事ノ改良發達ヲ計ル爲メニ設立スルモノトス
 - 第二條 農會ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第三條 農商務大臣ハ其ノ定ムル所ノ條件ヲ具備スル農會ニ補助金ヲ交付スルコトヲ得
 - 第四條 農會ニ補助スル金額ハ北海道又ハ一府縣ヲ通シテ一箇年四千圓ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 第五條 農會補助ノ爲メ國庫ヨリ支出スル金額ハ一箇年十五萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス
- 附則
- 第六條 本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○農會令 明治三十三年二月十日 勅令第三〇號

- 第一條 農會ハ市町村農會、郡農會、北海道農會及府縣農會トス
本令ニ依リテ設立シタル農會ニ非サレハ前項ニ掲ケタル名稱ヲ附スルコトヲ得ス
- 第二條 市町村農會ノ區域ハ市町村又ハ町村組合ノ區域ニ依リ郡農會ノ區域ハ郡ノ區域ニ依リ北海道農會又ハ府縣農會ノ區域ハ北海道又ハ府縣ノ區域ニ依ル
町村農會ニ在リテハ特別ノ事由アルトキハ前項ノ區域ニ依ラサルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ郡長ノ認可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ
- 北海道ニ於テハ數郡ヲ以テ一郡農會ノ區域ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ北海道廳長官ノ認可ヲ經テ其ノ區域ヲ定ムヘシ
- 第三條 市町村農會ハ其ノ區域内ニ於テ耕地又ハ牧場ヲ所有スル者及農業ヲ營ム者ヲ以テ之ヲ組織シ郡農會ハ其ノ區域内ノ町村農會ヲ以テ之ヲ組織シ北海道農會又ハ府縣農會ハ其ノ區域内ノ郡農會及市農會ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條 市町村農會ヲ設立スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 會員ノ數第三條ノ資格ヲ有スル者ノ二分ノ一以上ナルコト
 - 二 其ノ區域内ニ於テ會員ノ占有又ハ所有スル耕地及牧場ノ面積カ私用ニ供スル耕地及牧場ノ總面積ノ二分ノ一以上ナルコト
- 北海道、沖繩縣、小笠原島及伊豆七島ニ於テハ前項第二號ノ條件ヲ要セス
- 第五條 郡農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ町村及町村組合總數ノ二分ノ一以上タルコトヲ要ス
- 府縣農會ヲ設立スルニハ之ヲ組織スル農會ノ數其ノ區域内ノ郡市總數ノ二分ノ一以上タルコトヲ要ス

北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ハ農商務大臣之ヲ定ム

第六條 北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ニ加入セサルモノニ對シ之カ加入ヲ命スルコトヲ得但シ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 農會ノ設立者ハ會則ヲ定メ市町村農會ニ在リテハ五名以上ノ委員、其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ會長ヨリ之ヲ行政廳ニ差出シ農會設立ノ認可ヲ受クヘシ

- 第八條 會則ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 名稱
- 二 事業
- 三 事務所
- 四 役員ノ職務權限、選任及任期ニ關スル規定

五 會議ニ關スル規定
 六 會費ノ分賦收入ニ關スル規定
 七 財産ニ關スル規定
 八 庶務及會計ニ關スル規定
 九 入會及退會ニ關スル規定
 十 會則ノ變更ニ關スル規定
 十一 解散ニ關スル規定

會則ノ變更ハ行政廳ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セズ

第九條 那農會、北海道農會又ハ府縣農會ヲ設立シタルトキハ之カ會議ニ參列セシムル爲其ノ農會ノ組織スル農會ニ於テ三名以内ノ代表者ヲ選舉スヘシ

第十條 農會ハ農事ニ功勞アル者又ハ農事ニ關シ學識經驗アル者ヲ名譽會員ト爲スコトヲ得

第十一條 農會ハ會長及副會長各一名ヲ置クヘシ
 會長ハ會務ヲ總理シ會ヲ代表ス
 副會長ハ會長ノ事務ヲ補助シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

第十二條 會長及副會長ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員中ヨリ其ノ他ノ農會ニ在リテハ第九條ノ代表者中ヨリ之ヲ互選ス但シ名譽會員中ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ妨ケズ

第十三條 農會ノ經費ハ市町村農會ニ在リテハ其ノ會員ノ負擔トシ其ノ他ノ農會ニ在リテハ之ヲ組織スル農會ノ負擔トス

第十四條 農會ノ事業年度ハ四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄トス

第十五條 農會ノ經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ハ毎年之ヲ議決シ二月末日迄ニ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 農會ハ毎年六月三十日迄ニ前年度ノ經費ノ決算及會務ノ狀況ヲ會員又ハ農會ニ公示シ且之ヲ行政廳ニ報告スヘシ

第十七條 農會ハ命令ノ定ムル所ニ依リ農事ニ關スル報告書ヲ作り之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第十八條 農會ハ農事ノ改良發達ニ關スル事項ニ付行政廳ニ建議スルコトヲ得

農會ハ行政廳ノ諮問ニ對シ答申スヘシ

第十九條 行政廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ農會ノ會務ノ狀況若ハ帳簿ヲ檢查シ又ハ農會ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ若ハ處分ヲ行フコトヲ得

第二十條 農會ノ決議又ハ其ノ役員ノ行爲カ法令若ハ會則ニ違背スルトキ又ハ公益ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣、其ノ他ノ農會ニ在リテハ地方長官ニ於テ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 決議ノ取消
 二 役員ノ解職
 三 事業ノ停止
 四 解散

解職セラレタル役員ハ二箇年間役員タルコトヲ得ス

第二十一條 農會ニ於テ解散ヲ議決シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條 農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ闕キタル場合ニ於テ六箇月以内ニ再ヒ之ヲ具備スルニ至ラサルトキハ解散ス

第二十三條 第七條、第八條第二項、第十五條、第十六條、第二十一條及第二十六條ノ行政廳ハ町村農會ニ在リテハ郡長トシ市農會及郡農會ニ在リテハ地方長官トシ北海道農會及府縣農會ニ在リテハ農商務大臣トス

附則

第二十四條 本令ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十五條 本令中郡トアルハ伊豆七島及島司ヲ置キタル島嶼、市トアルハ北海道沖繩縣ノ區、町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地方ニ於ケル町村ニ準スヘキ地ヲ包含ス
本令ノ規定ニ依リ郡長ノ行フヘキ職務ハ伊豆七島ニ於テハ東京府知事、北海道ニ於テハ支廳長、島司ヲ置キタル島嶼ニ於テハ島司之ヲ行フ

第二十六條 本令施行前ニ設立シタル農會ニシテ第四條又ハ第五條ニ定メタル要件ヲ具ヘ其ノ他本令ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本令施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ行政廳ノ認可ヲ受ケ本令ニ依リテ設立シタル農會ト看做スコトヲ得
前項ノ認可ヲ申請シタル農會ニシテ第一條ニ掲ケタル名稱ヲ有スルモノハ其ノ認可アル迄仍從前ノ名稱ヲ繼續スルコトヲ得

○農會令施行規則 明治三十三年三月十七日 省令第三號

第一條 農會設立ノ認可申請書ニハ農會令第四條又ハ第五條ニ定メタル條件ヲ具備スルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二條 役員ノ撰任又ハ變更アリタルトキハ遲滯ナク其氏名ヲ行政廳ニ届出ヘシ

第三條 農會設立ノ認可アリタルトキハ遲滯ナク經費ノ豫算及分賦收入ノ方法ヲ議決シ行政廳ノ認

可ヲ受クヘシ

第四條 農會ノ設立又ハ解散アリタルトキハ郡長ハ地方長官ニ、地方長官ハ農商務大臣ニ其旨ヲ報告スヘシ

第五條 地方長官農會令第二十條ノ處分ヲ爲シタルトキハ直チニ其事由ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
第六條 農會令第二十六條第一項ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其申請書ニ會則及經費ノ豫算並分賦收入ノ方法ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第七條 農會ヨリ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第八條 本則ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○農會補助金交付規則 明治三十三年三月十日 省令第二號

第一條 明治三十二年法律第百三號農會法ニ規定セル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ交付ス

第二條 補助金ハ北海道農會及ヒ府縣農會ニ之ヲ交付ス但正當ノ理由ニ因リ北海道農會若ハ府縣農會ヲ組織セス又ハ之ニ加入セサル郡農會ニ之ヲ交付スルコトアルヘシ

第三條 補助金ノ交付ヲ受ケタル北海道農會又ハ府縣農會ハ必要ナリト認ムルトキハ其農會ヲ組織スル郡農會ニ補助金ヲ支給スルコトヲ得

第四條 農會カ補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ十二月三十一日マテニ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

一 補助ヲ受ケントスル年度ノ事業方法書

二 財産目錄

三 收支概算書

四 申請ノ理由ヲ記載シタル書面

五 北海道農會及ヒ府縣農會ニ在リテハ其農會ヲ組織スル郡農會ノ收支概算書
前項第三號ノ收支概算書ニハ前年度豫算額及ヒ之ニ對スル比較増減ヲ示シ且其細目ニ付キ詳細ナル説明ヲ付スヘシ

第五條 補助金ハ月割ヲ以テ計算シ毎年四月及ヒ十月ニ各半年分ヲ交付ス

第六條 補助金ノ交付ヲ受ケタル農會ハ前年度ノ經費ノ決算及ヒ會場ノ狀況ヲ記載シタル書面ヲ調製シ六月三十日マテニ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第七條 農會カ其事業ヲ停止シタルトキハ農商務大臣ハ補助金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ補助金額ヲ減少スルコトヲ得

第八條 農會カ解散シタルトキハ農商務大臣ハ既ニ交付シタル補助金ヲ還納セシムルコトヲ得

附則

第九條 本則ハ農會法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十條 明治三十三年度ノ補助金ハ第四條ノ申請期限及ヒ第五條ノ交付期日ニ拘ハラズ之ヲ交付ス

○北海道ニ於ケル郡農會及北海道農會ヲ組織スヘキ農會ノ數ニ關スル件 明治三十三年六月九日 省令第一二號

第一條 北海道ニ於テ郡農會ヲ設立スルニハ其區域内ニ於ケル町村總數ノ三分ノ一以上ノ町村ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

第二條 北海道農會ヲ設立スルニハ北海道ニ於ケル郡總數ノ三分ノ一以上ノ郡ニ設立セラレタル農會ノ同意アルコトヲ要ス

○農會經費豫算書及經費決算書様式 明治三十三年十二月一日 告示第一二九號

北海這農會又ハ府縣農會カ農會令、農會令施行規則及ヒ農會補助金交付規則ノ規定ニ依リ農商務大臣ヘ差出スヘキ經費豫算書、經費概算書及ヒ經費決算書ノ様式左ノ通相定ム郡市農會又ハ町村農會カ行政廳ニ差出スヘキ經費豫算書、經費概算書及ヒ經費決算書ノ様式ハ之レニ準スルモノト心得ヘシ

某農會明治何年度經費收入豫算書

科	目	比較		說明
		本年度豫算高	前年度豫算高	
第一款 會費				
第一項 郡市農會負擔金				
第二款 雜收入				
第一項 財產收入				
第二項 不用品賣却代				
第三項 寄附金				
第三款 補助金				
第一項 國庫補助				
第二項 道府縣補助				

合 計		某農會明治何年度經費支出豫算書	
科 目	本年度豫算額	前年度豫算額	比 較
			增 減
第一款 事務所費			
第一項 役員報酬			
第二項 事務員俸給			
第三項 旅 費			
第四項 備品及消耗品			
第五項 雜 給			
第六項 雜 費			
第二款 會議費			
第一項 總會費			
第二項 評議員會費			
第三款 事業費			
第一項 技術員俸給			

第二項 技術員旅費									
第三項 品評會費									
第四項 試驗費									
第五項 講習費									
第六項 調查費									
第四款 會 報 費									
第一項 會報發行費									
第二項 會報配付費									
第五款 補 助 費									
第一項 某農會補助									
第二項 某事業費補助									
第六款 營 繕 費									
第一項 新 營 費									
第二項 修 繕 費									
第七款 豫 備 費									

第一項	豫備費								
合	計								

- 一 各項ニハ更ニ目ヲ設ケ經費ノ細目ヲ別記スヘシ
- 一 前掲款項中ニ包含シ能ハサル費用ニ付テハ別ニ款項ヲ設クルヲ妨ケス
- 一 補助ヲ受ケントスル農會カ補助金交付申請書ニ添付シ差出ス經費概算書ニ在リテハ本年度豫算額欄ヲ本年度概算額トス
- 一 經費決算書ニ在リテハ本年度豫算額欄ヲ決算額トシ前年度豫算額欄ヲ豫算額トス

○耕地整理法

明治三十二年三月二十日
法律第八二號

第一章 總則

- 第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ增進スル目的ヲ以テ其ノ所有者共同シテ土地ノ交換若ハ分合、區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠ノ變更廢置ヲ行フヲ謂フ
- 第二條 第五條、第九條、第十條、第十二條乃至第十六條、第二十六條、第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス
- 第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其ノ所有者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス
- 前項ノ土地ニシテ其ノ所有者ノ同意ナキト雖整理ノ施行ニ必要ナルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得但シ府縣、郡、市町村其ノ他公共團體ノ公用ニ供スル土地、宅地、名

勝地、舊蹟地、古墳墓地、墳墓地、社寺境内地、鐵道用地及軌道用地ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其ノ建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第五條 御料地、國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第六條 整理施行ヲ發起セントスル者又ハ整理委員ハ市町村長ノ證明ヲ得テ整理地區ヲ管轄スル登記所、土地臺帳所管廳又ハ市役所、町村役場ニ對シ無償ニテ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得

第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルモ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得但シ整理施行ノ爲溝渠、堤塘又ハ道路ノ敷地ニ充テタル土地ニ付テハ規約ヲ以テ補償ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第八條 整理施行ノ爲必要アルトキハ整理地區内ノ工作物、木石等ヲ移轉シ又ハ破毀スルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受ケタル者ハ整理ニ關シテ其ノ讓渡人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス

第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠、堤塘、道路等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ參加土地所有者ニ交付ス

整理地區内ニ開設シタル溝渠、堤塘、道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十一條 參加土地所有者ニハ従前ノ土地ノ地目、面積、等位等ヲ標準トシ換地ヲ交付スヘシ但シ地

目、面積、等位等ヲ以テ相殺ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テ從前ノ土地ト換地トノ價額ノ差ハ金錢ヲ以テ之ヲ清算ス

數筆ノ土地ヲ分合シテ換地ヲ交付スル場合ニ於テハ其ノ換地ハ各筆毎ニ之ヲ割當ツヘシ

第十二條 整理地區ニ市町村以上ニ渉ル場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ土地ハ二市町村以上ニ渉ルコトヲ得ス

第十三條 整理施行中土地ノ區劃形狀ノ變更及道路、畦畔若ハ溝渠等ノ變更廢置ハ地目變換又ハ開墾ト看做サス

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其ノ地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スルマテ從前ノ地域、地目、地價ニ依リテ之ヲ徵收ス

第十五條 整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第十六條 整理施行ヲ爲シタル爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登錄ヲ爲ストキハ登錄稅ヲ免除ス

第十七條 本法ニ於テ參加土地所有者ト稱スルハ整理地區内ニ於テ第五條ノ土地ニアラサル土地ヲ所有スル者ヲ謂フ

第十八條 整理地區ノ屬スル市町村及其ノ隣接市町村ニ住所ヲ有セサル參加土地所有者ハ其ノ市町村内ニ住所ヲ有スル者ニ委任シテ整理施行ニ關スル一切ノ行爲ヲ代理セシムルコトヲ得

參加土地所有者前項ノ代理人ヲ定メタルトキハ發起人又ハ整理委員ニ其ノ氏名住所ヲ通知スヘシ代理人ハ二人以上ノ參加土地所有者ヲ代理スルコトヲ得ス

第十九條 發起人又ハ整理委員ハ第二十二條第二十六條第四十條及第四十八條ノ認可アリタルトキハ其ノ旨ヲ公告シ且之ヲ第四條ニ依ル建物所有者及土地又ハ建物ニ付登記ヲ爲シタル第三權利者ニ通知スヘシ第三十條乃至第三十二條ノ命令アリタルトキ亦同シ

第二章 發起及監督

第二十條 整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルコト
- 二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト
- 三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價額整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト

前項ノ條件ヲ具備シタルトキハ發起人ハ整理施行ヲ發起スル旨ヲ市町村長ニ届出ヘシ

第二十一條 發起人ハ發起ノ爲必要アルトキハ市町村長ノ認許ヲ得テ他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得但シ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第二十二條 發起人ハ設計書及規約ヲ作り地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出シ發起ノ認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 設計書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 整理ニ因リテ得ヘキ利益
 - 二 整理施行ノ方法及順序
 - 三 整理地區及之ニ隣接スル土地ノ現形圖
 - 四 整理豫定圖
 - 五 工事ノ著手及竣成ノ時期
 - 六 整理費用及夫役ノ豫算
- 第二十四條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 整理總會ノ招集及會議ノ方法

- 二 整理委員ノ員數、職務及職務執行方法
 - 三 處務ニ關スル規定
 - 四 補償金評定ノ標準
 - 五 發起及整理ノ費用並夫役ノ賦課徵收方法
 - 六 整理中土地使用ノ方法
 - 七 換地割當及増歩地處分ノ方法
- 第二十五條 發起ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創業總會ヲ召集シテ設計書及規約ノ議定ヲ求ムヘシ
- 第二十六條 創業總會ニ於テ設計書及規約ヲ議定シタルトキハ發起人ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ之ヲ差出シ整理施行ノ認可ヲ申請スベシ
- 第二十七條 整理施行ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滞ナク創業總會ヲ召集スヘシ此ノ總會ニ於テハ參加土地所有者整理委員ヲ互選ス
- 第二十八條 參加土地所有者ハ整理施行ノ認可ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス但シ第三條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ所有者ハ認可公告ノ日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ニ訴願ヲ爲スコトヲ得
- 訴願ノ裁決前ニ於テハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス
- 第二十九條 整理施行ノ認可アリタルトキト雖第三條第二項ノ規定ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地アルトキハ認可公告ノ日ヨリ三十日ヲ經過スルニアラサレハ整理工事ニ著手スルコトヲ得ス
- 第三十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ設計書又ハ規約ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第三十一條 設計書ニ定メタル工事著手ノ期限後十二箇月以内ニ工事ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

臣ハ整理施行ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第三十二條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ一時整理工事ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三章 總會

第三十三條 總會ハ參加土地所有者ヲ以テ之ヲ組織ス

第三十四條 總會ヲ召集スルニハ會日ヨリ五日前ニ各參加土地所有者ニ通知ヲ發スヘシ

前項ノ通知ニハ總會ノ目的及ヒ總會ニ於テ決議スヘキ事項ヲ記載スヘシ

參加土地所有者ハ前二項ノ手續ニ反シテ爲シタル決議ニ對シ異議ヲ述フルコトヲ得但シ其ノ決議ノ日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十五條 總會ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外整理委員之ヲ召集ス

第三十六條 參加土地所有者ノ五分ノ一以上ニ當ル者又ハ整理地區ノ總面積若ハ地價總額ノ五分ノ一以上ニ當ル參加土地所有者ハ會議ノ目的及其ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ召集ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ發起人又ハ整理委員ハ十四日以内ニ總會ヲ召集スヘシ

第三十七條 各參加土地所有者ハ一箇ノ議決權ヲ有ス

前項ノ規定ハ規約ヲ以テ一人ニ付二箇以上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ妨ケス但シ其ノ議決權ハ議決權總數ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十八條 整理地區ニ編入シタル土地數人ノ共有ニ屬スルトキハ其ノ共有者ハ參加土地所有者ノ權利ヲ行フヘキ者一人ヲ定ムヘシ

第三十九條 農商務大臣ノ命令ニ依ラスシテ設計書若ハ規約ヲ變更シ又ハ整理施行ヲ停止若ハ廢止セントスルトキハ總會ノ決議ヲ經ヘシ

前項ニ依リ整理施行ノ停止若ハ廢止ノ決議ヲ爲ストキハ同時ニ其ノ停止中若ハ廢止後ノ處分方法ヲ決議スヘシ

第四十條 前項ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 創業總會ノ決議並第三十九條、第四十七條及第五十三條ノ決議ヲ爲スニハ第二十條第一項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第四章 整理委員

第四十二條 整理委員三人以上ナルトキハ委員長一人ヲ互選スヘシ
委員長ハ整理委員ヲ代表ス

第四十三條 整理委員ハ規約ニ定メタル職務ヲ執行スルニ付參加土地所有者ヲ代表ス

第四十四條 整理委員ハ設計書及規約ノ定ムル所ニ依リ整理施行ノ責ニ任ス

第四十五條 整理委員ハ設計書、規約及總會ノ決議録ヲ備ヘ置クヘシ
參加土地所有者及第三權利者ハ前項ノ書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十六條 農商務大臣ハ何時ニテモ整理委員ヲシテ整理事業ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十七條 整理工事完了シタルトキハ整理委員ハ第十一條ノ處分及増歩地ノ處分ニ關シ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

第四十八條 前條ノ決議アリタルトキハ整理委員ハ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十九條 所有權ニ關スル訴訟ノ目的タル土地ヲ整理地區ニ編入シ又ハ整理地區ニ編入シタル土地其ノ所有權ニ關スル訴訟ノ目的ト爲リタル場合ニ於テ其ノ土地ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ

補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ當事者ノ請求ニ因リ其ノ金額ヲ供託スヘシ

第五十條 整理施行ノ爲土地又ハ建物ニ付登記又ハ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ整理委員ハ參加土地所有者ニ代リテ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十一條 整理事業完了シタルトキハ整理委員ハ事業報告書及收支決算書ヲ作り整理總會ノ承認ヲ求ムヘシ

整理總會前項ノ承認ヲ爲シタルトキハ整理委員ハ遲滯ナク地方長官ヲ經由シテ前項ノ書類ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第五十二條 整理委員其ノ職務ヲ終リタルトキハ整理ニ關スル一切ノ書類ヲ市町村長ニ引渡スヘシ
前項ノ書類ノ保存期間ハ農商務大臣之ヲ定ム

第五十三條 整理委員ノ選任及解任ハ總會ノ決議ニ依ル

第五十四條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理委員ノ改選ヲ命スルコトヲ得

第五十五條 整理委員ハ總會ノ決議ヲ經テ特別ノ學術技藝アル者ヲ協議員ト爲スコトヲ得
協議員ハ總會ニ出席シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第五章 第三權利者

第五十六條 第三權利者ハ整理ノ施行ニ對シテ異議ヲ述フルコトヲ得ス

第五十七條 換地ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除ク外從前ノ土地ニ關スル物權又ハ債權ノ目的タルモノトス

整理施行ハ從前ノ土地ニ關スル登記ノ順位ニ影響ヲ及ボサス

第五十八條 整理地區ニ編入シタル土地ニシテ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ其ノ所有者第十一條ノ規定ニ依リ補償トシテ金錢ヲ受取ルヘキトキハ整理委員ハ其ノ金額ヲ供託ス

ヘシ
先取特権者、質権者又ハ抵當権者ハ前項ノ規定ニ依リテ供託シタル金銭ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第五十九條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲賃借ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但シ第四十八條ノ認可ノ公告アリタル日ヨリ三十日ヲ經過シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場合ニ於テ各當事者ハ相手方ニ對シテ解除ニ由リテ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六十條 賃借地整理地區ニ編入セラレタル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ土地ヲ利用スルコト能ハサルトキハ賃借人ハ貸賃人ニ對シテ借賃ノ減額又ハ前拂シタル借賃ノ相當ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

第六十一條 整理地區ニ編入シタル土地ニ地上權者又ハ永小作權者アル場合ニ於テ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ設定シタル目的ヲ達スルコト能ハサルトキハ地上權者又ハ永小作權者ハ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

民法第二百六十八條第一項但書ノ規定ハ地上權者前項ノ規定ニ依リテ其ノ權利ヲ拋棄シタル場合ニ之ヲ適用セス

第五十九條第一項但書ノ規定ハ地上權又ハ永小作權ノ拋棄ニ之ヲ準用ス

第六十二條 第六十條ノ規定ハ地上權及永小作權ニ之ヲ準用ス

第六十三條 整理地區ニ編入シタル土地ノ上ニ存スル地役權ハ整理施行ノ後仍其ノ土地ノ上ニ存ス地役權者カ整理施行ノ爲其ノ權利ヲ行使スル利益ヲ受クルコトヲ要セサルニ至リタルトキハ其ノ

地役權ハ消滅ス

整理施行ノ爲從前ト同一ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル地役權者ハ其ノ利益ヲ保存スル範圍内ニ於テ地役權ノ設定ヲ要求スルコトヲ得

第六章 費用

第六十四條 費用及夫役ハ規約ノ定ムル所ニ依リテ參加土地所有者之ヲ負擔ス

第六十五條 參加土地所有者費用ヲ完納セサルトキハ市町村長ハ整理委員ノ請求ニ因リ市町村稅徵收ノ方法ニ準シテ之ヲ徵收ス

參加土地所有者夫役ヲ供給セサルトキハ整理委員ハ金額ニ算出シテ之ヲ徵收ス此ノ徵收ニ付テ亦前項ノ規定ニ依ル

第七章 罰則

第六十六條 發起人又ハ整理委員左ノ各號ニ該當スル場合ニ於テハ二圓以上五十圓以下ノ過料ニ處ス

一 第十九條ノ規定ニ違反シテ公告又ハ通知ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

二 第二十八條第一項又ハ第二十九條ノ規定ニ違反シテ整理工事ニ著手シタルトキ

三 第三十六條第二項ノ規定ニ違反シテ總會ヲ招集セサルトキ

四 第三十九條及第四十條ノ手續ニ依ラスシテ整理施行ヲ停止シ又ハ廢止シタルトキ

第六十七條 前條ニ定メタル過料ニ付テハ非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ヲ準用ス

第六十八條 整理施行ノ爲設ケタル標石又ハ標杭ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル場合ニ於テ刑法第四百二十條ニ該當セサル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八章 附則

第六十九條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第七十一條 北海道、沖繩縣及市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ノ耕地整理ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

○耕地整理法施行期日ノ件 明治三十三年一月十二日 勅令第四號

耕地整理法ハ明治三十三年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

○耕地整理法施行規則 明治三十二年十二月二十六日 省令第三三號

第一條 整理地區内ニ於テ土地ヲ所有スル者ニ非サレハ整理施行ヲ發起スルコトヲ得ス但地方ノ狀況ニ依リ特別ノ事情アルトキハ此限ニ在ラス

第二條 耕地整理法第六條ノ規定ニ依リ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求メントスル者ハ其理由ヲ記載シタル書面ニ市町村長ノ證明書ヲ添付シ之ヲ差出スヘシ

第三條 發起人ハ參加土地原簿及ヒ參加土地權利者名簿ヲ調製スヘシ

第四條 參加土地原簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 整理地區ノ總面積及ヒ地價總額
二 整理地區内ニ於ケル土地ノ筆數、面積及ヒ地價ノ地目別合計並ニ一筆平均面積

三 土地各筆ノ字、番號、地目、面積、地價及等位
四 土地各筆ノ價格ヲ評定シタルトキハ其價格又ハ評價ノ標準

五 耕地整理法第三條ニ定メタル土地アルトキハ其價值用途

六 整理地區内ノ工作物アルトキハ其表示及ヒ價格

七 訴訟ノ目的タル土地アルトキハ其訴訟ノ要領

八 官用又ハ公用ニ供スル土地アルトキハ其用途

第五條 參加土地權利者名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 各參加土地所有者ノ氏名、住所及ヒ其所有地ノ字、番號並ニ地目

二 整理地區内ノ工作物ノ所有者ノ氏名、住所及ヒ其工作物ノ表示

三 土地又ハ建物ニ付キ登記ヲ爲シタル第三權利者アルトキハ其氏名、住所及ヒ其登記ノ要領

四 耕地整理法第十八條ニ依ル代理人ノ氏名、住所

第六條 參加土地原簿又ハ參加土地權利者名簿ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ更正スヘシ

第七條 耕地整理法第二十條第一項第一號ノ土地所有者ノ數ヲ計算スルニ付テハ共有者ハ之ヲ一人ト看做ス

第八條 耕地整理法第二十條第一項第二號ノ整理地區ノ總面積ヲ計算スルニ付テハ御料地及ヒ國有地ハ之ヲ算入セス

第九條 耕地整理法第二十條第一項第三號ノ整理地區ノ地價額ヲ計算スル場合ニ於テ整理地區内ニ地類若クハ地目ノ變換ヲ爲シタル土地又ハ開墾地其他地價ヲ附セサル土地アルトキハ發起人ハ其現況ニ依リ整理地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ價格ヲ評定スヘシ
發起人カ前項ノ規定ニ依リ價格ヲ評定シタルトキハ其價格及ヒ其評定ノ標準ヲ創業總會ニ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第十條 發起人ハ整理地區ノ屬スル市町村内ニ事務所ヲ設クヘシ

事務所ニハ參加土地原簿、參加土地權利者名簿、設計書、規約及ヒ總會ノ決議録ヲ備ヘ置クヘシ

第十一條 整理施行ノ發起届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人之ニ署名捺印スヘシ

一 整理地區及ヒ之ニ隣接スル土地ノ現形略圖

二 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ總數、整理地區ノ總面積及ヒ地價總額

三 同意者ノ總數、其所有スル土地ノ總面積及ヒ地價總額

四 事務所ノ所在

第十二條 發起人カ耕地整理法第二十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入ラントスルトキハ其目的、場所、期日及ヒ土地所有者ノ氏名ヲ記載シタル願書ヲ作り之ヲ市町村長ニ差出スヘシ

發起人カ市町村長ノ認許ヲ得タルトキハ豫メ土地所有者ニ立入ノ目的、場所及ヒ期日ヲ通知スヘシ

第十三條 整理發起ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ發起人之ニ署名捺印スヘシ

一 第四條第二號乃至第五號及ヒ第十一條第二號乃至第四號ニ掲ケタル事項

二 整理施行後ニ於ケル土地ノ筆數及ヒ面積地目別ノ合計並ニ一筆平均面積

三 同意者ノ氏名、其所有スル土地ノ面積及ヒ地價

四 耕地整理法第三條第二項ノ規定ニ依リ所有者ノ同意ナクシテ整理地區ニ編入シタル土地又ハ特ニ整理ヨリ除外シタル土地アルトキハ其編入又ハ除外ノ理由

前項ノ申請書ニハ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十四條 耕地整理法第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ整理地區編入ノ同意又ハ認許ヲ要スル土地ニ付テハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其同意又ハ認許ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ但國有ニ屬ス

ル森林原野、道路、堤塘、溜池及ヒ溝渠ニ付テハ整理發起ノ認可申請ト共ニ整理地區編入ノ認許ヲ申請スルコトヲ得

第十五條 整理工事カ府縣、郡、市、町村其他ノ公共團體ノ事業ニ關スルトキハ發起人ハ整理發起ノ認可申請書ニ其團體ノ承認ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第十六條 創業總會ニ於テ設計書ヲ變更シタルトキハ前二條ノ書面ハ整理施行ノ認可申請書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

前項ノ規定ハ整理施行ノ認可アリタル後設計書ヲ變更シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 發起人ハ特別ノ技能アル者ニ設計書及ヒ規約ノ作成ヲ囑託スルコトヲ得

第十八條 整理地區及ヒ之ニ隣接スル土地ノ現形圖並ニ整理豫定圖ハ全圖及ヒ切圖ニ分チテ之ヲ作ルヘシ

切圖ニハ土地各筆ノ番號、地目及ヒ面積ヲ記入スヘシ

第十九條 土地ノ價格評定ノ標準ヲ定メタルトキハ之ヲ規約ニ記載スヘシ

第二十條 整理費用ヲ借入レントスルトキハ其借入、管理及ヒ償却ノ方法ヲ規約ニ記載スヘシ

第二十一條 整理發起ノ認可ノ公告及ヒ通知ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 整理地區ノ所在

二 發起認可ノ年月日

三 事務所ノ所在

四 發起人ノ氏名、住所

第二十二條 耕地整理法第二十五條ノ創業總會ニ於テハ發起人ハ發起ニ關スル一切ノ事項ヲ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第二十三條 整理施行ノ認可申請書ニハ發起認可證及ヒ總會ノ決議録ノ謄本ヲ添附シ發起人之署名捺印スヘシ

第二十四條 整理施行ノ認可ノ公告及ヒ通知ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 第二十一條ニ掲ケタル事項

二 整理工事ノ著手及ヒ竣成ノ時期

三 整理施行ノ認可ノ年月日

第二十五條 發起人ハ創業總會ノ決議録ヲ作り之ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 開會ノ日時及ヒ場所

二 出席シタル參加土地所有者ノ氏名

三 議事ノ要領

四 決議シタル事項

五 賛否ノ數及ヒ賛成者ノ氏名

第二十六條 發起人ハ整理ニ關スル一切ノ書類及ヒ事務ヲ整理委員ニ引繼クヘシ

第二十七條 總會ノ決議ハ耕地整理法又ハ規約ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外出席シタル參加土地所有者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第二十八條 參加土地所有者ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得但參加土地所有者ニ非サレハ代理人タルコトヲ得ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ發起人又ハ整理委員ニ差出スヘシ

第二十九條 耕地整理法第四十條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ決議録ノ謄本ヲ添附シ整理委員之署名捺印スヘシ

第三十條 總會ノ決議認可ノ公告及ヒ通知ニハ決議シタル事項及ヒ認可ノ年月日ヲ記載スヘシ

第三十一條 整理委員及ヒ整理委員長ハ履歷書ヲ添附シ其氏名、住所ヲ農商務大臣ニ届出テ且之ヲ公告スヘシ

第三十二條 整理委員ノ任期ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ス

第三十三條 整理委員ハ規約ニ別段ノ定アルニ非サレハ報酬ヲ受クルコトヲ得ス

第三十四條 整理工事ニ著手シタルトキハ整理委員ハ其旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第三十五條 耕地整理法第二十八條ノ規定ニ依リ訴願ヲ爲シタル者ハ其旨ヲ整理委員ニ通知スヘシ

第三十六條 總會ノ決議録ニハ第二十五條ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

第三十七條 整理委員ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ從ヒ地價配當案ヲ作り耕地整理法第四十七條ノ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

第三十八條 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依ル認可申請書ニハ總會ノ決議録ノ謄本及ヒ整理確定圖ヲ添附シ整理委員之署名捺印スヘシ

耕地整理法第十一條第二項ノ規定ニ依リ換地ヲ割當ツル場合ニ於テハ從前ノ土地ノ各筆ニ相當スル換地ノ方位及ヒ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ

從前ノ一筆ノ土地ノ一部カ登記シタル第三權利者ノ權利ノ目的タル場合ニ於テハ之ニ代ハルヘキ部分ノ方位及ヒ面積ヲ整理確定圖ニ示スヘシ

第三十九條 前條ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ地價配當案ニ整理確定圖ヲ添附シ所轄稅務管理局長ニ差出シ地價ノ配賦ヲ受クヘシ

第四十條 農商務大臣必要ト認ムルトキハ整理事業ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十一條 整理地區内ノ土地又ハ建物ニ關シ登記ヲ爲シタルトキハ登記權利者ハ遲滞ナク其旨ヲ

發起人又ハ整理委員ニ通知スヘシ

第四十二條 整理ニ關スル書類ノ保存期間ハ左ニ掲ケルモノニ付テハ十年トシ其他ノモノニ付テハ五年トス

- 一 設計書
- 二 規約
- 三 總會ノ決議錄
- 四 事業報告書
- 五 收支決算書
- 六 參加土地原簿
- 七 參加土地權利者名簿
- 八 整理確定圖

第四十三條 第三十一條及ヒ耕地整理法第十九條ノ規定ニ依リ公告ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ少ナクモ三日間整理地區ノ屬スル市役所又ハ町村役場ノ揭示場ニ揭示スヘシ

第四十四條 發起人、整理委員又ハ參加土地所有者カ書面ヲ農商務大臣ニ差出ストキハ地方長官ヲ經由スヘシ

第四十五條 第三條乃至第六條、第十五條、第十六條第二項、第十八條、第三十四條、第三十九條、第四十條及ヒ前條ノ規定ハ一人ニシテ其所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

附則

第四十六條 地方長官カ地方ノ狀況ニ依リ整理施行ノ方法又ハ工事ノ設計ニ關スル標準ヲ定メントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十七條 本則ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○整理委員稅務管理局長へ申告事項 明治三十三年六月十四日 省令第一四號

耕地整理法ニ依リ整理施行ノ認可アリタルトキハ整理委員ハ工事ニ著手スル前左ノ事項ヲ所轄稅務管理局長ニ申告スヘシ爾後其事項ニ變更ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一 整理地區ノ屬スル郡、市、町村及ヒ土地各筆ノ字、番號 國有地 段別
- 二 整理施行又ハ設計變更認可ノ年月日
- 三 工事著手及ヒ竣成ノ豫定期

○耕地整理法及同法施行規則ニ掲ケタル參加土地原簿、參加土地權利者名簿及圖面樣式、雛形ノ件 明治三十三年四月六日 告示第二八號

一 參加土地原簿ハ甲、乙、丙、丁及戊ノ五部ニ分チ甲部(第一號樣式)ニハ耕地整理法施行規則第四條第一號及第二號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ乙部(第二號樣式)ニハ同條第三號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ丙部(第三號樣式)ニハ同條第六號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ丁部(第四號樣式)ニハ同條第七號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ戊部(第五號樣式)ニハ同條第五號及第八號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

二 參加土地權利者名簿ハ土地所有者ノ部、工作物所有者ノ部及第三權利者ノ部ノ三部ニ分チ土地所有者ノ部(第六號樣式)ニハ耕地整理法施行規則第五條第一號及第四號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ工作物所有者ノ部(第七號樣式)ニハ同條第二號ニ掲ケタル事項ヲ記載シ第三權利者ノ部(第八號樣式)ニハ同條第三號ニ掲ケタル事項ヲ記載スヘシ

三 整理地區及之ニ鄰接スル土地ノ現形全圖(雜形第一號)ニハ左ノ事項ヲ示スヘシ

- (一) 重ナル道路、溝渠、堤塘、橋梁等
- (二) 市、町、村、大字、字等ノ境界
- (三) 土地ノ地目別
- (四) 整理地區ノ境界
- (五) 切圖ノ區分並其番號

四 整理地區及之ニ鄰接スル土地ノ現形切圖(雜形第二號)ニハ前項第二號乃至第四號ノ外左ノ事項ヲ示スヘシ

- (一) 一切ノ道路、溝渠、堤塘、橋梁等
- (二) 土地各筆ノ區劃及面積
- (三) 土地各筆ノ番號
- (四) 耕地整理法第三條第二項ニ依リ所有者ノ同意ナクシテ整理地區ニ編入シタル土地及訴訟ノ目的タル土地アルトキハ符號ヲ以テ之ヲ圖面ニ示スヘシ

五 整理豫定全圖(雜形第三號)ニハ第三項ニ掲ケタル事項同切圖(雜形第四號)ニハ第三項第二號乃至第四號及第四項第一號第二號ニ掲ケタル事項ヲ示スヘシ

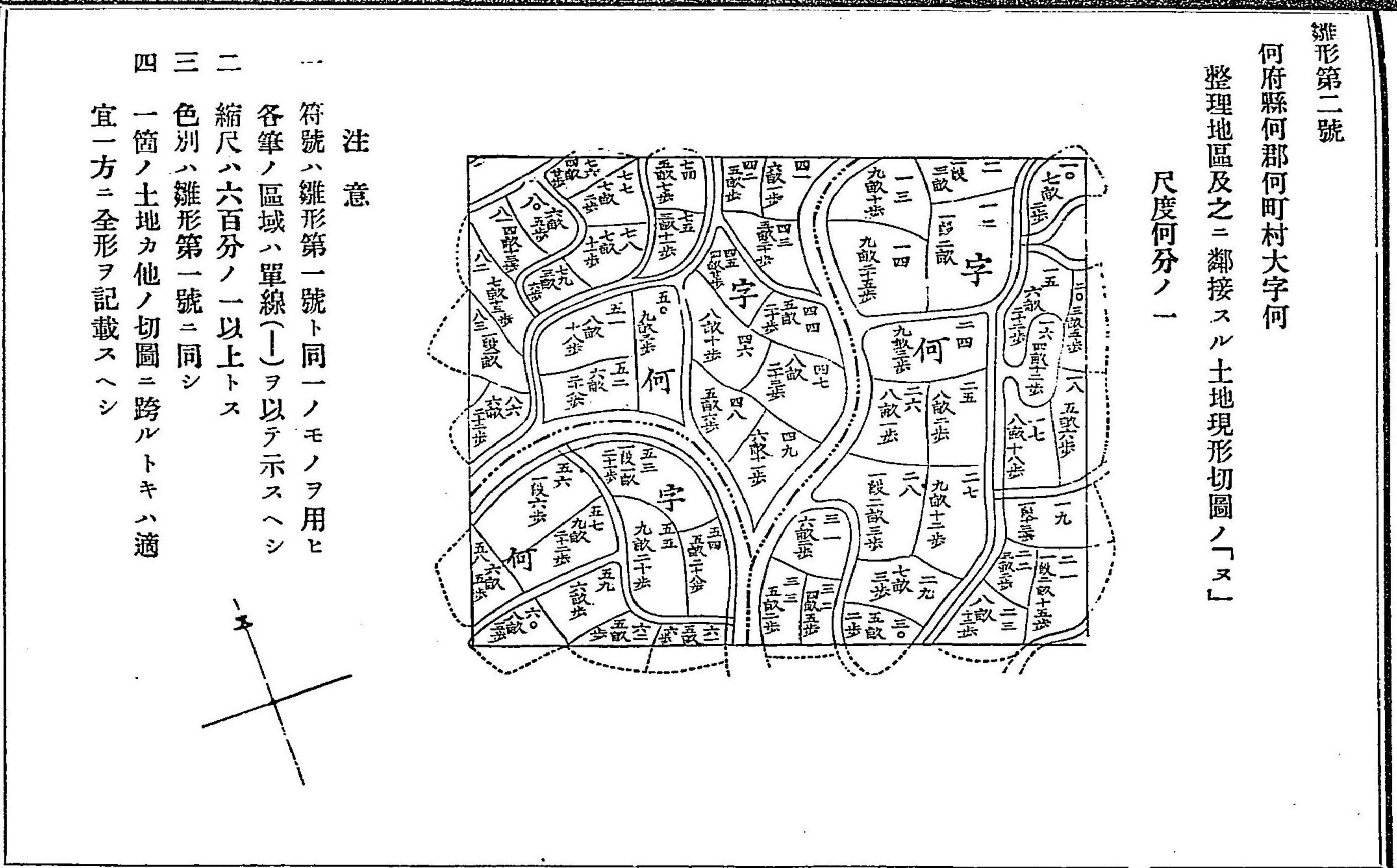
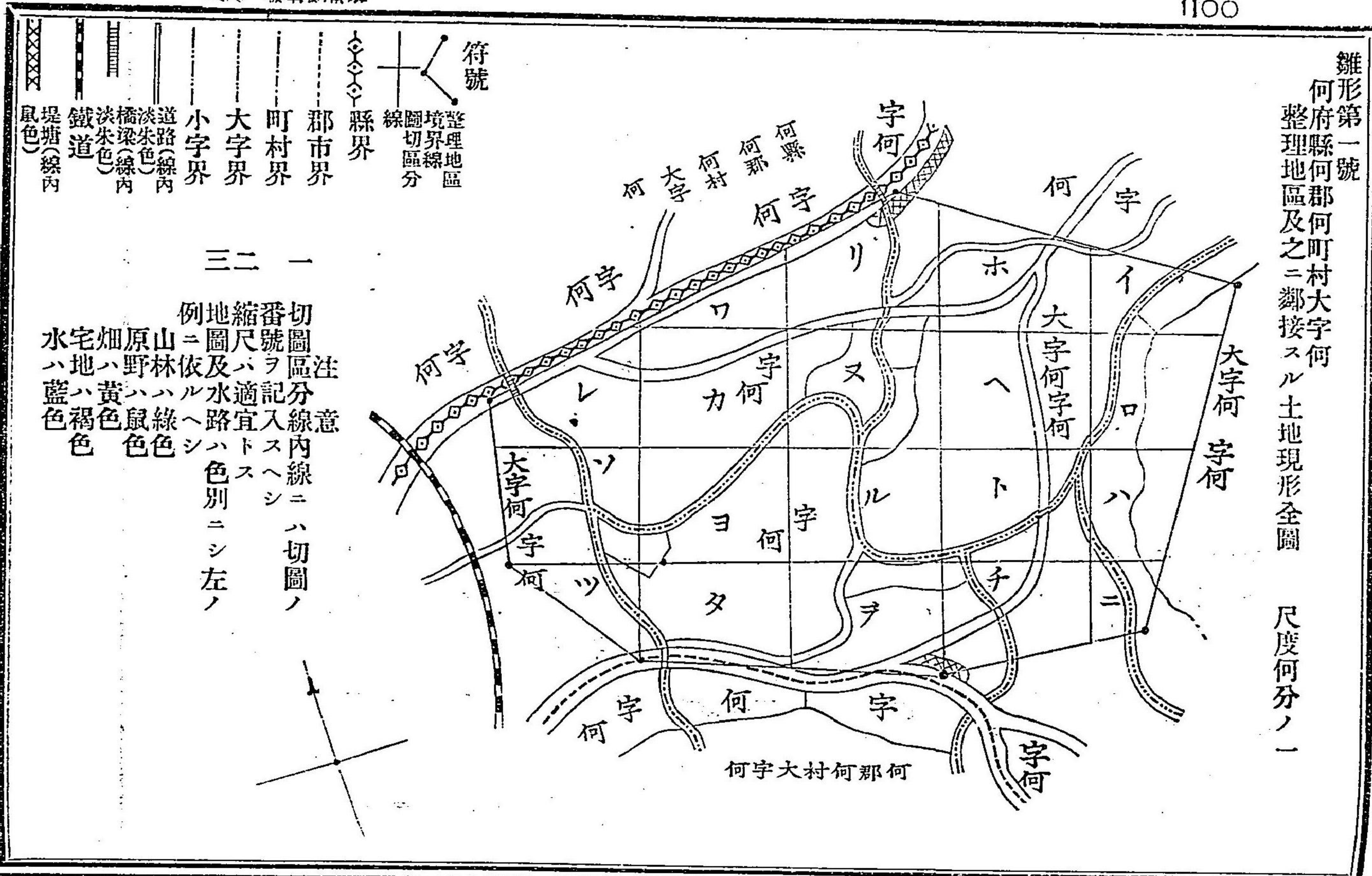
六 整理確定全圖(雜形第五號)ニハ第三項ニ掲ケタル事項同切圖(雜形第六號)ニハ第三項第二號乃至第四號及第四項第一號第二號ニ掲ケタル事項ノ外土地各筆ノ番號ニ代ルヘキ符號ヲ示シ之ニ換地割當圖及換地説明書ヲ添付スヘシ

換地割當圖ハ整理確定圖切圖ノ區分ニ從ヒ切圖(雜形第七號)ト爲シ第三項第二號乃至第四號及第四項第一號ニ掲ケタル事項ノ外土地各筆ノ區劃及從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分、面積並其部分ノ符號ヲ示スヘシ

換地説明書(第九號様式)ニハ整理確定切圖ニ基ツキ從前ノ土地ト換地トヲ對照説明スヘシ

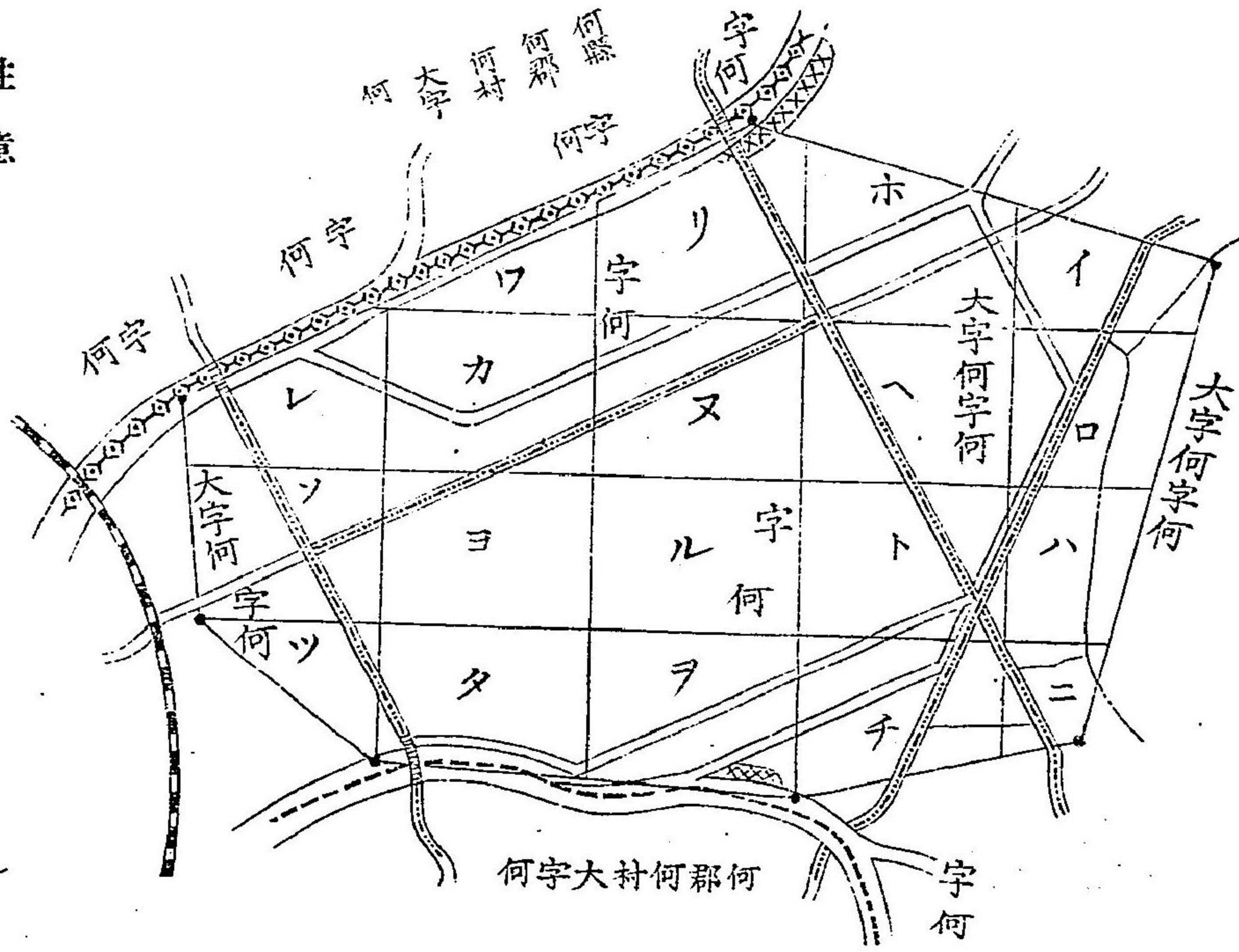
第一號

地目	面積	積地	價筆數	一筆平均面積
田				
畑				
宅地				
山林				
牧場				
原野				
池沼				
道路				
溝渠				
畦畔				
何々				

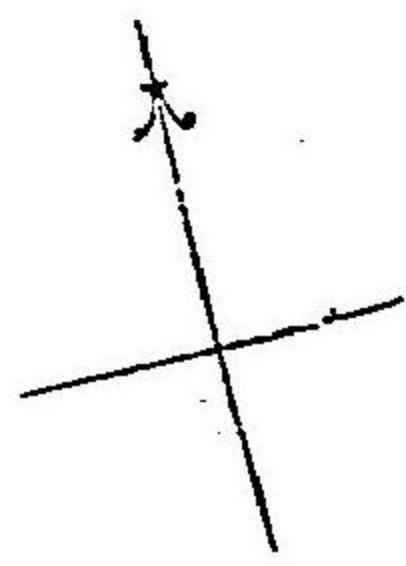


雛形第三號

何府縣何郡何町村大字何
整理豫定全圖
尺度何分ノ一

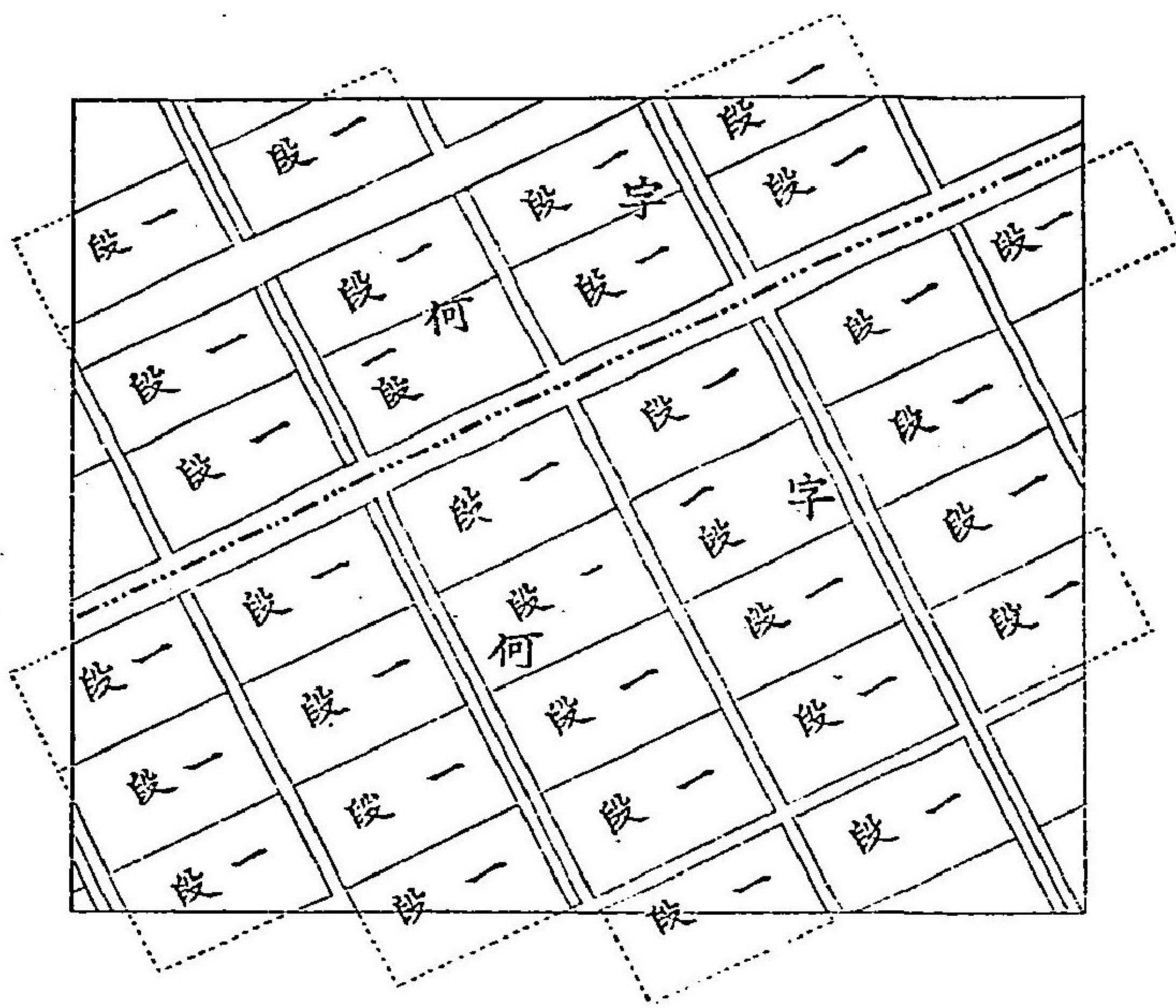


- 注意
- 一 符號ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユヘシ
 - 二 切圖區分線内ニハ切圖ノ番號ヲ記入スヘシ
 - 三 縮尺ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユヘシ
 - 四 色別ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユヘシ

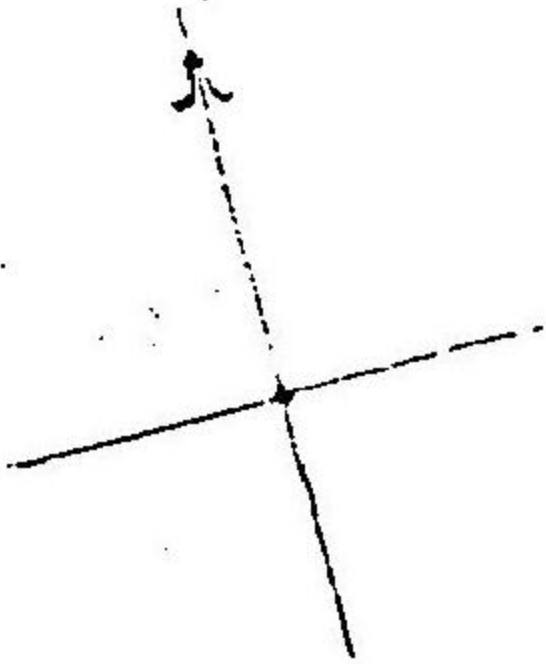


雛形第四號

何府縣何郡何町村大字何
整理豫定切圖ノ「ヌ」
尺度何分ノ一



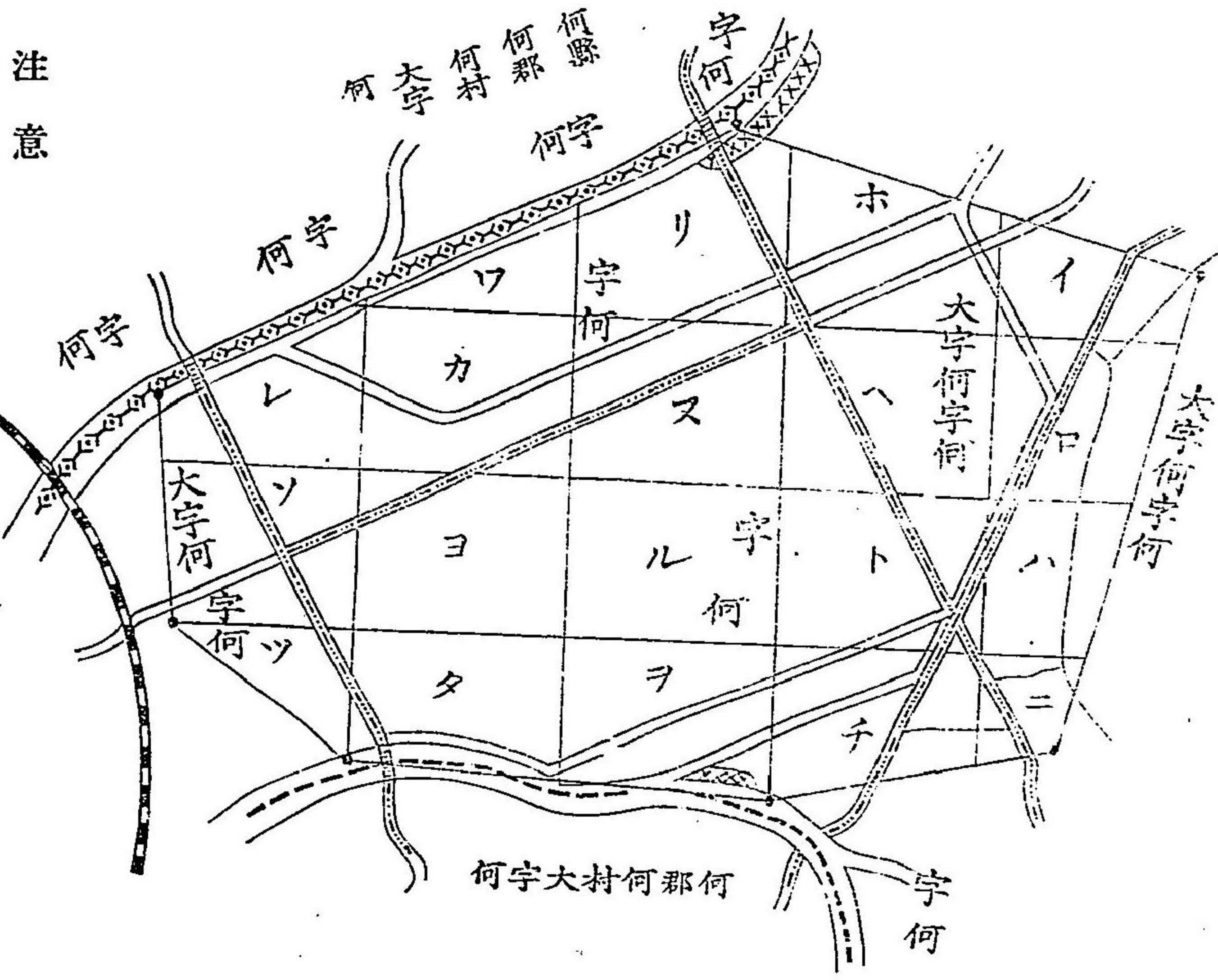
- 注意
- 一 符號ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ヒ
土地ノ區劃ハ單線(一)ヲ以テ示スヘシ
 - 二 縮尺ハ雛形第二號ト同一ノモノヲ用ユ
ヘシ
 - 三 色別ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユ
ヘシ
 - 四 一箇ノ土地カ他ノ切圖ニ跨ルトキハ適
宜一方ニ全形ヲ記載スヘシ



雛形第五號

何府縣何郡何町村大字何
整理確定全圖
尺度何分ノ一

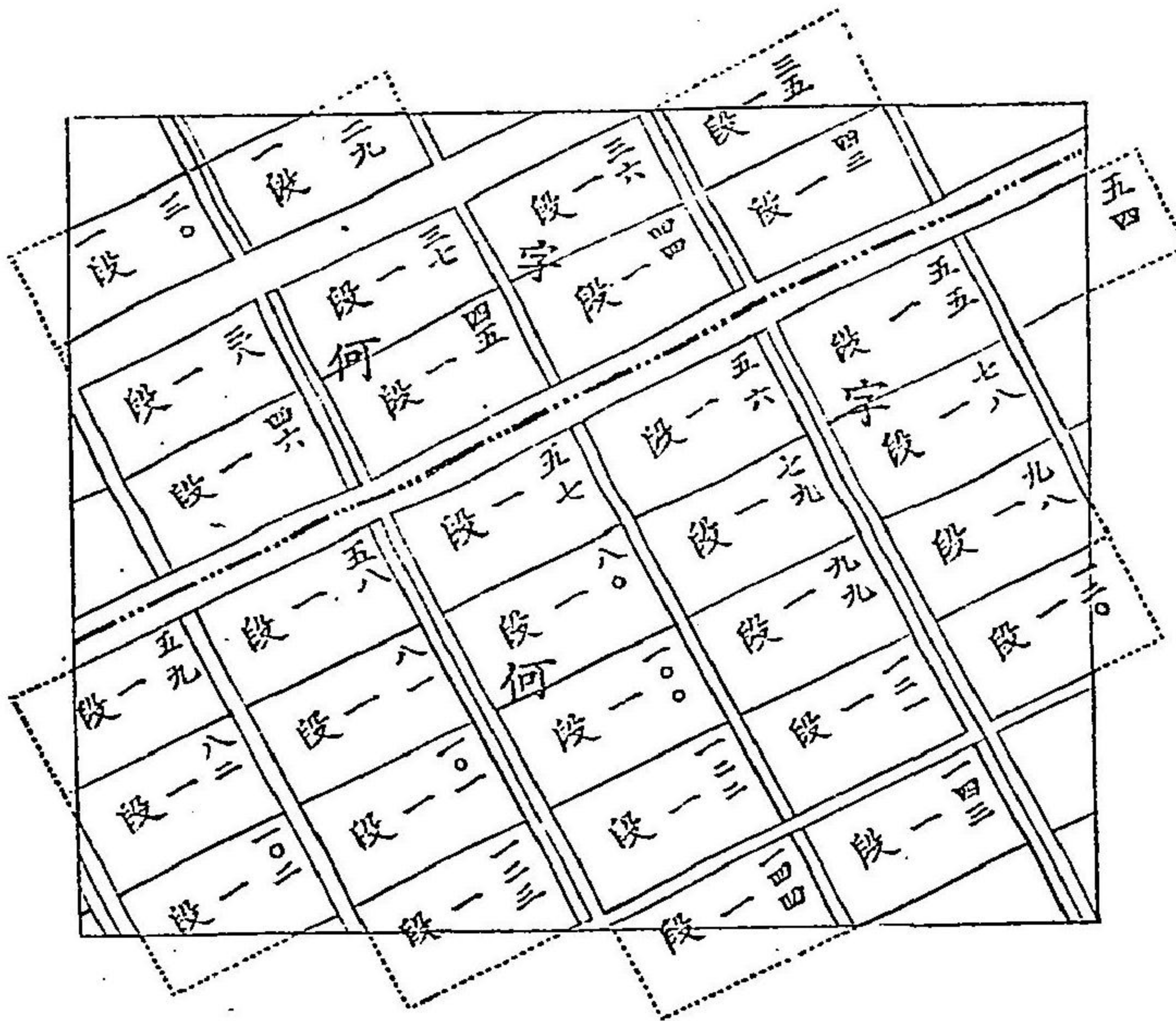
- 一 符號ハ雛形第一號
- 二 切圖區分線内ニハ切圖ノ番號ヲ記入ス
- 三 縮尺ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユ
- 四 色別ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユ



雛形第六號

何府縣何郡何町村大字何
整理確定切圖ノ「ヌ」
尺度何分ノ一

- 一 符號ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ヒ
- 二 土地ノ區劃ハ單線(一)ヲ以テ示スヘシ
- 三 縮尺ハ雛形第二號ト同一ノモノヲ用ユ
- 四 色別ハ雛形第一號ト同一ノモノヲ用ユ
- 五 一箇ノ土地カ他ノ切圖ニ跨ルトキハ適宜一方ニ全形ヲ記載スヘシ

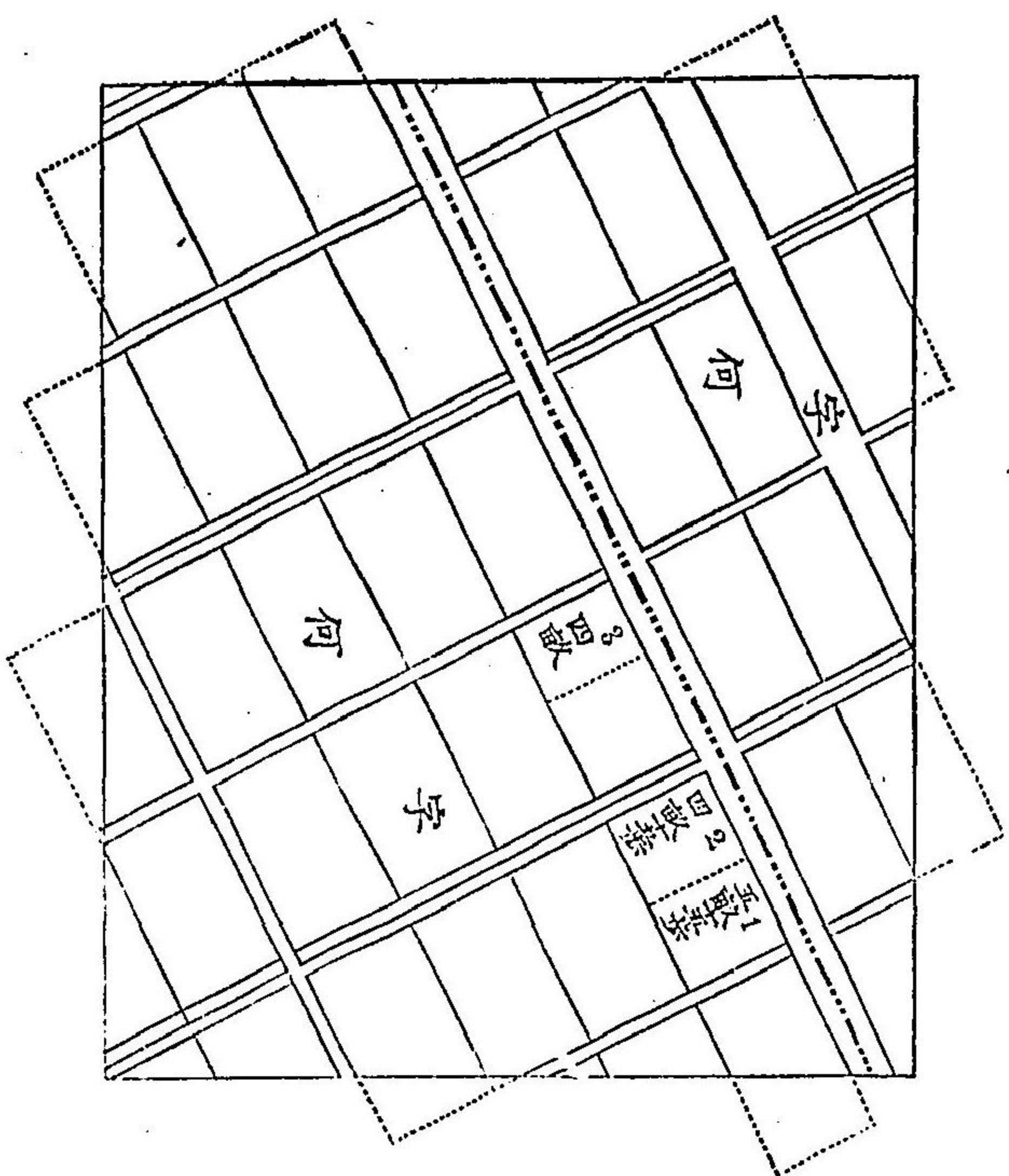


雜形第七形

何府縣何郡何町村大字何

換地割當切圖ノ尺

尺度何分ノ一



- 注意
- 一 符號ハ雜形第一號ト同一ノモノヲ用ヒ
 - 二 土地ノ區劃ハ單線(一)ヲ以テ示スヘシ
 - 三 縮尺ハ雜形第二號ト同一ノモノヲ用ユ
 - 四 色別ハ雜形第一號ト同一ノモノヲ用ユ
 - 五 一箇ノ土地カ他ノ切圖ニ跨ルトキハ適宜ニ方ニ全形ヲ記載スヘシ

參照

○整理地登記規則 明治三十三年一月十一日 勅令第二號

第一條 耕地整理法ニ依リ整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ本令ニ別段ノ定アルモノヲ除クノ外不動産登記法ノ規定ニ依ル

第二條 整理ヲ施行シタル從前ノ土地既登記ナルトキハ整理委員ハ耕地整理法第四十八條ノ認可アリタルコトノ公告及通知ヲ爲シタル後遲滞ナク登記ヲ申請スルコトヲ要ス從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ヲ交付シタル場合ニ於テ其ノ數箇ノ土地中ニ既登記ノモノアルトキ又ハ從前ノ土地未登記ナルモ整理施行ノ後換地ノ上ニ既登記ノ地役權存続スルトキ亦同シ

第三條 前條ノ登記ヲ申請スルニハ左ノ書面ヲ提出スルコトヲ要ス

- 一 申請書
- 二 耕地整理法第四十八條ノ規定ニ依ル農商務大臣ノ認可證又ハ證認アル認可證ノ謄本
- 三 整理確定圖
- 四 代理人ニ依リテ登記ヲ申請スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面

第四條 申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ整理委員又ハ其ノ代理人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

- 一 從前ノ土地及換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號
- 二 從前ノ土地及換地ノ地目、段別又ハ坪數
- 三 從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ部分、段別又ハ坪數及其ノ部分ノ符號
- 四 換地ノ交付ヲ受ケタル者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所
- 五 耕地整理ニ因リ登記ヲ申請スル旨

六 登記所ノ表示

七 年月日

第五條 從前ノ土地既登記ナルト未登記ナルトヲ問ハス換地ノ上ニ既登記ノ地役權存續スル場合ニ於テハ申請書ニ前條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス但シ地役權換地ノ一部ノミニ存スルトキハ其ノ部分ヲ表示シタル圖面ヲ添付スルコトヲ要ス

一 整理施行前ニ於ケル換地ノ所在ノ郡、市、區、町村、字及土地ノ番號

二 整理施行前ニ於ケル換地ノ地目、段別又ハ坪數

三 整理施行前ニ於ケル換地ノ所有者ノ氏名及住所若法人ナルトキハ其ノ名稱及事務所

四 地役權ノ存スル換地ノ部分及其ノ部分ノ符號

第六條 換地ノ一部所有權以外ノ權利ヲ除ク目的タル場合ニ於テハ申請書ニ第四條ニ掲ケタル事項ノ外權利ノ目的タル換地ノ部分及其ノ符號ヲ記載スルコトヲ要ス

第七條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

所有權以外ノ權利ヲ除ク從前ノ土地ノ一部ニ存スル場合ニ於テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地中權利ノ目的タリシ部分ニ割當テタル換地ノ部分ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ變更シタル旨ヲ附記シ從前ノ土地中權利ノ目的タリシ部分ノ表示ヲ朱抹スルコトヲ要ス

從前ノ土地ニ關スル權利ニシテ他ノ土地ニ關スル權利ト共ニ先取特權、質權又ハ抵當權ノ目的タル場合ニ於テ耕地整理ニ因リテ他ノ土地ニ關スル權利ノ表示ニ變更ヲ生シタルトキハ登記官吏ハ

職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ變更ヲ附記スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ不動産登記法第二百二十六條ノ規定ヲ準用ス

換地ニ地役權ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ從前ノ土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ其ノ登記ヲ移シ其ノ登記ノ末尾ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス但シ耕地整理ニ因リ其ノ登記中ニ記載シタル要役地若ハ承役地ノ表示、地役權ノ範圍又ハ地役權ノ存スル土地ノ部分ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ變更ヲ附記シ地役權ノ存スル部分ノ表示ヲ爲シ變更シタル事項ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ地役權ニ關スル登記アル土地ノ登記用紙中丙區事項欄ニ耕地整理ニ因リテ地役權ニ關スル登記ヲ登記何號ニ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ前ノ登記ヲ朱抹シ捺印スルコトヲ要ス

第八條 參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ數箇ノ土地中其一箇ノ登記用紙中表示欄ニ換地、換地ヲ從前ノ土地ニ割當テタル部分及整理施行前ニ於ケル從前ノ土地ノ表示ヲ爲シ他ノ登記用紙ニ登記シタル從前ノ土地ニ付テハ其ノ登記番號ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ其ノ登記用紙ニ於ケル前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタルトキハ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ耕地整理ニ因リテ登記何號ニ移シタル旨ヲ記載シ前ノ表示、其ノ番號及登記番號ヲ朱抹シ其ノ登記用紙ヲ閉鎖スルコトヲ要ス

第九條 前條ノ場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ移シ其ノ登記ハ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ノミニ關スル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スル

コトヲ要ス

換地ノ一部未登記ノ從前ノ土地ニ割當テタルモノアル場合ニ於テハ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中甲區事項欄ニ其ノ換地ノ部分ニ付所有權保存ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

他ノ從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利^{地役權ヲ除ク}ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ表示ヲ爲シタル登記用紙中相當區事項欄ニ其ノ權利ニ關スル登記ヲ移シ從前ノ土地ニ割當テタル換地ノ某部分ノ其ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記何號ヨリ移シタル旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十條 參加土地所有者從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於テハ登記官吏ハ從前ノ土地ノ登記用紙中表示欄ニ一箇ノ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ前ノ表示及其ノ番號ヲ朱抹スルコトヲ要ス

從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利^{地役權ヲ除ク}ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ相當區事項欄ニ他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十一條 前條ノ場合ニ於テハ登記官吏ハ他ノ各換地ニ付登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載スルコトヲ要ス

換地ノ登記用紙中甲區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ所有權ニ關スル登記ヲ轉寫シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨、申請書受附ノ年月日及受附番號ヲ記載シ登記官吏捺印スルコトヲ要ス
從前ノ土地ノ登記用紙ニ所有權以外ノ權利^{地役權ヲ除ク}ニ關スル登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ換地ノ登記用紙中相當區事項欄ニ從前ノ土地ノ登記用紙ヨリ其ノ權利ニ關スル從前ノ登記ヲ轉寫

シ且從前ノ土地ニ割當テタル他ノ換地ニ關スル權利ノ表示ヲ爲シ其ノ權利ト共ニ所有權以外ノ權利ノ目的タル旨、耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨及其ノ年月日ヲ記載シ捺印スルコトヲ要ス

第十二條 第七條第二項乃至第五項ノ規定ハ參加土地所有者從前ノ土地數箇ニ對シ一箇ノ換地ノ交付ヲ受ケ又ハ從前ノ土地一箇ニ對シ數箇ノ換地ノ交付ヲ受ケタル場合ニ於ケル登記ニ之ヲ準用ス

第十三條 未登記ノ從前ノ土地ニ對スル換地ニ地役權ノ登記アル場合ニ於テハ登記官吏ハ職權ヲ以テ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追ヒテ新ナル番號ヲ記載シ表示欄ニ換地ノ表示ヲ爲シ耕地整理ニ因リテ登記ヲ爲ス旨ヲ記載シ甲區事項欄ニ所有權保存ノ登記ヲ爲シ且丙區事項欄ニ地役權ニ關スル登記ヲ移スコトヲ要ス

第十四條 登記官吏登記ヲ完了シタルトキハ其ノ旨ヲ整理委員ニ通知スルコトヲ要ス

第十五條 登記官吏第十三條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタルトキハ換地及之ニ割當テタル從前ノ土地ノ表示、耕地整理ニ因リテ所有權及地役權ニ關スル登記ヲ爲シタル旨ヲ換地ノ所有者ニ通知スルコトヲ要ス

第十六條 從前ノ土地舊登記簿ニ登記シタルモノナル場合ニ於テ第八條第二項ノ手續ヲ爲スヘキトキハ舊登記簿ニ其ノ登記ヲ爲スコトヲ得

第十七條 耕地整理法第二條ノ規定ニ依リ一人ニシテ其ノ所有地ノ整理ヲ施行シタル場合ニ於テ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ整理施行ニ關スル農商務大臣ノ認可證又ハ認證アル認可證ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

附則

本令ハ耕地整理法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○肥料礦物調査所官制 明治三十四年四月九日 勅令第四六號

第一條 肥料礦物調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ肥料用礦物ニ關スル調査及試験ノ事務ヲ掌ル

第二條

技師

技師

書記

所長 專任三人

技師 專任五人

書記 專任二人 判任

第三條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第五條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○肥料ノ分析鑑定ニ關スル職員ノ件 明治三十四年四月九日 勅令第四五號

肥料ノ分析鑑定ヲ爲サシムル爲農務試驗場ニ專任技師二十人ヲ置ク

○肥料礦物調査所處務規程 明治三十四年四月十九日 訓令第九號

第一條 肥料礦物調査所ハ肥料礦物ニ關スル調査及試験ヲ爲シ原料ノ產出應用ヲ圖ルヘシ

第二條 所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス

第三條 所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第四條 所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル雇員ノ採用及解免ヲ專行スルコトヲ得

第五條 所長ハ判任官以下ノ歸省看護養參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第六條 所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得

第七條 事業上至急所員ノ出張ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ限り所長ニ於テ臨機出張ヲ命シ同時ニ其事由ヲ記シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八條 肥料礦物ニ關スル調査試驗等ノ爲メ旅費ヲ負擔シ所員ノ出張ヲ申出ツル者アルトキ日數十

日以内ナルトキハ所長之ヲ許否シ農商務大臣ニ報告シ日數十日ヲ超ユルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

第十一條 所長ハ肥料礦物調査及試験ノ順序方法ヲ定メ豫メ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十二條 所長ハ調査及試験ノ要領ヲ每年少ナクモ二回以上農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 調査及試験ハ各擔任者ニ於テ終了ノ上直チニ其成績ヲ所長ニ提出スヘシ

第十四條 肥料礦物ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り應答スヘシ

○肥料礦物調査所長委任條件 明治三十四年六月一日 人發第一二六號
一 標本又ハ備品ヲ内國博覽會共進會其他類似ノ會及府縣廳ノ稟請ニ對シ出陳又ハ貸與ノ件

- 二 寄贈ノ圖書標本等ノ領收證及謝狀發送ノ件
- 三 一廉金貳百圓ヲ超ヘサル印刷物ノ調製、物件ノ賣買貸借、人夫ノ雇傭及建設物ノ新營修繕ノ件
- 四 官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等金額五拾圓以內處理ノ件
- 五 所員ニ事務分擔命免ノ件
- 六 所員一週間以內欠勤屆處理ノ件
- 七 金額百圓以內現金前渡ノ件
- 八 所員地方巡回ニ際シ必要ト認ムルトキハ其順路指定ノ件
- 九 官役人夫死傷者ニ療養料、扶助料、及埋葬料ヲ成規ニ據リ定額内ヲ以テ給與ノ件
- 十 定備夫ノ備罷及賞與ノ件

○肥料取締法 明治三十二年四月五日
法律第九七號

- 第一條 此ノ法律ニ於テ肥料ト稱スルハ農産物ノ肥養ニ供スル物料ヲ謂フ
- 第二條 肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣セムトスル者ハ地方長官(東京府ハ警視總監)ノ免許ヲ受クヘシ
- 第三條 地方長官(東京府ハ警視總監)ハ何時タリトモ官吏ヲ派シテ肥料ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第四條 前項ニ依リ臨檢ヲ爲ス官吏ハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ
- 第五條 肥料ノ製造販賣者又ハ販賣者ハ前條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ検査ノ爲必要ナル肥料ノ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

- 第五條 第二條ニ違背シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第六條 第四條ニ違背シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 肥料ヲ偽造若ハ他ノ物料ヲ混和シテ販賣シ又ハ情ヲ知テ之ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ肥料ハ沒收ス
- 第八條 第四條ニ違犯シ又ハ第七條ノ刑ニ處セラレタル者ハ行政廳ニ於テ其ノ營業ヲ停止シ若ハ禁止スルコトヲ得
- 第九條 此ノ法律施行ノ爲必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 附 則
- 第十條 此ノ法律施行期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○肥料取締法施行期日ノ件 明治三十四年五月二十日
勅令第一一〇號

肥料取締法ハ明治三十四年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

○肥料取締法施行規則 明治三十四年五月二十一日
省令第五號

- 第一條 肥料ノ製造販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官(東京府ハ警視總監)ニ差出スヘシ
 - 一 製造場及ヒ販賣所ノ位置
 - 二 肥料ノ名稱
 - 三 原料ノ種類
 - 四 肥料ノ製造方法

肥料ノ販賣ノ免許ヲ受ケントスル者ハ販賣所ノ位置及ヒ肥料ノ名稱ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前二項ニ掲ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ其認可ヲ受クヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者其氏名、住所ヲ變更シ又ハ其營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ其旨ヲ届出ヘシ相續ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三條 左ノ肥料ヲ製造販賣シ又ハ輸入販賣スル者ハ保證票ニ肥料ノ名稱、肥料百分中ノ主成分量及ヒ自己ノ氏名、住所ヲ記載シ之ヲ肥料ノ各容器又ハ各箇ニ附スヘシ

一 過磷酸石灰、重過磷酸石灰、沈澱磷酸石灰、硝酸鹽類、「アンモニヤ」鹽類、加里鹽類其他理化學的方法ニ依リ製造シタル肥料

二 骨粉、骨炭末、骨灰、肉粉、血粉、「トーマス」磷肥其他特ニ粉碎シタル肥料

三 菜種油糟及ヒ綿實油糟

四 前各號ノ肥料ヲ調合シ又ハ之ヲ以テ主タル材料トシタル肥料

前項ノ規定ハ容器ヲ變更又ハ改造シテ肥料ヲ販賣スル者ニ之ヲ準用ス保證票喪失シ又ハ著シク毀損シタル場合亦同シ

主成分量ハ窒素ニ在リテハ全窒素及ヒ硝酸性又ハ「アンモニヤ」性窒素ノ量トシ磷酸ニ在リテハ全磷酸水ニ溶解スル磷酸及ヒ枸橼酸「アンモニヤ」ニ溶解スル磷酸ノ量トス

第四條 前條第一項ニ掲ケサル肥料ト雖モ保證票ヲ附セシムルノ必要アリト認メタルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ指定スルコトヲ得

第五條 製造販賣又ハ販賣ヲ營業トスル者ハ帳簿ヲ備ヘ肥料ヲ讓渡ス毎ニ其名稱、數量及ヒ知レタル相手方ノ氏名、住所ヲ記載スヘシ

前項ノ帳簿ハ之ニ最終ノ記載ヲ爲シタル日ヨリ二年間之ヲ保存スヘシ

第六條 製造販賣又ハ輸入販賣ヲ營業トスル者ハ毎年一月三十一日マテニ前年中ニ販賣シタル肥料ノ種類別ノ數量及ヒ價額ヲ地方長官ニ届出ヘシ

第七條 検査ノ爲メ必要ナル肥料ヲ採取セントスルトキハ製造販賣者又ハ販賣者ノ立會ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

採取シタル肥料ハ二分シ之ヲ各別ノ容器ニ密封シ之ニ肥料ノ名稱、製造販賣者又ハ販賣者ノ氏名、採取ノ年月日及ヒ場所ヲ記載シ官吏及ヒ立會人之ニ記名封印スヘシ

第八條 検査ノ爲メ採取スヘキ肥料ノ總量ハ一種ニ付キ一貫以下トス

第九條 肥料ノ検査ニ從事スル官吏ハ何時ニテモ第五條ノ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 第一條第三項、第二條、第三條、第五條若クハ第六條ニ違背シタル者又ハ帳簿ノ検査ヲ拒ミタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

地方長官第四條ニ依リ保證票ヲ附スヘキ肥料ヲ指定シタル場合ニ於テ保證票ヲ附セスシテ之ヲ販賣シタル者亦同シ

附 則

第十一條 本則ハ肥料取締法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 肥料取締法施行前ヨリ肥料ヲ製造販賣シ又ハ之ヲ販賣スル者其營業ヲ繼續セントスルトキハ其施行ノ後二週間内ニ本則第一條ノ願書ヲ差出スヘシ

○肥料検査ノ爲メ必要ナル分析鑑定ニ付キ心得方ノ件明治三十四年八月十七日
勅令第二二號

一 肥料検査ノ爲メ必要アルトキハ農事試験場本支場ニ肥料ノ分析鑑定ヲ請求スルコトヲ得

- 二 分析鑑定ヲ請求スルトキハ肥料取締法施行規則第七條ニ依リテ肥料ヲ密封シタル容器ノ一箇ヲ送付スヘシ
- 三 肥料分析請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 肥料ノ名稱
 - 二 分析ヲ要スル成分
 - 三 生産者又ハ製造販賣者ノ氏名、住所、輸入肥料ニ在リテハ輸入販賣者ノ氏名、住所
 - 四 肥料鑑定請求書ニハ前項第一號及ヒ第三號ニ掲ケタル事項ノ外鑑定ヲ要スル事項ヲ記載スヘシ
 - 五 本令ニ依リテ分析鑑定ヲ請求スル場合ニ於テハ手数料ヲ納付スルコトヲ要セス
 - 六 分析鑑定ヲ要スル肥料ノ送付ニ關スル費用ハ其廳府縣ニ於テ肥料検査費中ヨリ之ヲ支辨スヘシ

○害虫驅除豫防法

明治二十九年三月二十四日
法律第一七號

- 第一條 此ノ法律ニ於テ害虫ト稱スルハ農作物ヲ害スル各種ノ虫類ヲ謂フ
- 第二條 驅除豫防スヘキ害虫ノ種類及驅除豫防ノ方法ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ府縣知事之ヲ定ム認可ヲ經タル種類以外ノ害虫發生シ急速ノ處分ヲ要スルトキハ府縣知事ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ
- 第三條 害虫田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ヲシテ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハサルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ之ヲ行ヒ市町村ヲシ

テ該作人ヨリ其ノ費用ヲ徴收セシムルコトヲ得其ノ費用ノ徴收ニ關シテハ市制第二百二條及町村制第二百二條ヲ適用ス

第四條 害虫蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若ハ害虫田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ府縣知事ハ市町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行フコトヲ得

第五條 府縣知事ハ前條ノ驅除豫防ノ爲ニ市町村ニ命シテ夫役ヲ市町村全部又ハ一部ノ田畑ノ作人及所有者ニ賦課セシムルコトヲ得

夫役ハ害虫ノ種類ニ依リテ田又ハ畑ニ區別シテ賦課スルコトヲ得

夫役ノ賦課ハ段別又ハ地價ヲ以テ準率ト爲スヘシ

夫役ハ各別ノ率ニ據リ小作人、自作人及地主ニ賦課スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ市制第二百二十三條及町村制第二百二十七條ヲ適用セス

第六條 府縣知事ハ驅除豫防ノ爲ニ必要アルトキハ市町村費ヲ以テ溝渠ヲ設ケ又ハ農作物、藁稈、刈株、雜草ヲ拔棄若ハ燒棄スルコトヲ得

本條ノ場合ニ於テハ第五條ノ規定ヲ適用ス

第七條 驅除豫防ノ必要ヨリ生シタル損害ニ對シ被害者ハ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第八條 土地所有者、管理者又ハ使用者ハ官吏及其ノ指揮ヲ承クル者ノ其ノ地ニ入り驅除豫防ニ從事スルヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 府縣知事又ハ郡長ハ必要ナル場合ニ於テハ府縣稅(地方稅)又ハ郡費ヲ以テ第三條、第四條、

第六條ノ費用ヲ補助シ若ハ驅除豫防ニ必要ナル器具ヲ給與シ又ハ貸與スルコトヲ得

第十條 虫類以外ノ動物ト雖農作物ヲ害スルトキ又ハ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ此ノ法律ヲ適用スルコトヲ得

第三十二年訓令
第八號ヲ以テ
第二條ヲ下ノ
如ク改正

第十一條 第三條ノ場合ニ於テ府縣知事ノ命令ニ從ハサル者ハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

第十二條 第六條及第八條ニ依レル官吏若ハ其ノ指揮ヲ承クル者ノ行爲ヲ妨害スル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金又ハ十一日以上二十日以下ノ重禁錮ニ處ス

第十三條 此ノ法律ハ北海道、沖繩縣其ノ他市制、町村制ヲ施行セサル島嶼ニ之ヲ施行セス別ニ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○害蟲驅除豫防法取扱手續 (府縣) 明治二十九年三月二十八日訓令第六號

第一條 害蟲驅除豫防法第二條第一項ニ依リ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類及驅除豫防ノ方法ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ各害蟲ニ付キ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 名稱、方言

二 主ナル被害農作物ノ種類

三 驅除豫防ノ方法

第二條 害蟲驅除豫防法第二條第二項ノ場合ニ於テモ本條ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添フヘシ

第三條 害蟲一市町村以上ニ蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキハ鄰接市町村ニ於テ同時ニ驅除豫防ヲ行フヘシ

第四條 害蟲鄰接府縣ニ蔓延セントスルノ虞アルトキハ其ノ旨ヲ關係府縣ニ急報スヘシ

第五條 二府縣以上ニ跨リ害蟲蔓延シタルトキハ關係府縣ハ臨時驅除豫防ノ方法ヲ議定シ施行區域ヲ定メ驅除ヲ行フヘシ此場合ニ於テハ府縣知事ハ其ノ區域及第一條第一項ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ具申スヘシ

第六條 害蟲驅除豫防法第十條ニ依リ蟲類以外ノ動物ニ對シ該法律ノ適用ニ付キ本大臣ノ認可ヲ請フトキハ本令第一條第一項ノ規定ヲ適用ス

第七條 害蟲發生シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ本大臣ニ急報スヘシ

第八條 害蟲蔓延シ若クハ蔓延ノ兆アリテ市町村費ヲ以テ之カ驅除豫防ヲ行フトキハ其ノ都度直ニ左ノ事項ヲ本大臣ニ報告スヘシ

一 害蟲ノ種類

一 郡市町村名

三 被害農作物ノ種類及被害見積段別

四 被害ノ狀況

第九條 毎年度ニ於テ市町村費ヲ以テ施行シタル害蟲驅除豫防ニ關スル事項ハ左ノ表式ニ依リ翌年四月二十日マテニ本大臣ニ報告スヘシ

家蟲驅除豫防報告様式 (各害蟲ニ付區分スヘシ)

害蟲名		被害町		同農作物ノ種類		同積段別		此年		積減收高		同市町村費		同夫同郡費		同上府縣補助額	
何市	何郡	村ノ數	物ノ種類	積段別	收獲高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高	積減收高

計

○害蟲驅除ニ付注意ノ件 (道廳府縣) 明治二十九年三月二十八日 訓令第五號
 害蟲ノ驅除ハ其發生ノ初期ニ於テ之ヲ行フヲ最モ効アリトス故ニ荷モ農作物ヲ害スル蟲類ノ發生シタル場合ニ於テハ農家ヲシテ其機ヲ失フコトナク務メテ之ヲ驅除ニ從事セシムヘシ

○農事試驗場官制 明治二十六年四月七日 勅令第一八號

二十九
三月
二十四日
勅令
第五十二號
ヲ以テ
第一條第
三項ヲ下
ノ如ク改
正ス

第一條 農事試驗場ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 農産ノ増殖改良ニ關スル試驗

二 巡回講話

三 土壤、肥料、農産物、農産製造品其ノ他農業上ニ關係アル物料ノ分析鑑定

技師

技手

書記

第三條 場長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ場中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ヲ掌ル專任技師ハ三十八人ヲ以テ定員トス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ場務ニ從事ス專任技手ハ二十五人ヲ以テ定員トス

第六條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス專任書記ハ十三人ヲ以テ定員トス

三十二年三月
勅令第八八號
ヲ以テ各條ノ
定員ヲ下ノ如
ク改正ス

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムル地ニ農事試驗支場ヲ置キ農事試驗場職員ヲ派シ本場ノ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第八條 農事試驗場及支場ノ名稱位置及管轄區域ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

○農事試驗場本支場位置管轄區域

名稱	位置	管轄區域
本場	東京府北豐島郡 澁野川村	東京府、神奈川縣、埼玉縣、群馬縣、千葉縣、茨城縣、栃木縣、山梨縣、長野縣
畿内支場	大阪府南河内郡 柏原村	京都府 <small>丹後ノ國ヲ除ク</small> 、大阪府、兵庫縣 <small>但馬ノ國ヲ除ク</small>
東奥支場	宮城縣名取郡 茂ヶ崎村	宮城縣、福島縣、岩手縣
北陸支場	石川縣石川郡 松任町	新潟縣、福井縣、石川縣、富山縣
山陽支場	廣島縣沼田郡 祇園村	岡山縣、廣島縣、山口縣

四國支場	德島縣名東郡 加茂名村	德島縣、香川縣、愛媛縣、高知縣
九州支場	熊本縣飽託郡 出水村	長崎縣、福岡縣、大分縣、佐賀縣、熊本縣、 宮崎縣、鹿兒島縣、沖繩縣
東海支場	愛知縣碧海郡 安城村	三重縣、愛知縣、靜岡縣、滋賀縣、岐阜縣
陸羽支場	秋田縣仙北郡 花館村	青森縣、山形縣、秋田縣
山陰支場	島根縣簸川郡 鹽冶村	京都府ノ内丹後國、兵庫縣ノ内但馬國、 鳥取縣、島根縣

○農事試驗場處務規程 明治二十六年四月十二日 訓令第七號

第一條 農事試驗場ハ左ノ事項ニ付農産ノ増殖改良ヲ圖ルヘシ

一 農作物及牧草種類ノ撰擇

二 撰種

三 耕耘種

- 四 栽植
 - 五 肥培
 - 六 耕地ノ改良
 - 七 收穫及貯藏ノ方法時期
 - 八 農産物製造ノ方法
 - 九 農具
 - 十 植物病害蟲ノ驅除豫防
 - 十一 有益蟲ノ保護繁殖
 - 十二 家畜家禽ノ飼育肥膩
 - 十三 巡回講話
 - 十四 種苗ノ配付
 - 十五 土質種子肥料飼料等ノ分析鑑定
- 第二條 農事試驗場長ハ官制ノ定ムル所ニ隨ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス
- 第三條 支場長ハ場長ノ指揮監督ヲ受ケ支場全般ノ事務ヲ處理スヘシ
- 第四條 場長又ハ支場長事故アルトキハ所部ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得
- 第五條 場長又ハ支場長ハ所部官吏ノ歸省看護參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
- 第六條 場長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上場中處務細則ヲ設クルコトヲ得
- 第七條 本大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スヘキ事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ
- 第八條 場長ハ試驗ノ順序方法又其分任擔當ヲ定メ農務局長ノ承認ヲ受クヘシ

第九條 試驗成績ハ各擔任者ニ於テ試驗終了ノ日ヨリ三十日以内ニ本場ハ場長ニ支場ハ支場長ニ報告スヘシ

支場長ハ試驗成績ヲ査閲シ二十日以内ニ場長ニ報告スヘシ

第十條 場長ハ試驗成績ヲ審査編纂シ毎年二回本大臣ニ報告スヘシ

第十一條 農談會品評會共進會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ場員ノ出張巡回ヲ申出ツル者アルトキハ本場ニ於テハ場長之ヲ許否シ支場ニ於テハ其出張ノ日數十日ヲ超ユルモノハ場長ノ指揮ヲ受ケ其他ハ支場長之ヲ許否シ其旨ヲ場長ニ報告スヘシ

場長又ハ支場長ノ出張ヲ要スル場合ニ於テ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ本大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 前條ニ於ケル場合ヲ除クノ外場務ノ爲メ場員ノ出張巡回ヲ要スルトキハ場長ハ本大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條 場長ハ毎年四月中前年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ係ル本場及支場員ノ出張巡回ノ日數度數場所及理由ヲ本大臣ニ報告スヘシ

第十四條 分析鑑定ノ求ニ應シ其結果ヲ依頼者ニ通知スルトキハ場長又ハ支場長ハ各其擔任者ト共ニ通知書ニ署名スヘシ

第十五條 農事ニ關スル質問ハ場長又ハ支場長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限り應答スヘシ

第十六條 本場及支場ニ於テハ各六名以内ノ見習生ヲ入場セシムルコトヲ得

見習生ノ費用ハ自辨タルヘシ
見習生ノ入場ニ關スル規定ハ場長之ヲ定ムヘシ

○農事試驗場、蠶業講習所、生絲検査所、大林區署、鑛山監督署、製鐵所、水産講習所

其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表スルノ件 明治三十一年一月二十八日 省令第一號

一 大林區署、鑛山監督署、農事試驗場、生絲検査所、蠶業講習所、製鐵所、水産講習所ハ其司掌事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

一 明治二十五年農商務省令第一號第八號及明治二十九年農商務省令第二號ハ廢止ス

○農事試驗場長委任條件 三十三年 農試第二〇九三號達

一 標本或ハ備品ヲ廳府縣ノ稟請若クハ會社團體等ノ出願ニ對シ貸與ノ件

二 寄贈ノ圖書標本等ノ領收證及謝狀發送ノ件

三 一廉二百圓ヲ超ヘサル借入及備役ノ件

四 一廉二百圓ヲ超ヘサル印刷物ノ調製及物件ノ購入交付ノ件

五 一廉二百圓ヲ超ヘサル新築及修繕ノ件

六 一廉見積金百圓ヲ超ヘサル不用品賣却及買受人ナキモノ棄捐ノ件

七 官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等金額五拾圓以下處理ノ件

八 一廉金額百圓以内現金前渡ノ件

九 月俸拾五圓又ハ日給五拾錢以下雇員ノ採罷ノ件

十 守衛、給仕、小使、職工、定夫ノ採罷并ニ賞與ノ件

十一 場員地方巡回ニ際シ必要ト認ムルトキ順路指定ノ件

十二 官報々告ニ關スル件

但重要ノ件ハ官報部ヘ報告ト同時ニ農商務大臣ヘ報告スヘシ

- 十三 内外ノ報告類ヲ當業者及新聞社等へ下付ノ件
- 十四 出版圖書ヲ内務省へ送付シ及版權登錄ヲ得ンコトヲ同省へ通知ノ件
- 十五 諸印刷物配付ノ件
- 十六 應中ニ於テ遺失物アルトキ處分ノ件

○農事試驗場巡回講話等ニ關スル件 (道廳府縣) 明治二十六年七月十九日 訓令第一九號

- 一 農事講話ノ爲メ毎年本場及支場ノ技術官ヲシテ其管轄區域内ニ巡回セシム
但當分ノ内北海道及沖繩縣ニハ實施セス
- 二 本場若クハ支場ヨリ農事講話ノ爲メ技術官派出ノコトヲ地方廳ニ通知スルトキハ其地方長官ハ豫メ講話ノ場所期日ヲ定メ場長若クハ支場長へ打合ノ上其管内ニ告知スヘシ
- 三 巡回講話若クハ品評會共進會審査等ノ爲メ旅費ヲ支辨シテ技術官ノ派出ヲ要スルトキハ其府縣所屬ノ本場若クハ支場ニ其旨ヲ移牒スヘシ
- 四 種苗ノ配付ハ本場若クハ支場ニ於テ配付ノ都度其旨官報紙上ニ廣告ス
- 五 土質種子肥料飼料等ノ鑑定並農事ニ關スル質問ハ其府縣所屬ノ本場若クハ支場へ申出ツヘシ
- 六 土質種子肥料飼料等ノ分析ニ關スル規程ハ追テ之ヲ定ム

○農事試驗場巡回講話等ニ關スル取扱心得 (農事試驗場長) 明治二十六年七月 内訓

- 一 場長ハ每年本支場管轄區域内農事講話ノ爲メ技術官派出ノ地方及日數等取調豫テ伺出ヘシ
- 二 農事講話ノ爲メ技術官派出ニ際シテハ本場若クハ支場ヨリ其旨ヲ地方廳ニ豫報スヘシ
- 三 地方廳其他ヨリ旅費ヲ支辨シテ技術官派出ノ請求アルトキハ場務ニ差支ナキ場合ニ限り其請求

ニ應スヘシ

- 四 講話ヲ爲ス者ハ成ルヘク試験ノ成績ニ基キ實地適切ヲ主トスヘシ
- 五 技術官巡回中其職務ニ關シテ見聞セシ事項ニ就キ有益ノ發明又ハ衆人ノ摸範タルヘキ事業ヲ起セシモノアリト認ムルトキハ其旨報告スヘシ
- 六 巡回中講話ノ要領ハ筆記ノ上歸場後三十日以内ニ報告スヘシ
- 七 農事試驗場規程第十一條ニ依リ品評會共進會審査等ノ爲メ出張セシトキハ其執務ノ要領ヲ記シテ歸場後三十日以内ニ報告スヘシ
- 八 重要農産ニシテ増殖改良ニ資スヘキ種子ハ試験ノ上其成績確實ニシテ良好ナルモノニ限り配付ノ方法ヲ定メ豫テ伺出ツヘシ
- 九 土質種子肥料飼料等ノ鑑定並ニ農事ニ關スル質問ハ場務綜合セ成可ク其申出ニ應スヘシ

○農事試驗場分析手数料ノ件 明治二十六年十二月十一日 勅令第二三〇號

- 第一條 農事試驗場ニ分析ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 土壤及肥料定性分析ハ一成分毎ニ金二十錢トス
- 二 土壤ノ定量分析ハ一成分金一圓トスニ成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ
- 三 土壤ノ普通含有セサル成分ノ定性ハ一成分毎ニ金二圓トシ其ノ定量ハ一成分毎ニ金五圓トス
- 四 肥料ノ定量分析ハ一成分金五十錢トスニ成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金二十五錢ヲ加フ
但水分及灰分全量ノ定量ハ各金十錢トス
- 五 農産物及飼料ノ有機質成分ノ定量ハ一成分金五十錢トスニ成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金三十錢ヲ加フ

六 但水分及可燃物全量ノ定量ハ各金十錢トス
 農産物及飼料ノ灰分ノ定量ハ一成分金五十錢トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金三十錢ヲ加フ

七 但灰分全量ノ定量ハ金十錢トス

八 農産製造品ノ定性分析ハ一成分毎ニ金五十錢トス
 農産製造品ノ定量分析ハ一成分金一圓五十錢トス

九 二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

十 水ノ定性分析ハ一成分金二圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

十一 水ノ定量分析ハ一成分金三圓トス二成分以上ハ一成分ヲ増ス毎ニ金一圓ヲ加フ

十二 以上列記シタルモノ、外農業上ニ關係アル物料ノ分析手数料ハ前示ノ割合ニ準シ時々農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 前條手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

附 則

第三條 本令ハ明治二十六年十二月十五日ヨリ施行ス

○分析依頼者心得 明治二十六年十二月十二日 告示第一九號

一 分析ニ要スル供試品ノ數量ハ左ノ區別ニ從ヒ差出スヘシ

但シ場長又ハ支場長必要ト認ムルトキハ増加セシムルコトアルヘシ

土壤 (甲) 油粕、糠、乾鰾、緋搾粕、鳥糞ノ類 五百匁

百匁

(乙) 骨粉、骨炭、骨灰、石灰、草木灰ノ類 五十匁

五十匁

(丙) 人造肥料 五十匁

五十匁

(丁) 堆肥ノ類 五百匁

五百匁

(甲) 穀殼其他子實ノ類 百匁

百匁

(乙) 稗皮、穀ノ類 百五十匁

百五十匁

(丙) 稿稈ノ類 同

同

(丁) 根菜ノ類 八百匁

八百匁

(戊) 葉菜ノ類 六百匁

六百匁

(己) 菓鹹ノ類 七百匁

七百匁

(庚) 生草ノ類 五百匁

五百匁

(辛) 乾草ノ類 百五十匁

百五十匁

(壬) 以上ノ外植物莖葉ノ類(乾燥セルモノ) 同

同

(癸) 同上 (乾燥セサルモノ) 五百匁

五百匁

農産製造品 (甲) 砂糖、澱粉、麪粉、脂、油、茶、藍、煙草、乳油、乾酪ノ類 二十匁

二十匁

(乙) 亞爾爾保兒、釀造飲料ノ類 四合

四合

水 (甲) 定性分析ヲ要スルトキ 二升

二升

(乙) 定量分析ヲ要スルトキ 五升

五升

二 分析ヲ依頼セントスル者ハ第一號書式ニ依リ依頼書ヲ作り供試品ヲ添ヘテ所轄農事試驗場ニ申出ツヘシ

三 場長若クハ支場長ニ於テ分析ヲ爲スノ必要ナシト認ムルモノ又ハ事故アリテ分析ヲ爲ス能ハサ

- ルトキハ依頼ニ應セサルコトアルヘシ
- 四 場長又ハ支場長ヨリ分析ノ依頼ニ應スル旨ヲ通知シタルトキハ第二號書式ニ依リ手数料納付書ヲ作り明治二十六年勅令第二百三十號ニ依リ相當ノ登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ
- 五 供試品ハ分析施行ノ後殘餘ヲ生スルモ返戻セサルモノトス
- 六 分析ノ依頼ニ應セサル供試品ヲ通知ノ日ヨリ二週間以内ニ其返戻ヲ請求スルモノアルトキハ運賃先拂ヲ以テ發送ス
- 六 分析ノ成蹟ハ依頼者ニ交付ス

第一號書式

分析依頼書

- 一 供試品名
 - 二 生産地若クハ製造地
 - 三 生産人若クハ製造人名
 - 四 分析ヲ要スル成分
- 右定性(又ハ定量)分析御依頼仕度候間御許可相成度候也
- 年 月 日

農事試驗場長又ハ農事試驗場何支場長宛

職業 氏

名印 現住所

第二號書式

此處ニ登記印紙ヲ貼用シテ分析手数料納付書

何年何月何日付ヲ以テ御依頼仕置候何々分析ノ儀御許可相成候ニ就テハ右手数料納付仕候也

年 月 日

職業 氏

名印 現住所

農事試驗場長又ハ農事試驗場何支場長宛

○府縣農事試驗場規程 明治三十二年八月一日
省令第二〇號

- 第一條 本規程ニ於テ府縣農事試驗場ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル農事試驗場ヲ謂フ
- 第二條 府縣農事試驗場ハ一府縣一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分場ヲ設クルコトヲ妨ケス
- 第三條 府縣農事試驗場ハ其府縣内ノ農産ノ増殖改良ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フ
- 第四條 府縣農事試驗場ハ毎年一回以上試驗ノ成績ニ關スル報告書ヲ發行スルコトヲ要ス
- 一 巡回講話
- 二 種苗、蠶種等ノ配付
- 三 土壤、肥料、農産物等ノ分析
- 四 種苗、肥料等ノ鑑定
- 第五條 府縣農事試驗場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス
- 第六條 府縣農事試驗場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ
- 一 名稱及ヒ位置
- 二 業務ノ項目

- 三 試驗用地ノ種類及ヒ其面積
- 四 建物ノ種類及ヒ其坪數
- 五 職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額
- 六 收支豫算書

第七條 府縣農事試驗場ノ收支豫算書ハ每會計年度前三十日ヲ限リ地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣農事試驗場ニ付テハ此限ニ在ラス
前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス
第八條 府縣農事試驗場前年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ毎年五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

府縣農事試驗場ノ試驗成績報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第九條 府縣農事試驗場又ハ其分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

第十條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條 本規程施行前ニ設立シタル府縣農事試驗場ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第六條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

○府縣農事試驗場國庫補助法 明治三十二年六月七日
法律第一〇二號

第一條 府縣農事試驗場ノ事業ヲ獎勵確實ナラシムル爲國庫ハ毎年度金十五萬圓以內ヲ支出シテ其ノ費用ヲ補助スヘシ

第二條 農商務大臣ノ定ムル府縣農事試驗場規程ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府縣農事試驗場ニ付農商務大臣必要アリト認メタルトキハ之ニ補助金ヲ交付スヘシ但シ一府縣一箇所ニ限ル

第三條 各試驗場ニ交付スル補助金ハ其ノ設立者ノ負擔額ト同額以內ニ限ル

第四條 此ノ法律ニ依リ補助金ヲ受クル試驗場ノ設立者ハ補助年期間其ノ試驗場經費ヲ繼續支出スル義務アルモノトス

第五條 試驗場ニ補助金ヲ交付スルハ五箇年ヲ以テ一期トス滿期ノ後尙必要アルトキハ之ヲ繼續スルコトヲ得但シ農商務大臣ニ於テ試驗場ノ管理不適當ナリト認メタルトキ又ハ府縣農事試驗場規程ニ違背シタルトキ又ハ第四條ノ義務ヲ盡スコト能ハサルトキハ補助年期間ト雖モ其ノ補助ヲ廢シ若ハ停止スルコトヲ得

第六條 此ノ法律施行ノ爲ニ必要ナル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第七條 此ノ法律ハ農商務大臣ノ定ムル府縣農事講習所規程、府縣水産試驗場規程、府縣水産講習所規程ニ依リ農商務大臣ノ認可ヲ經タル府縣農事講習所、府縣水産試驗場、府縣水産講習所ニ適用ス但シ其ノ補助金ハ第一條ニ定ムル金額内ニ於テ支出スルモノトス

第八條 此ノ法律ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

○府縣農事試驗場國庫補助法施行規則 明治三十四年八月一日
省令第一九號

第一條 明治三十二年法律第百二號府縣農事試驗場國庫補助法ニ規定セル補助金ハ本則ニ依リ之ヲ

交付ス

第二條 府縣農事試驗場補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ地方長官ハ申請書ニ其試驗場ノ收支豫算書ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

前項ノ收支豫算書ニハ前年度豫算額及ヒ之ニ對スル比較増減ヲ示シ且其細目ニ付キ詳細ナル説明ヲ附スルコトヲ要ス

第三條 設立ノ認可アリタル後一年ヲ經過セサル府縣農事試驗場ハ補助金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ス

第四條 地方長官ハ補助年期間毎年十二月限り翌年度ノ收支豫算書ヲ差出シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第五條 補助金ハ月割ヲ以テ之ヲ交付ス

第六條 補助金ハ會計年度ヲ二期ニ分チ其年度ノ四月及ヒ十月ニ交付ス但新ニ許可シタル場合ニ於テハ其年度ニ關スル補助金ハ其期月ニ拘ハラズ之ヲ交付ス

第七條 地方長官ハ每會計年度經過後府縣會ノ承認ヲ經タル上速ニ府縣農事試驗場ノ收支決算書ヲ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス

附則

第八條 本則ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 本則ハ明治三十二年法律第百二號府縣農事試驗場國庫補助法附則第七條ノ規定ニ依リ府縣農事講習所、府縣水産試驗場又ハ府縣水産講習所ニ補助金ヲ交付スル場合ニ之ヲ適用ス

○府縣農事講習所規程 明治三十二年八月一日 省令第二二號

第一條 本規程ニ於テ府縣農事講習所ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル農事講習所ヲ謂フ

第二條 府縣農事講習所ハ一府縣一箇所ヲ限り設立スルコトヲ得但分所ヲ設クルコトヲ妨ケス

第三條 府縣農事講習所ハ農業ニ従事スル者ヲシテ農事ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣農事講習所ハ丈量、氣象、物理、化學、博物等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ府縣農事講習所ニ於テ獸醫又ハ蹄鐵ニ關スル講習ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 地方長官必要ト認ムルトキハ府縣農事講習所ノ職員ヲシテ農事ニ關スル巡回講話ヲ爲サシムルコトヲ得

第六條 府縣農事講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

第七條 府縣農事講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分所ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一 名稱及ヒ位置

二 講習所規則

三 實習用地ノ種類及ヒ其面積

四 建物ノ種類及ヒ其坪數

五 職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額

六 收支豫算書

第八條 府縣農事講習所ノ收支豫算書ハ每會計年度前三十日ヲ限り地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣農事講習所ニ付テハ此限ニ在ラス

前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第九條 府縣農事講習所前年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ毎年五月限り之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第十條 府縣農事講習所又ハ其分所ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

第十一條 本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 明治二十七年八月農商務省令第八號農事講習所規程ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第十三條 本規程施行前ニ設立シタル府縣農事講習所ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第七條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

○農事講習所設置心得 (道廳府縣) 明治二十七年八月六日 訓令第二六號

一 農事講習所ハ地方慣行ノ技藝ノ外學理ノ應用ヲ授ケテ地方農事ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ主眼トナスヘキモノナルカ故ニ成ルヘク當業者及其子弟ヲ養成スルコトヲ勉ムヘシ

一 農事講習所ハ校舍ヲ常設シテ講習ヲ爲スト適宜ノ季節場所ヲ撰ンテ講習ヲ爲ストハ一ニ地方ノ便宜ニ任ス

一 農事講習所ニ於ケル授業ハ勉メテ平易ナル講話體ヲ用ヒ教科目ハ濫ニ其數ヲ増サス補助教科ハ成ルヘク農事專門教科ヲ講スルニ方リ之ヲ引援教授スルヲ可トス然レトモ地方ノ情況ニヨリ特ニ補助教科目ヲ設置スルトキハ其講習ハ可成農事ニ關係アル事項以外ニ涉ラサルヲ要ス

○北海道地方費ヲ以テ設立スル農事試驗場及農事講習所規程ノ件

三十四年八月十日 省令第八號

明治三十二年農商務省令第二十號及第二十一號ハ北海道地方費ヲ以テ設立スル農事試驗場及農事講習所ニ之ヲ適用ス

○道廳、府縣、郡、農事、水産試驗場、農事、水産講習所及種畜場職員並農事、林業、水産巡回教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件

明治三十一年十二月十三日 勅令第三四八號

第一條 本令ニ於テ道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所種畜場農事巡回教師林業巡回教師及水産巡回教師ト稱スルハ北海道地方費府縣稅(又ハ地方稅)又ハ郡費ヲ以テ常置スルモノヲ謂フ

第二條 道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場及種畜場ノ職員左ノ如シ

場長
技師
技手
書記

場長ハ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ郡費ヲ以テ設立スル試驗場ハ技師二名以上ヲ置クコトヲ得ス

三十四年勅令
第一五九號ヲ
以テ各條中改
正

農務 北海道地方費ヲ以テ設立スル農事試驗場及農事講習所規程ノ件 道廳府縣郡農事、水産試驗場
農事、水産講習所及種畜場職員並農事、林業、水産巡回教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件

農務 道廳府縣郡農事、水産試驗場農事、水産講習所及種畜場職員並農事、林業、水産巡回教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件

二四〇

第三條 道廳府縣郡農事講習所及水産講習所ノ職員左ノ如シ

所長
技師
技手
書記

所長バ技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ郡費ヲ以テ設立スル講習所ハ技師二名以上ヲ置クコトヲ得ス
第四條 道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場ノ技師ハ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク

道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場ノ技手書記並農事巡回教師林業巡回教師及水産巡回教師ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受ク但シ北海道地方費府縣稅又ハ地方稅支辨ノ俸給ヲ受クル巡回教師ハ特ニ奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クルコトアルヘシ

第五條 前條奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ明治二十五年勅令第九十六號高等官等俸給令第四條第五條ノ例ニ依リ之ヲ行ヒ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ任免ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ行フ

第六條 第二條第三條及第四條ノ技師技手及巡回教師ハ特別ノ學術技藝アル者ヨリ任用スヘシ

第七條 道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場職員並農事巡回教師林業巡回教師及水産巡回教師ニシテ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ノ官等等級ハ其ノ俸給額ニ應シ別表ニ依リ文武高等官等又ハ文武判任官等級ニ配當ス

奏任文官又ハ判任文官若ハ之ト同一ノ待遇ヲ受クル者ニシテ同時ニ道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場職員並農事巡回教師林業巡回教師及水産巡回教師ニ任用セラ

レタル者ノ官等等級配當方ハ本官官等等級若ハ本務ニ於テ配當セラレタル官等等級ニ依ル
本令ニ依リ奏任文官又ハ判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル者ハ同官等内又ハ同等級内ニ於テハ文武官吏ノ次席タルヘシ

附則

第八條 本令ハ明治三十二年一月十日ヨリ施行ス

第九條 明治二十七年勅令第八十七號明治二十九年勅令第三百八十八號及明治三十年勅令第四十六號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表)

奏任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場ノ技師並農事水産林業各巡回教師官等配當表

奏

任

五等	千四百圓以上	六等	千二百圓以上 千四百圓未満	七等	八百圓以上 千二百圓未満	八等	六百圓以上 八百圓未満
年俸	年俸	年俸	年俸	年俸	年俸	年俸	年俸

判任文官ト同一ノ待遇ヲ受クル道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場職員並農事水産林業各巡回教師等級配當表

判

任

一等	二等	三等	四等	五等	等
----	----	----	----	----	---

農務 道廳府縣郡農事、水産試驗場農事、水産講習所及種畜場職員並農事、林業、水産巡回教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件

二四一

農務 道廳府縣郡農事、水産試験場農事、水産講習所及種畜場職員並農事、林業、水産巡回教師ノ名稱待遇任免及官等等級配當ノ件

道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場技師	月俸六十圓以上	月俸四十五圓以上	月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上	月俸二十五圓未滿
道廳府縣郡農事水産林業各巡回教師	月俸六十圓未滿	月俸四十五圓未滿	月俸三十五圓未滿	月俸二十五圓未滿	月俸二十五圓未滿
道廳府縣郡農事試驗場水産試驗場農事講習所水産講習所及種畜場技師	月俸三十五圓以上	月俸三十五圓以上	月俸二十五圓以上	月俸二十五圓未滿	月俸二十五圓未滿

第三十四年訓令
第二號ヲ以テ
工業ノ二字追
加工

○農事工業及水産巡回教師設置心得 (府縣) 明治二十七年八月十日 訓令第二八號

- 第一項 農事工業及水産巡回教師ノ業務ハ左ノ項目ニ依リ之レヲ定ムヘシ
 - 一 巡回講話實驗指導及質問應答ニ關スルコト
 - 二 公費若クハ公費ノ補助ヲ以テ設立セル試驗事業ニ關スルコト
 - 三 府縣内ノ共進會若クハ品評會ノ出品審査ニ關スルコト
- 其他必要ト認ムル事項

第二項 農事工業及水産巡回教師ヲ設置シタルトキハ速ニ其履歷及擔任事業ヲ届出ヘシ

第三項 農事工業及水産巡回教師ニ關スル經費ノ種別及豫算金額ハ毎年三月三十一日マテニ其業務ノ功程ハ前年度分取纏メ毎年四月三十日マテニ届出ヘシ

第四項 地方長官ニ於テ重要ト認ムル農事工業及水産巡回教師講話ノ要領ハ其時々報告スヘシ

○北海道地方費支辨農事巡回教師設置心得ノ件 (北海道廳) 明治三十四年八月十日 訓令第一九號

北海道地方費ヲ以テ農事巡回教師ヲ設置スルトキハ明治二十七年農商務省訓令第二十八號ニ依ルヘシ

○蠶種検査法 明治三十三年三月九日 法律第四五號

- 第一條 本法ニ於テ蠶種ト稱スルハ原種及製絲用種ヲ謂フ
- 第二條 原種ハ框製ニスヘシ
- 第三條 蠶種ハ検査ニ合格シタル原種ヨリ產生シタル繭ヲ用ウルニ非サレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス
- 第四條 蠶種ハ左ニ掲クル繭ヲ以テ之ヲ製造スルコトヲ得ス
 - 一 二蠶以上合同シテ作りタル繭
 - 二 繭層片薄ナル繭若ハ形狀ヲ失スルコト著シキ繭
 - 三 繭層ノ量繭ノ全量百ニ對シ一化性ニ在リテハ十、二化性ニ在リテハ七、多化性ニ在リテハ六ニ達セサルモノ
 - 四 蠶兒ノ發育不良ニシテ收繭ノ量著シク減少シタルモノ
 - 五 蠶種製造者ニ非サル者ノ飼育シタル蠶兒ヨリ產生シタル繭
- 第五條 蠶種製造者ハ検査ニ合格シタル原種ヨリ產生シタル蠶兒ニ非サレハ飼育スルコトヲ得ス
- 第六條 蠶種製造者ハ收繭後及産卵後ノ二期ニ於テ原種ニ在リテハ繭、蛾及卵、越年スル製絲用種ニ在リテハ繭及卵、越年セサル製絲用種ニ在リテハ繭ノ検査ヲ受クヘシ
- 第七條 原種ノ掃殺及第四條第一號乃至第三號ニ掲ケタル繭ハ收繭後ノ検査ヲ經ル迄之ヲ保存スヘシ
- 蠶種ノ製造ニ供用シタル繭及原種ノ製造ニ供用シタル母蛾ハ産卵後ノ検査ヲ經ル迄之ヲ保存スヘシ
- 第八條 検査ニ合格セサル蠶種ハ蠶種検査所ニ於テ直チニ之ヲ燒棄スヘシ
- 第九條 検査合格ノ證印ナキ蠶種ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス

- 第十條 地方長官ハ蠶種検査員ヲシテ蠶種製造者ニ就キ養蠶、收繭及産卵ノ狀況ヲ視察セシムヘシ
 - 第十一條 蠶種検査員ハ自己若ハ家族ノ製造スル蠶種ノ検査ヲ爲スコトヲ得ス
 - 第十二條 蠶種検査ニ關スル費用ハ府縣ノ負擔トス但シ國庫ハ其ノ半額以内ヲ補充スルコトヲ得
北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ負擔トス
 - 第十三條 自家用又ハ學術研究ノ爲蠶種ヲ製造スル者ニハ本法ヲ適用セス
 - 第十四條 學術研究ノ爲製造シタル原種ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ検査ニ合格シタルモノト看做スコトヲ得
 - 第十五條 自家用又ハ學術研究ノ爲製造シタル蠶種ハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ前條ニ該當スルモノハ此限ニ在ラス
 - 第十六條 第三條乃至第六條、第九條又ハ第十五條ニ違背シタルモノ又ハ蠶種検査員ノ職務執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 第十七條 第七條ニ違背シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 - 附則
 - 第十八條 本法ハ命令ヲ以テ指定スル地ニ之ヲ施行セス
 - 第十九條 本法ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
- 蠶種検査法施行規則 明治三十三年七月二十六日
省令第一七號
- 第一條 蠶種製造者ハ地方長官ノ定ムル期日マテニ様式第一號ニ準シ蠶種製造届書ヲ製造所所在地ノ地方長官ニ差出スコトヲ要ス

- 掃立、收繭又ハ産卵ノ場所カ府縣ヲ異ニスルトキハ各地方長官ニ前項ノ届書ヲ差出スコトヲ要ス
- 第二條 蠶種製造者ハ掃立ノ際蠶量ヲ正確ニ量定スルコトヲ要ス
- 第三條 蠶種製造者ハ越年蠶種ニ在リテハ産卵前ニ、不越年蠶種ニ在リテハ第十一條第一項ノ規定ニ依リ臺紙ヲ差出ス前ニ一化性、二化性、多化性ノ別及ヒ蠶種ノ名稱ヲ臺紙ノ表面ニ、製造者ノ氏名、住所ヲ其表面又ハ裏面ニ記載シ且越年蠶種ニ在リテハ産卵後ノ検査前ニ、不越年蠶種ニ在リテハ産卵後直チニ産卵ノ年月日ヲ臺紙ニ記載スルコトヲ要ス
- 第四條 原種ヲ製造スルニハ一母蛾ヲシテ一區ニ産卵セシメ母蛾ト其區トニ同一ノ符號ヲ附スルコトヲ要ス
- 原種製造ニ供用スル臺紙ハ之ヲ二十八區ニ分ツコトヲ要ス
- 第五條 蠶量一匁ニ對シ收繭ノ量一化性ニ在リテハ一斗二升未滿、二化性ニ在リテハ九升未滿、多化性ニ在リテハ七升未滿ナルトキハ收繭ノ量著シク減少シタルモノト看做ス
- 第六條 蠶種ノ検査ハ左ノ順序ニ依リ之ヲ行フ
 - 一 收繭後ニ於テ繭及ヒ其原種ノ掃殻
 - 二 産卵後ニ於テ卵及ヒ出殻繭、不越年製絲用種ニ在リテハ出殻繭
 - 三 原種ニ在リテハ前二號ニ掲ケタルモノノ外其製造ニ供用シタル母蛾
- 第七條 前條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタルモノノ検査ハ蠶種製造所ニ於テ之ヲ行ヒ母蛾及ヒ不越年原種ノ卵ノ検査ハ蠶種検査所ニ於テ之ヲ行フ
- 第八條 原種ノ名稱又ハ製造者ヲ異ニスル蠶兒、繭又ハ卵ハ之ヲ混同スルコトヲ得ス
- 第九條 蠶種製造者ハ收繭後ノ検査ヲ受クル前種繭トスヘキモノヲ選別シ其枳量ト收繭總枳量トヲ各別ニ量定シ且蠶種検査法第四條第一號乃至第三號ニ該當スルモノヲ殺蛹スルコトヲ要ス

第十條 收購後ノ検査ニ合格シタル繭ニ對シテハ其名稱ヲ異ニスル毎ニ様式第二號ノ繭證明書ヲ交付ス

検査ヲ經タル掃殻ノ臺紙ニハ様式第三號ノ掃殻検査済ノ印ヲ押捺ス

第十一條 不越年蠶種ノ製造者ハ臺紙及ヒ種繭證明書ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

蠶種検査所ハ原種ニ在リテハ様式第四號ノ原種用ノ印、製絲用種ニ在リテハ様式第五號ノ製絲用種検査合格ノ證印ヲ臺紙ノ裏面ニ押捺シ且原種用ト製絲用トニ區別シテ臺紙ノ數ヲ種繭證明書ニ記載ス

第十二條 不越年原種ノ製造者ハ製造後直チニ原種及ヒ母蛾ヲ所轄蠶種検査所ニ差出スコトヲ要ス

第十三條 不越年蠶種ノ産卵後ノ検査ヲ爲シタルトキハ種繭證明書ニ様式第六號ノ出殻検査済ノ印ヲ押捺シ且産卵ニ供用セザリシ臺紙アルトキハ其證印ノ上ニ様式第七號ノ消印ヲ押捺ス

第十四條 越年蠶種ノ産卵後ノ検査ヲ爲シタルトキハ原種ニ在リテハ様式第四號ノ原種用ノ印、製絲用種ニ在リテハ様式第五號ノ製絲用種検査合格ノ證印ヲ蠶種臺紙ノ裏面ニ押捺シ且種繭證明書ニ様式第六號ノ出殻検査済ノ印ヲ押捺ス

第十五條 越年原種ノ母蛾ノ検査期日ハ毎年九月一日以後ニ於テ地方長官之ヲ定ム

第十六條 母蛾ノ検査ヲ爲スニ當タリ微粒子ヲ發見シタルトキハ様式第八號ノ有毒ノ印ヲ、微粒子ヲ發見セザルトキハ様式第九號ノ無毒ノ印ヲ其産卵シタル區ニ押捺ス

有毒卵ノ區及ヒ母蛾ノ缺ケタル區ヲ除去シタル後臺紙ニ様式第十號ノ原種検査合格ノ證印ヲ押捺ス

第十七條 蠶種臺紙ヲ截斷シテ蠶種ヲ讓渡セントスル者ハ検査ヲ受クル前臺紙ノ裏面ニ截斷スヘキ

部分ヲ區別シ其各部分ニ検査合格ノ證印ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ其各部分ニ第三條ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第十八條 原種ノ製造ニ供用シタル母蛾カ亡失又ハ混亂シタルトキハ其ノ蠶種ニ對シ製絲用種検査合格ノ證印ヲ請求スルコトヲ得

第十九條 種繭證明書カ毀損又ハ滅失シタルトキハ蠶種製造者ハ更ニ其交付ヲ請求スルコトヲ得

第二十條 蠶種製造者カ收購後ノ検査ニ合格シタル繭ノ全部又ハ一部ヲ讓渡セントスルトキハ當事者雙方連署シ讓渡人ノ所轄蠶種検査所ニ種繭證明書ノ書換ヲ請求スルコトヲ要ス

蠶種検査所カ書換ヲ爲シタルトキハ直チニ其旨ヲ讓受人ノ所轄蠶種検査所ニ通知スルコトヲ要ス

繭ノ授受ヲ終ハリタルトキハ讓受人ハ直チニ其旨ヲ所轄蠶種検査所ニ届出ルコトヲ要ス

第二十一條 蠶種検査法ニ於テ自家用ノ爲メ蠶種ヲ製造スル者トハ自ラ掃立テタル蠶兒ヨリ産出シタル繭ヲ以テ自家飼育ニノミ供用スル蠶種ヲ製造スル者ヲ謂フ

第二十二條 學校、講習所、傳習所、試験場其他學術研究ノ爲メ蠶種ヲ製造スル者ニシテ蠶業ニ關スル學識經驗アル職員二名以上ヲ有シ且蟻量十匁以上ヲ飼育スルニ適當ナル蠶室、蠶具其他ノ設備ヲ有スルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケテ其製造シタル蠶種ヲ原種トシテ配付スルコトヲ得

前項ノ認可ハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 前條ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 名稱及ヒ所在

二 蠶業ニ關スル設備

三 蠶種ノ製造、検査及ヒ配付ニ關スル規程

四 蠶業ニ關スル職員ノ氏名及ヒ履歷

前項第一號乃至第三號ニ掲ケタル事項ヲ變更シ又ハ職員ニ異動ヲ生シタルトキハ直チニ其旨ヲ農務大臣ニ届出ルコトヲ要ス

第二十四條 第二十二條第一項ノ認可ヲ受ケタル者ハ毎年一月三十一日マテニ様式第十一號ニ依リ前年ノ成績表ヲ農務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第二十五條 前二條ノ書類ハ地方長官ヲ經由スルコトヲ要ス

第二十六條 蠶種検査員ハ様式第十二號ノ證票ヲ携帯スルコトヲ要ス

第二十七條 蠶種検査員ハ左ニ掲ケタル者ヨリ地方長官之ヲ命ス

一 農務省蠶業講習所、農務局舊蠶業試驗場又ハ農務局假試驗場蠶事部ヲ卒業シタル者

二 農務局ノ檢定試驗ニ及第シタル者

三 地方長官ノ信認セル學校、講習所、傳習所又ハ試驗場ニ於テ蠶業ニ關スル學科ヲ修了シタル者

四 蠶業ニ熟達シ成繭鑑査ニ精通スル者

第二十八條 地方長官カ蠶種検査員ヲ命免シタルトキハ其氏名ヲ告示スルコトヲ要ス

第二十九條 地方長官カ蠶種検査所ノ位置若クハ管轄區域ヲ定メ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第三十條 地方長官ハ毎年五月十五日マテニ様式第十三號ニ依リ前年度ノ檢査成績表ヲ農務大臣ニ差出スコトヲ要ス

第三十一條 蠶種ノ檢査ニ關スル手續ハ地方長官之ヲ定メ農務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附則

第三十二條 本則ハ明治三十三年法律第四十五號蠶種検査法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本則施行ノ日ヨリ一年間ハ第四條第二項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

明治三十年農務省令第八號蠶種検査法施行細則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

様式

第一號 蠶種製造届書

化性	期名	原種掃	原種掃	製造豫算額		製造所
				原種蠶數	製絲用種枚數	
一化性						
二化性	第一化					
	第二化					
多化性	第一化					
	第二化					

、、、、	第三化								
、、、、	、、、、								
、、、、	第四化								
、、、、	、、、、								
合計									

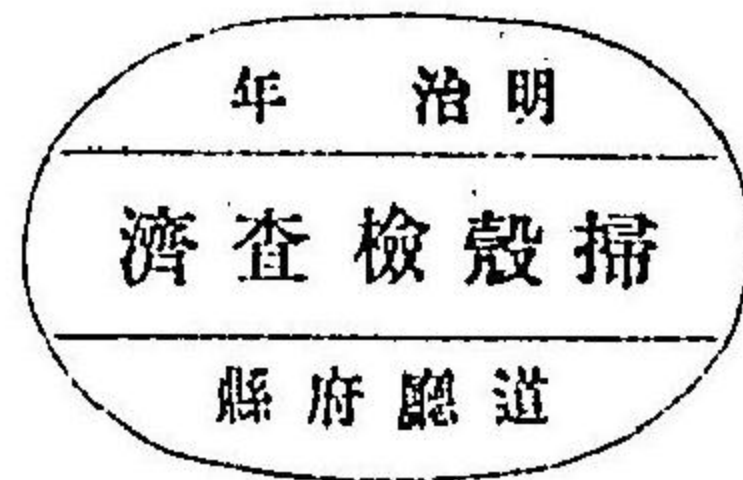
備考 多化性ニ第五化以上ノモノアルトキハ相當ノ欄ヲ設ケテ之ヲ記入シ同化期ノモノニ越年種ト不越年種トアルトキハ各別ニ之ヲ記載スヘシ
 掃立、收購又ハ産卵ノ場所ヲ異ニスルトキハ製造所ノ欄ヲ區分シテ之ヲ記載スヘシ
 第二號 種繭證明書

番號 種繭證明書

住所 蠶種製造者 氏 名
 一名稱
 一化性及ヒ化期
 一粉量
 右種繭検査ニ合格シタルコトヲ證ス
 年 月 日
 道廳、府、縣蠶種検査員 氏 名 印

第三號 掃殼検査済印

楕圓形
長徑一寸二分
短徑八分
肉色黑



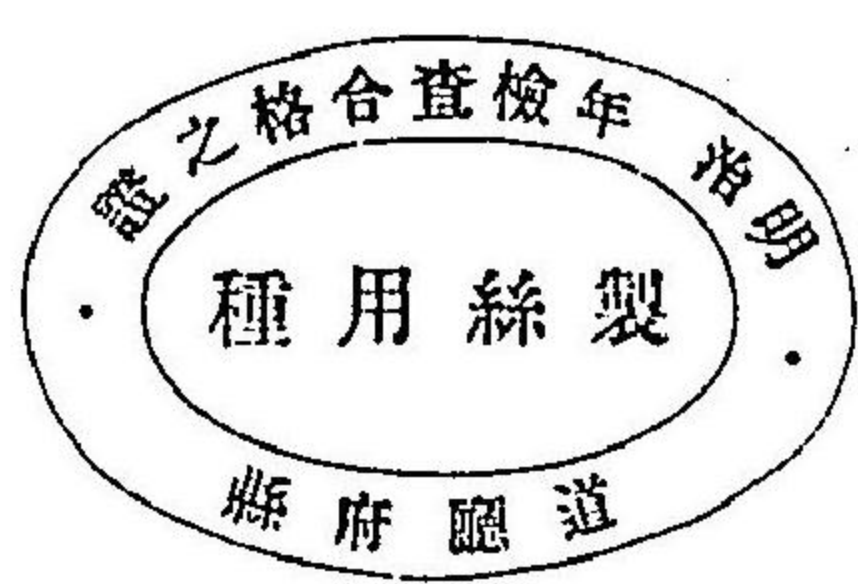
第四號 原種用印

圓形
徑七分
肉色黑



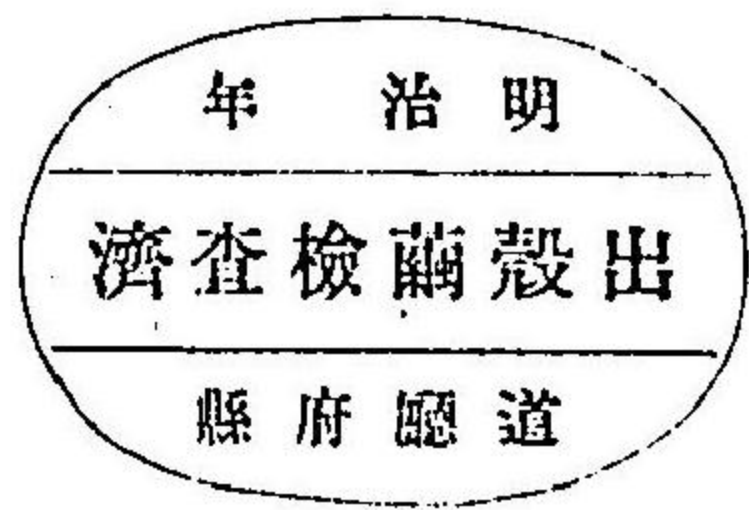
第五號 製絲用種検査合格證印

楕圓形
長徑一寸五分
短徑一寸
肉色朱

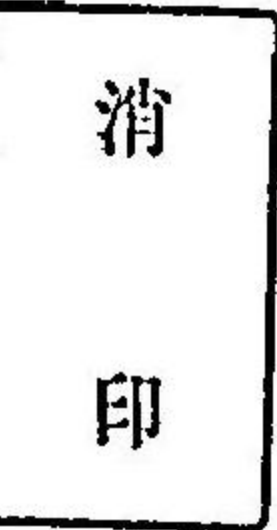


第六號 出殼繭檢查濟印

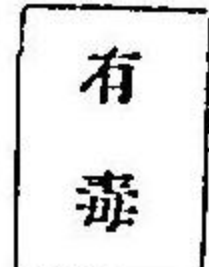
橢圓形
長徑一寸
短徑六分
肉色黑



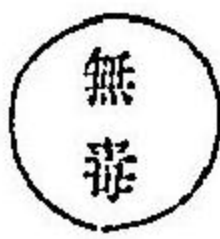
第七號 消印



第八號 有毒印



第九號 無毒印



第十號 原種檢查合格證印

圓形
徑一寸五分
肉色朱



第十一號 明治 年成績表

化性	期	名稱	原種掃 立蛾數	原種掃 立蠶量	收繭		蠶種製造額	
					繭	額	其他	計
一化性								
二化性	第一化							
	第二化							
	第三化							
多化性	第一化							
	第二化							
	第三化							

第二表ノ三 多化性原種掃立蛾數及ヒ蟻量

合計	郡市	第一	第二	第三	第四
		蛾數	蛾數	蛾數	蛾數
		蟻量	蟻量	蟻量	蟻量

其三表ノ一 一化性繭拵量

合計	郡市	合格	種繭	其他	計
----	----	----	----	----	---

備考 二化性及ヒ多化性ニ付テハ第二表ニ準シテ本表ヲ調製スヘシ
 第四表ノ一 一化性製絲用種枚數

備考 原種用ノ印アルモノニ製絲用種検査合格ノ證印ヲ與ヘタルトキハ越年種ニ在リテハ百蛾區、不越年種ニ在リテハ五十蛾區ヲ以テ一枚ニ換算シ端數ハ四拾五入スヘシ
 二化性及ヒ多化性ニ付テハ第二表ニ準シテ本表ヲ調製スヘシ
 第五表ノ一 一化性原種蛾數

合計	郡市	合格	不合格	計
		無毒	有毒	其他

合計

備考 二化性及ヒ多化性ニ付テハ第二表ニ準シ本表ヲ調製スヘシ

○明治三十四年ニ於テ蠶種ヲ製造スル者届出方ノ件 明治三十三年八月二日 省令第一八八號
明治三十四年ニ於テ蠶種ヲ製造スル者ハ明治三十三年七月二日 七月二日農商務省令第十七號蠶種検査法施行規則第一條ノ規定ニ依リ蠶種製造届書ヲ差出スコトヲ要ス

○府縣蠶種検査費ニ對スル國庫補助金額ノ件 明治三十年七月三十日 勅令第二四九號
蠶種検査法第十二條ニ依リ國庫ヨリ補助スル金額ハ蠶種検査ノ爲ニ要スル費額ノ十分ノ三トス但シ必要ノ場合ニ於テハ十分ノ二以内ヲ増加交付スルコトヲ得

○蠶種検査手数料ニ關スル件 明治三十年六月七日 勅令第一七七號

- 第一條 蠶種検査法ニ據リ蠶種ノ検査ヲ施行スル道廳府縣ハ蠶種検査請求者ヨリ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ徴收スルコトヲ得
- 一 原種 一 蝦區ニ付 一 厘
 - 二 製絲用種 一 枚ニ付 一 錢五厘
- 第二條 前條ニ依リ徴收シタル手数料ハ府縣ノ收入トス但シ北海道廳及沖繩縣ニ於テハ國庫ノ收入トス

○蠶種検査法ヲ施行セサル地方ノ件 明治三十四年三月八日 省令第三三號

北海道廳ノ内 北見、根室及ヒ千島
東京府ノ内 伊豆七島及ヒ小笠原島

沖繩縣

○蠶業講習所官制 明治三十二年三月三十日 勅令第八九號

- 第一條 蠶業講習所ハ二箇所トス農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 蠶業ニ關スル講習
 - 二 蠶業ニ關スル試験及調査
 - 三 巡回講話
 - 四 蠶種配布
 - 五 質問應答
- 第二條 蠶業講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長
技師
舎監
技手
書記

- 第三條 所長ハ一人技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル
- 第五條 舎監ハ二人技師又ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ講習生ノ取締ヲ掌ル

- 第六條 技手ハ上官ノ命ヲ承ケ所務ニ従事ス
- 第七條 書記ハ判任トス上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ従事ス
- 第八條 蠶業講習所ヲ通シテ專任技師七人專任技手十二人專任書記六人ヲ以テ定員トス
- 第九條 蠶業講習所ノ位置及名稱ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○蠶業講習所名稱位置

東京蠶業講習所
京都蠶業講習所

位 置

東京府下北豊島郡瀧ノ川村元西ヶ原
京都府下葛野郡衣笠村

○蠶業講習所事務區域區分ノ件 明治三十二年七月 告示第六六號
蠶業講習所ノ巡回講話、蠶種配布、質問應答等ニ關スル事務ハ左ノ區域ニ依リ各其蠶業講習所ニ於テ之ヲ取扱フ

東京 蠶業講習所

- | | | | | | |
|------|-------|------|-----|-----|-----|
| 北海道廳 | 東京府 | 神奈川縣 | 新潟縣 | 埼玉縣 | 群馬縣 |
| 千葉縣 | 茨城縣 | 栃木縣 | 静岡縣 | 山梨縣 | 長野縣 |
| 宮城縣 | 福島縣 | 巖手縣 | 青森縣 | 山形縣 | 秋田縣 |
| 京都 | 蠶業講習所 | | | | |

- | | | | | | |
|-----|-----|------|------|-----|-----|
| 京都府 | 大阪府 | 兵庫縣 | 長崎縣 | 奈良縣 | 三重縣 |
| 愛知縣 | 滋賀縣 | 岐阜縣 | 福井縣 | 石川縣 | 富山縣 |
| 鳥取縣 | 島根縣 | 岡山縣 | 廣島縣 | 山口縣 | 愛媛縣 |
| 德島縣 | 香川縣 | 和歌山縣 | 高知縣 | 福岡縣 | 大分縣 |
| 佐賀縣 | 熊本縣 | 宮崎縣 | 鹿兒島縣 | 沖繩縣 | |

○蠶業講習所處務規程 明治三十二年四月十三日 訓令第一七號

第一條 蠶業講習所ハ左ノ項目ニ據リ蠶業ノ改良増殖ヲ圖ルヘシ

- 一 蠶業ニ關スル講習
 - 蠶業ニ關スル學理
 - 蠶業ニ關スル實地
 - 蠶業ニ關スル試験及調査
 - 桑樹ノ種類、栽培及病虫害
 - 蠶種、養蠶及蠶病
 - 殺蛹、貯繭及繰絲
 - 蠶具及製絲器械
 - 蠶業ニ關スル巡回講話
 - 蠶種ノ配布
 - 蠶業ニ關スル質問應答
- 第二條 蠶業講習所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ處理ニ付其責ニ任ス

第三條 蠶業講習所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第四條 蠶業講習所長ハ部下ノ官吏ノ歸省、看護、墓參、轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第五條 蠶業講習所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル備員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第六條 蠶業講習所長ハ事務處理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則及講習規程ヲ設クルコトヲ得

第七條 蠶業講習所長ハ授業擔任者ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ

第八條 蠶業講習所長ハ傳習生ノ募集人員ヲ定メ農商務大臣ノ承認ヲ請フヘシ

第九條 蠶業講習所長ハ試驗項目及ヒ其擔任者ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條 試驗成績ハ各擔任者ニ於テ試驗終了ノ日ヨリ二箇月以内ニ蠶業講習所長ニ報告スヘシ

第十一條 蠶業講習所長ハ試驗成績ヲ審査編纂シ毎年一回農商務大臣ニ報告スヘシ
但臨時緊要ト認ムル試驗成績ハ時々報告スヘシ

第十二條 蠶業講習所長ハ毎年配布蠶種ノ枚數ヲ定メ配布ノ手續ヲナスヘシ

第十三條 蠶業講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十四條 蠶業講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十五條 巡回講話若クハ講習會品評會等ノ爲メ旅費ヲ支辨シ所員ノ出張巡回ヲ申出ル者アルトキハ所長ニ於テ許否シ所長出張巡回ヲ要スル場合ニ於テハ日數十日以内ナルトキハ其旨ヲ農商務大臣ニ報告シ十日ヲ超ユルトキハ認可ヲ請フヘシ

第十六條 蠶業講習所長ハ所務ノ爲メ所員ノ出張巡回ヲ命スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

但至急ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ於テハ所長之ヲ命シ其旨農商務大臣ニ報告スヘシ

第十七條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

○蠶業講習所蠶種配付規則 明治二十九年五月八日 省令第五號

第一條 本所ニ於テ製造スル蠶種ハ原種用トシテ左ノ資格ヲ有スル者ニ限り無代價ニテ配付ス
二段歩以上ノ桑園ヲ所有シ毎年二百枚以上ノ販賣用蠶種ヲ製造スル者

第二條 蠶種配付ヲ請求スル者ハ管轄廳ノ證明ヲ得テ四月十五日マテニ蠶業講習所ニ出願スヘシ
但本年ニ限り六月三十日マテニ出願スヘシ

第三條 配付スヘキ蠶種ハ請求者一名ニ付五十蛾分以上五百蛾分以下トス

第四條 蠶種ノ配當ハ出願ノ順序ニ依リ之ヲ定メ十月三十日マテニ發送スヘシ配付ヲ受クル能ハサル者ニハ九月三十日マテニ其旨ヲ通知スヘシ

第五條 蠶種ノ配付ヲ受ケタル者ハ別記書式ノ成績書ニ左ノ成績ヲ添附シ翌年八月三十一日マテニ本所ニ遞送スヘシ
二百蛾分未満ノ蠶種ヲ受ケタル者ハ 一升以上
二百蛾分以上ノ蠶種ヲ受ケタル者ハ 二升以上

第六條 前條ノ義務ヲ履行セサル者ハ爾後三年間蠶種ノ配付ヲ受クルヲ得ス

第七條 官立公立若クハ公費ノ補助ヲ受クル學校講習所傳習所及試驗場ニシテ蠶業研究ノタメ第二條ニ據リ出願スルトキハ第一條ノ資格ヲ有セサルモ二十五蛾分以内ノ蠶種ヲ配付ス
但此場合ニハ第五條第六條ヲ適用セス

三十年五月一日
省令第三號
ナリテ第七條
ヲ加フ

配付蠶種成績表

(別記)												
配付蠶種成績表												
試育人												
縣府國郡村町												
經 過												
種 類	蟻 量	掃 下	飼 育 日 數	室 內 溫 度			晴 天	雨 天	曇 天	給 桑 回 數	給 桑 量	收 獲
				平 均	最 低	最 高						
類	量	下	日 數	度	度	度	日	日	日	回	量	獲
	匁	匁	日	度	度	度	日	日	日	回	匁	獲
收 獲												
蠶 種 製 造 高	上 繭		同 功 繭		屑 繭		合 計		普通製	框製	枚	
	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量	容 量	重 量				
高	一升ノ繭數	石斗升合	一升ノ繭數	石斗升合	一升ノ繭數	石斗升合	一升ノ繭數	石斗升合	枚	枚	枚	
	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	匁	

農商務省蠶業講習所

記 事

備 考

本表ハ種類毎ニ調製スヘシ
記事欄内ニハ蠶種ヲ請取テヨリ後ノ貯藏法及催青法ノ概要、氣候ノ順否、蠶兒發育ノ状況、眠起ノ齊否、病蠶ノ多寡等ヲ記
スヘシ尙此欄内ニ記シ盡サ・ル件ハ別欄ヲ設ケ記載スヘシ

○蠶業講習所巡廻講話及生徒集募心得(道 府 縣 明治二十九年五月一日 沖繩縣ヲ除ク) 訓令第一三號

- 一 蠶業講習所長ヨリ蠶業講話ノ爲メ技術官派出ノコトヲ通知シタルトキハ地方長官ハ所長ト打合
ノ上講話ノ場所又期日ヲ定メ管内ニ告知スヘシ
- 二 巡廻講話等ノ爲メ旅費ヲ支辨シテ技術官ノ派出ヲ要スルトキハ蠶業講習所長ニ其旨ヲ移牒スヘ
シ
- 三 蠶業傳習生ノ募集ハ蠶業講習所長ノ通牒ニ依リ地方長官其手續ヲ爲スヘシ

○生絲検査所法 明治二十八年六月十七日 法律第三二號

- 第一條 削除
- 第二條 本邦製産ノ生絲ヲ賣買スル者ハ内外人ヲ問ハス検査所ニ對シ生絲ノ検査ヲ請求スルコトヲ得
但シ検査料ヲ徴セス
- 第三條 生絲検査所ハ農商務大臣ノ所管トシ此ノ法律施行ニ關スル細則ハ同大臣之ヲ定ム

三十四年三月
法律第六號ヲ
以テ第一條削
除

此ノ法律ハ明治二十九年四月一日ヨリ施行ス

○生絲検査所法施行細則 明治二十九年四月一日
省令第三號

第一條 生絲検査所ニ於テハ左ノ項目ニ付生絲ノ検査ヲ施行ス

- 一 原量
- 二 正量
- 三 再練
- 四 織度
- 五 類節
- 六 強力及伸度
- 七 練減

第二條 生絲検査所法第二條ノ検査請求者ハ甲號雛形ニ從ヒ検査ヲ要スル項目ヲ記シ請求書二通ヲ生絲検査所長ニ差出スヘシ

第三條 生絲検査所ニ於テ前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ生絲検査所長ハ検査請求書一通ニ生絲搬入及其検査結了ノ時日ヲ記シ之ヲ検査請求者ニ交付ス

第四條 生絲ノ検査ハ請求書受理ノ順序ニ依ルモノトス

但第三條ニ依リ指示セラレタル時日ニ生絲ヲ搬入セサルトキハ此限ニアラス

第五條 生絲検査所所在地ニ在ラサル生絲検査請求者ハ生絲検査所所在地ニ代理者ヲ置キ検査ヲ請求スヘシ

第六條 検査請求者ハ第三條ニ依リ指示セラレタル時日ニ生絲ヲ搬入スルトキハ每一箇ノ重量ヲ記

シタル書面ヲ添付スヘシ

第七條 検査ヲ要スル生絲ヲ生絲検査所ニ搬入シタルトキハ生絲検査所ハ検査請求者ニ對シ乙號雛形ノ預書ヲ交付ス

前項ノ預書ハ検査結了ノ後生絲ノ引渡ヲ受クルトキ之ヲ生絲検査所ニ差出スヘシ

第八條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ荷造ヲ解クトキハ検査請求者ハ之ニ立會フコトヲ得

第九條 生絲検査所ニ於テ生絲ノ検査ヲ終リタルトキハ生絲検査所ハ生絲一箇毎ニ丙號雛形ノ檢定證正副二通ヲ検査請求者ニ交付ス

第十條 生絲検査結了ノ後第一條第一號第二號ノ検査ヲ請求セル生絲ヲ除キ生絲一括毎ニ検査濟ノ證ヲ貼付ス

第十一條 第一條第一號及第二號ノ検査請求者ハ生絲ノ引渡ヲ受クルトキ所員ノ立會ヲ請ヒ檢定正書ヲ其ノ生絲ニ添ヘ荷造ヲナシ之ニ封印ヲ受クヘシ

前項荷造ニ係ル費用ハ検査請求者之ヲ負擔スヘシ

第十二條 第十條ノ検査證又ハ第十一條ノ封印ナキ生絲ハ検査ノ效力ナキモノトス

第十三條 生絲検査所ニ於テハ検査請求者ノ搬入シタル生絲ニ對シ適當ノ保護ヲナスト雖不可抗力ノ爲メ損失ヲ致シタルトキハ其ノ責ニ任セス

第十四條 第一條第三號乃至第六號ノ検査ニ供用シテ消費シタル生絲ハ還付セス

第十五條 検査ヲ請求セル生絲ニシテ検査ヲ與フルノ價値ナシト認ムルトキハ生絲検査所ハ検査請求者ニ對シ其ノ請求ヲ取消サシムルコトアルヘシ

第十六條 生絲検査所ノ検査ヲ請求スル生絲ハ一箇(八貫目以上)以上タルヘシ

第十七條 生絲検査請求者ハ生絲ノ見本ニ就キ第一條第三號乃至第六號ノ検査ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ検査請求者ニハ丁號雛形ノ検査成績表一通ヲ交付ス
第十八條 前條ノ検査請求者ニハ本則第六條第八條第九條第十條第十六條ヲ適用セス
甲號雛形

生絲検査請求書

生絲ノ種別箇數(見本生絲ニ限リ其重量)
所有者若クハ製産者ノ氏名(生産地ノ明カナルモノハ其地名ヲ付記スヘシ)
生絲ノ記號及番號(見本生絲ニ限リ記載ヲ要セス)
検査ヲ要スル項目
前記ノ生絲御検査相成度此段請求候也

年月日

生絲検査所長宛

職業 氏名
住所 名

乙號雛形
第 號

預 書

検査請求者 氏 名

一 生絲ノ種別箇數及皆掛量
一 生査ノ記號
右預置候也

年月日

生絲検査所 印

丙號第一雛形

番號

帝國日本生絲検査所正量檢定證

明治二十八年六月十七日ノ法律

横濱(神戸)明治 年 月 日

請求者

記 號
番 號

生絲ノ種別 箇 此全量

風袋
原量

一箇ヨリ拔出シタル本數

原量ヨリ水分ヲ除去シタル無水量

一箇ニ對スル無水量

水分量一割一分

正量
減量
原量

所 長

「日章旗交又
ノ上ニ掛ケテ
榮尊ヲ顯シタ
ル圖アリ」

「日章旗交叉
ノ上ニ掛ケテ
苧草ヲ顯シタ
ル圖アリ」

番號

帝國日本生絲検査所

練減檢定證

明治二十八年六月十七日ノ法律

横濱(神戸)明治 年 月 日

記號
番號

請求者

生絲ノ種別

原量

無水量

練減後無水量

練減量

練減百分率

所 長

丙號第二雛形

「日章旗交叉
ノ上ニ掛ケテ
苧草ヲ顯シタ
ル圖アリ」

帝國日本生絲検査所

番號

品位檢定證

明治二十八年六月十七日ノ法律

記號
番號

請求者

横濱(神戸)明治 年 月 日

生絲ノ種別

摘 要

正式織度五
百メートル
ニ對スルセ
ンチグラム

織度四百七
十六メートル
ニ對スル
デニール

五本繰返二時間切斷數

工女一人受持籤數 乃至

一分時間回轉數

類節

強 力 種 度

所 長

丙號第二雛形

明治三十一年
一月令第二
改正以テ形

丁號雜形

第 號

帝國日本生絲検査所 見本生絲検査成績表

「日章旗交叉
ノ上ニ掛ケテ
菊章ヲ顯ハシ
タル圖アリ」

記 號	横濱(神戸)明治 年 月 日	
第 號	生絲ノ種別	
請求者		
摘 要	正 式 機 度 百メートル ニ對スルサン チグラム	舊 式 機 度 四百七十六メ ートルニ對ス ルデニール
五本繰返二時間切斷數		
工女一人受持籤數 乃至		
一分時間回轉數		
類 節	強 力	伸 度
		%
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
		〃
	平均	平均
所 長		

○生絲検査規程 明治二十九年四月一日 告示第八號

- 第一 原量
原量検査ハ天秤ヲ以テ生絲一箇ノ全量ヲ檢シタル後風袋其他附屬物ノ重量ヲ秤リ之ヲ控除シタルモノヲ生絲ノ原量トス
- 第二 正量
正量検査ハ生絲一箇ノ原量ヲ秤リ九本ヲ採リテ之ヲ三分シ其二分ヲ各々乾燥器ニ入レ攝氏百十度乃至百三十五度ノ温ヲ與フルコト凡ソ三十分時間ニシテ水分ヲ蒸散セシメタル後各一分ノ減耗百分比例ヲ求メ其差〇・五以下ナルトキハ二分平均ヲ求メテ之ヲ無水量トス若シ其差〇・五以上ナルトキハ更ニ殘リノ一分ヲ検査シ三分ノ平均ヲ求メテ之ヲ無水量トシ之ニ生絲固有ノ含水量一割一分ヲ加ヘテ正量トス
- 第三 再繰
再繰検査ハ生絲一箇中ヨリ五本ヲ採リテ之ヲ再繰器ニ掛ケ生絲ノ細太ニ應シ一分時間四十回内外ノ速力ヲ以テ二時間繰返シ生絲條ノ切斷數ヲ檢スルモノトス
- 第四 織度
織度検査ハ生絲一箇中ヨリ五本ヲ採リテ一本毎ニ長サ五百「メートル」ツ、四口ヲ採リ其一口毎ニ「グラム」ヲ以テ原量ヲ秤リ之ヲ平均シテ織度ノ本位ヲ定ムルモノトス
- 第五 類節
檢定證ニハ賣買上便利ノ爲前項ノ結果ヲ舊式(即チ〇・五三三三グラム)ヲ以テ秤リタルモノニ比較シ列記スルモノトス

明治二十九年
十月七日告示
第二十號
以テ第四織度
ノ項中一及正
除スルモノトス

類節検査ハ生絲一箇中ヨリ五本ヲ採リ一本毎ニ二回ツ、五百「メートル」ニ對スル類節ノ多寡ヲ檢スルモノトス

第六 強力及伸度

強力及伸度検査ハ生絲一箇中ヨリ五本ヲ採リテ一本毎ニ二回ツ、之ヲ「セリメートル」ニ掛ケ強力ハ「グラム」ヲ以テ之ヲ秤リ同時ニ伸度ハ「ミリメートル」ヲ以テ檢シ各其平均ヲ舉ルモノトス

第七 練減

練減検査ハ生絲一箇中ヨリ三本ヲ採リ之ヲ三分シテ其二分ノ無水量ヲ檢シ其絲量四分一ノ馬耳塞石鹼ヲ熱湯ニ溶解シ生絲ヲ麻袋ニ入レテ該湯ニ投シ沸煮スルコト二回ニシテ更ニ微温湯ニ投シ之ヲ攪拌シテ清水ニ移シ能ク洗滌乾燥シテ練減ノ百分比ヲ求メ之ヲ平均シテ護謨質其他ノ物質量ヲ檢定ス而シテ其差一以上ナルトキハ殘リノ一分ヲ検査シ終リニ三分ノ平均數ヲ求メテ之ヲ練減量トス

○生絲検査所官制 明治二十八年七月三日 勅令第九三號

第一條 生絲検査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師 專任七人

技手 專任十七人

書記 專任七人

第二條 所長ハ一人奏任トス技師ヲシテ之ヲ兼ネシム農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

ヲ掌理ス

第三條 技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○生絲検査所名稱位置

名 稱 位 置

生 絲 檢 査 所 神奈川縣横濱市本町一丁目

○生絲検査所處務規程 明治二十九年二月二十一日 訓令第三號

第一條 生絲検査所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス

第二條 生絲検査所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第三條 生絲検査所長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上所中處務細則ヲ設クルコトヲ得

第四條 生絲検査所長判任官以下ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第五條 生絲検査所長ハ月俸拾貳圓又ハ日給五拾錢ヲ超ヘサル雇員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第六條 生絲検査所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第七條 生絲検査所長ハ検査請求者ニ交付スヘキ生絲檢定證ニ署名スヘシ

第八條 生絲検査所長ハ毎年十二月検査成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

三十三年六月
訓令第二八號
ヲ以テ八條中
改正

第九條 農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スル事項ハ總テ農務局長ヲ經由スヘシ

○生絲検査所臨時商議員規程 明治二十九年一月十六日 勅令第一號

第一條 生絲検査所ニ臨時商議員十名以内ヲ置クコトヲ得

臨時商議員ハ横濱若クハ神戸ニ於テ現ニ生絲ノ貿易ニ從事シ經驗アル者ノ中ヨリ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第二條 臨時商議員ハ農商務大臣ノ諮詢ニ應シ生絲ノ検査及之カ施行ニ必要ナル事項ヲ審議スルモノトス

○茶業組合規則 明治二十年十二月二十九日 省令第四號

第一章 總則

第一條 此規則中茶業者トアルハ茶ヲ製造シテ販賣シ又ハ茶園ヲ所有シ茶生葉ヲ販賣スル者及生葉若クハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ヲ總稱ス

第二條 茶業者ハ製造ヲ精良ニシ販路ヲ擴張シ賣買ヲ正確ナラシムルノ目的ヲ以テ組合ヲ設ケ之ニ加入スヘシ但農商務大臣ニ於テ加入ノ必要ナシト認ムル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 自家用製茶ノ殘生葉ヲ販賣スル者ハ各組合ニ於テ制限ヲ設ケ組合ニ加入セシメサルモ妨ナシ

同業者ト合併スルコトヲ得

第四條 郡區ノ狀況ニ依リ茶ヲ製造シテ販賣スル者ト茶園ヲ所有シテ生葉ヲ販賣スル者及生葉若ク

三十二年七月 省令第一七號 改正

廿三年二月 七日省令第三 號ニテ第七條 中設ケテ下東 京ヲ「全國便 宜ノ地」ト改 正ス 二十五年三月 十四日省令第 五號ニテ及第 九條中組合及 聯合會所ノ規 約ノ中央及下 及豫算ノ文 字ヲ追加ス 廿三年一月十 三日省令第一 號ニテ第九條 中「如ク但 書ヲ追加ス」 廿三年一月十 三日省令第一 號ニテ第十一 條中「府下 聯合會所」ニ 並ニ「聯合會 所」ヲ追加ス 規程ノ追加ス

廿五年三月十 四日省令第五 號ニテ第十三 條但書ヲ下ノ

ハ製茶ヲ仲買又ハ販賣スル者ト區別シテ組合ヲ設ケルノ必要アルトキハ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第五條 組合ノ名稱ハ何處何區茶業組合ト稱スヘシ

第六條 組合ハ郡區内便宜ノ場所ニ各組合事務所ヲ置キ其組合ニ關スル一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第七條 組合ハ其氣脈ヲ聯通スル爲メ府縣ノ區畫ニ依リ便宜ノ地ニ聯合會議所ヲ設ケ全國便宜ノ地ニ中央會議所ヲ設ケヘシ

第八條 組合ハ此規則ノ範圍内ニ於テ其業務ニ關シ組合及會議所ノ規約ヲ定ムヘシ

第九條 組合及聯合會議所ノ規約及豫算ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ中央會議所ノ規約及豫算ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

但シ二府縣以上ノ組合全部若クハ幾部聯合シテ別ニ規約ヲ設ケルノ必要アルトキハ其規約ヲ添ヘ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 組合員

第十條 組合員ハ組合ノ名義ヲ以テ營利事業ヲナスコトヲ得ス

第十一條 組合員ハ組合及會議所ノ規約並ニ二府縣以上ノ聯合組合員ハ其聯合規約ヲ遵守シ且其費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

但費用負擔ノ割合及徵收方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第十二條 社名若クハ組名ヲ以テ組合員タル者ハ相當ノ代表人ヲ定メ置キ組合ニ關スル一切ノ責任セシムヘシ

第三章 役員

第十三條 各組合事務所ニハ組長及委員ヲ置キ委員ハ部内ノ組合員之ヲ選定シ組長ハ委員中ヨリ之

廿二年三月十日
五日省令第五十七號
ニテ第五十七條ヲ削除ス

廿五年三月十日
四日省令第五十二號
ニテ第五十二條ヲ更正ス
如ク更正ス

ヲ互選スヘシ

但組長ヲ選任又ハ改選シタルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ委員ヲ選任又ハ改選シタルトキハ其都度届出ツヘシ

第十四條 組長ハ委員ト協議シテ部内組合ノ取締ヲナシ其他一切ノ事務ヲ整理スヘシ

第十五條 組長ハ常ニ營業上ノ利害ニ注意シ組合ノ確實ヲ圖ルヘシ

第十六條 組長ハ部内組合中ニ生シタル紛議ヲ中裁シ及ヒ違約者アルトキハ規約ニ依リ處分スルコトヲ得

但會議所ノ規約ニ違背シタル者ヲ處分シタルトキハ其旨會議所ニ通知スヘシ

第十七條 削除

第十八條 聯合會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ聯合會議ニ關スル事務及ヒ聯合會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第十九條 聯合會議所ノ事務員ハ會議ニ於テ部下組合員中ヨリ之ヲ選定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 聯合會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ聯合會議所ニ列スルコトヲ得

第二十一條 中央會議所ニハ事務員若干名ヲ置キ中央會議ニ關スル事務及ヒ中央會議所ノ規約ヲ以テ定メタル事務ヲ取扱ハシムヘシ

第二十二條 中央會議所ノ事務員ハ中央會議々員ニ於テ全國組合員中ヨリ定員倍數ノ候補者ヲ選定シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ

但時宜ニ依リ組合員外ノ者ト雖モ選舉スルコトヲ得

第二十三條 中央會議所ノ事務員ハ議員ノ資格ヲ以テ中央會議ニ列スルコトヲ得

第四章 會議

第二十四條 役員ノ任期ハ二箇年トス若シ役員其任ニ適セサルトキハ中央會議所ノ事務員ハ農商務大臣ニ於テ聯合會議所ノ事務員及組合事務所ノ組長ハ地方長官ニ於テ其改選ヲ命スヘシ

但補闕役員ノ任期ハ前任役員ノ任期ニ依ルヘシ

第二十五條 會議ヲ分テ聯合會議及中央會議トシ聯合會議ハ聯合會議所ニ於テ中央會議ハ中央會議所ニ於テ定時又ハ臨時ニ之ヲ開クヘシ

但中央會議定時會ノ會期ハ二週日以内臨時會期ハ一週日以内トス若會期ヲ延長スルノ必要ヲ生シタルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十六條 聯合會議ニ於テハ會議所々在府縣ノ組合ニ關スル事項ヲ議定シ中央會議ニ於テハ全國ノ組合ニ關スル事項ヲ議定スヘキモノトス

第二十七條 聯合會議ノ議員ハ部下各組合員若クハ組合委員之ヲ選定シ中央會議ノ議員ハ聯合會議々員之ヲ選定スヘシ

第二十八條 中央會議ノ議員ハ三年以上繼續シテ左ノ資格ノ一ニ該當シ仍引續キ該當スル者ニ限ル

一 茶園一町歩以上ヲ所有シ栽培スルコト

一 製茶五千斤以上ヲ製造スルコト

一 製茶二萬斤以上ヲ賣買スルコト

第二十九條 前條ノ資格ニ該當スル者ナキ地方ニ於テハ其資格ニ最モ近キ者ヲ選出スヘシ

第三十條 聯合會議及中央會議ニ出席スヘキ議員ノ數ハ産額又ハ開港地ヘ輸送額ノ多寡ニ從ヒ規約ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ二箇年トス補闕議員ノ任期ハ前任議員ノ任期ニ依ルヘシ

廿五年三月十日
四日省令第五十二號
ニテ第五十二條ヲ更正ス
如ク更正ス

第三十二條 會議ノ正副議長ハ議員中ヨリ之ヲ互選スヘシ

第三十三條 會議ノ正副議長及議員ノ氏名並ニ會議開閉期日其聯合會議ニ係ルモノハ地方廳ニ其中
央會議ニ係ルモノハ農商務省ニ届出ツヘシ

第三十四條 農商務大臣ハ中央會議地方長官ハ聯合會議ノ開閉又ハ議員ノ改選ヲ命スルコトアルヘ
シ

第三十五條 會議ハ議員半數以上出席セサレハ當日ノ議事ヲ開クコトヲ得ス

但議員半數以上ノ欠席三日以上ニ涉ルトキハ半數以内ト雖モ議事ヲ開クコトヲ得

第三十六條 議事ハ出席員過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ據ル

第五章 規約

第三十七條 各組合ノ規約ハ其部内組合員中ヨリ委員ヲ選定シテ左ノ事項ニ據リ之ヲ定ムヘシ

一 組合ノ位置

一 組合員ノ證票

一 粗悪不正茶取締ノ方法

一 役員選舉ノ方法

一 組合入退者取扱ノ方法

一 違約者處分ノ方法

一 經費賦課徴収支出ノ方法

一 其他組合ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十八條 聯合會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一 聯合會議所ノ位置

一 製茶ヲ改良シ販路ヲ擴張スルノ方法

一 製造及ヒ販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ方法

一 部下ノ組合ニ關スル事務ヲ處辨シ及ヒ紛議ヲ仲裁スルノ方法

一 聯合會議々員及ヒ事務員選舉ノ方法

一 聯合會議ニ關スル規程

一 違約者處分ノ方法

一 經費賦課徴収支出ノ方法

一 其他地方ノ情況ニ依リ必要ナル條件

第三十九條 中央會議所ノ規約ハ左ノ事項ニ據リ會議ニ於テ之ヲ定ムヘシ

一 中央會議所ノ位置

一 全國組合ノ氣脈ヲ聯通スルノ方法

一 内外茶業ノ實況ヲ調査シ及ヒ之ヲ報告スルノ方法

一 中央會議々員及ヒ事務員選舉ノ方法

一 中央會議ニ關スル規程

一 經費賦課徴収支出ノ方法

一 其他中央會議ニ於テ必要ト認メタル條件

第四十條 此規則第二條第九條第十條第十一條ニ違犯シタル者ハ金貳圓以上金貳拾五圓以下ノ罰金
ニ處ス

○製茶産額僅少ノ府縣ニ限リ茶業組合規則施行停止ノ件 明治二十二年七月十八日
省令第七號

一府縣管内製茶產額僅少ニシテ明治二十年^{十二}省令第四號茶業組合法施行シ難キ狀況アリト認メタルトキハ其府縣ニ限リ該規則ノ施行ヲ停止スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ別ニ告示ヲ以テ其府縣ヲ指定ス

但組合ノ設ケナキ府縣ノ茶業者組合ノ設ケアル府縣ニ於テ茶ヲ製造シ又ハ販賣スルトキハ其府縣ノ組合同規約ヲ遵守スヘキモノトス

○茶業組合法施行停止ノ府縣

- 群馬縣 山梨縣 長野縣 福島縣 宮城縣 巖手縣 青森縣
- 秋田縣 山形縣 香川縣 沖繩縣 栃木縣

○茶業組合法則中役員及議員ノ任期並議員資格年限起算ノ件(府縣施行停止ノモノヲ除ク)

明治二十五年三月三十一日
勅令第五號

本年三月農商務省令第五號中第二十四條ノ役員及第三十一條ノ議員任期ハ本年四月一日ヨリ起算シ第二十八條ノ議員資格年限ハ選舉ノ日ヨリ溯算スルモノトス

○產牛馬組合法 明治三十三年二月二十四日
法律第二〇號

第一條 牛又ハ馬ノ生産ニ從事スル者ハ本法ニ依リ組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 組合ハ牛馬ノ改良及組合員ノ共同ノ利益ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 組合ハ郡市以上ノ區域ニ依リ其ノ地區ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ限ニ在ラ

ス

第四條 組合ヲ設置セムトスルトキハ其ノ地區内ニ於テ組合員タルヘキ者ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得テ創立總會ヲ開キ定款ヲ議定シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ牛ノ生産ニ從事スル者及馬ノ生産ニ從事スル者相合シテ組合ヲ設置セムトスルトキハ各別ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ要ス

第五條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ地方又ハ地區ヲ指定シテ組合ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第六條 監督官廳ハ必要ト認ムルトキハ組合ヲシテ種牛馬ノ供給若ハ牛馬ノ系統登錄ヲ爲サシメ又ハ糶場ヲ設ケシムルコトヲ得

第七條 本法ニ規定ナキモノニ付テハ重要輸出品同業組合法第四條但書ヲ除クノ外之ヲ本法ニ準用ス但シ同法第六條乃至第八條、第十一條及第十六條農商務大臣ノ職務ハ地方長官之ヲ行ヒ第九條第十三條及第十五條農商務大臣ノ職務ハ地方長官ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

附 則

第八條 本法ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第九條 重要輸出品同業組合法ノ規定ニ依リ設置シタル產牛馬組合ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第十條 本法施行以前ニ地方長官ノ認可ヲ經テ設置シタル產牛馬組合ニシテ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

○產牛馬組合法施行規則 明治三十三年五月二日
省令第九號

第一條 產牛馬組合ハ本則ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外重要物產同業組合法施行規則ノ定ムル所ニ

依ル

第二條 組合ノ名稱ニハ其事業ノ種類ヲ示シ且之ニ組合ナル文字ヲ附スヘシ

第三條 地方長官組合又ハ聯合會ノ設置ヲ認可シタルトキハ定款及ヒ報告書ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第四條 重要物産同業組合法施行規則第八條、第十二條並ニ第十七條ノ申請及届出ハ之ヲ地方長官ニ爲スヘシ

附則

第五條 本則ハ産牛馬組合法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○馬匹去勢法

明治三十四年四月二日
法律第二二號

第一條 牡馬ニハ去勢ヲ行フ但シ種牡馬ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 牡馬ニシテ種牡馬タルヘキ資質アリト認めタルモノニハ頭數ヲ限り去勢ノ施行ヲ猶豫ス疾病又ハ發育不全ニ因リ去勢ヲ行フニ堪ヘスト認めタルモノ若ハ學術研究ノ爲行政官廳ノ許可ヲ得タルモノニハ去勢ノ施行ヲ猶豫スルコトヲ得

第三條 牡馬ノ去勢年齢ハ明ケ三歳トス

去勢ハ春期又ハ夏期ニ於テ之ヲ行フ

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル牡馬ニハ去勢年齢ニ拘ハラヌ去勢ヲ施行ス但シ明ケ十五歳以上ノモノハ此ノ限ニ在ラス

一 去勢ノ施行ヲ猶豫シ其ノ他己ヲ得スシテ去勢ヲ施行スルコトヲ得サリシ牡馬ニシテ其ノ事由

消滅シタルモノ

二 去勢年齢ヲ經過シタル牡馬ニシテ本法施行後本法ヲ施行セサル島嶼ヨリ牽キ入レ又ハ外國ヨリ輸入シタルモノ

三 本法施行ノ際去勢年齢ヲ經過シタルモノヲ除クノ外種牡馬ニシテ検査合格ノ證明ノ效力ヲ失ヒタルモノ

第五條 牡馬ニシテ去勢施行ノ爲斃死シ又ハ從來ノ用途ヲ變更若ハ廢止スルノ己ムヲ得サルニ至リタルトキハ償金ヲ與フヘシ

第六條 去勢施行ノ費用ニ關スル規定並前條償金ノ査定ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 牡馬ノ去勢ノ施行ヲ拒ミタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 本法ハ種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼ニハ之ヲ施行セス

○種牡牛馬取締ノ件

明治十八年一月二十四日
達第一號

種畜條例發布相成候マテ左ノ項目ニ據リ種牡牛馬取締方法適宜相設可届出此旨相達候事

但種牡牛馬ハ左ノ雛形ニ據リ壹箇年分取纏メ翌年二月十五日限リ農務局ヘ報告スヘシ

第一 牛ハ滿二歳以上滿十歳以下ノモノヲ用フヘシ但洋種ハ十歳以上ニ至ルモ妨ナシ

第二 馬ハ滿三歳以上滿十六歳以下ノモノヲ用フヘシ但洋種ハ十六歳以上ニ至ルモ妨ナシ

第三 遺傳病ナキヲ用フヘシ

- 第四 惡癖ナキモノヲ用フヘシ
- 第五 強壯ニシテ骨格善良ナルモノヲ用フヘシ
- 第六 寸尺ノ制限ハ適宜之ヲ定ムヘシ

何明治種牡馬頭數表

府縣名(ハ朱書)

種牡馬ニ關スル分ハ種牡馬ニ關スル消滅ニヨリ消滅

種	類	年	齡	寸	尺	毛	色	産	地	畜	養	地	名	所	有	者	住
○内國種又ハ洋種乘用農用等		何	歳	何	尺	何	寸	何	色	○何國何郡區何町村又ハ何牧場	○何國何郡區何町村又ハ何牧場	○何國何郡區何町村	○何國何郡區何町村	何	何	何	何

合計

何明治種牡牛頭數表

府縣名(ハ朱書)

種	類	年	齡	寸	尺	毛	色	産	地	畜	養	地	名	所	有	者	住
○内國種又ハ短角種ヲホシ種等		何	歳	何	尺	何	寸	何	色	○何國何郡區何町村又ハ何牧場	○何國何郡區何町村又ハ何牧場	○何國何郡區何町村	○何國何郡區何町村	何	何	何	何

合計

○種牡馬検査法 明治三十年三月二十四日 法律第一二號

三十二年三月法律第九二號ヲ以テ第一條第三條改正第九條追加

- 第一條 牡馬ハ此ノ法律ニ依リ毎年検査ヲ受ケ合格シタルモノニアラサレハ種付ケニ使用スルコトヲ得ス
- 第二條 検査ニ合格シタル種牡馬ニハ軀肢ノ一部ニ烙印シ其ノ所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ
- 第三條 證明書ノ效力ハ滿一箇年トス但地方ノ狀況ニ依リ此ノ年限ニ依ラサルコトヲ得
- 前項期限内ト雖疾病其ノ他ノ事故ニ因リ種牡馬ニ不適當ナリト認メタルトキハ證明ノ效力ヲ停止シ若ハ之ヲ取消スコトアルヘシ
- 第四條 検査ニ關スル費用ハ國庫ノ負擔トス
- 第五條 此ノ法律ハ官廳所有ノ種牡馬ニ適用セス
- 第六條 學術研究ノ爲牡馬ヲ種付ケニ使用セムトスル者アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經特ニ其ノ種付ケヲ許可スルコトアルヘシ
- 第七條 検査ニ合格セサル牡馬又ハ證明ノ效力ヲ失ヒ若ハ停止セラレタル種牡馬ヲ種付ケニ使用シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第八條 種牡馬検査ノ標準及方法検査委員ノ組織其ノ他此ノ法律施行ノ爲必要ノ規程ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 第九條 北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ因リ農商務大臣ハ當分ノ内島嶼ニ限リ此ノ法律ヲ施行セサルコトヲ得

附則

第十條 此ノ法律施行以前ニ與ヘタル種牡馬ノ免許ハ其ノ免期限間效力ヲ有スルモノトス
第十一條 此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ施行ス

○種牡馬検査法施行細則 明治三十年五月十日 省令第四號

三十二年九月十日
四日省令第一
五號ヲ以テ第一
二條第二項ヲ加
次ニ一項ヲ加

第一條 種牡馬ノ検査ヲ受ケントスル者ハ地方長官ニ願出ヘシ
第二條 種牡馬ノ検査ハ地方長官豫メ其期日ヲ告示シ二名以上ノ検査委員之ヲ行フ
検査委員ハ府縣官吏獸醫又ハ産馬業ニ經驗アル者ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス
北海道廳府縣ノ管下ニ屬スル島嶼ニ於テハ第一項ニ據ラサルコトヲ得
第三條 種牡馬ノ資格標準ヲ定ムルコト左ノ如シ
一 年齢滿四歳以上
二 體尺四尺五寸以上
三 強壯ニシテ骨格及性質善良ナルモノ
四 惡癖又ハ遺傳病ナキモノ
地方ノ狀況ニ依リ第一號第二號ノ制限ヲ適用シ難キトキ若クハ前數號ノ外尙ホ必要ト認ムル事項
アルトキハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ適宜之ヲ施行スルコトヲ得

第四條 地方長官ハ前條ノ資格標準ニ合格シタル種牡馬ニハ種牡馬検査法第二條ニ依リ其牡馬ノ左
臂鬣下若クハ蹄壁ニ烙印シ其所有者ニ證明書ヲ下付スヘシ

第五條 地方長官ハ種牡馬検査法第三條但書ニ依リ證明書ノ年限ヲ定メント欲スルトキハ其事由ヲ
具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 地方長官ハ證明書ヲ得タル種牡馬ト雖モ疾病其他ノ事故ニ依リ種牡馬ニ不適當ナリト認メ

三十二年三月
省令第七號ヲ
以テ第五條加

タルトキハ種牡馬検査法第三條ニヨリ其證明ノ效力ヲ停止シ若クハ之ヲ取消スヘシ
第七條 證明書其效力ヲ失ヒ若クハ取消サレタルトキハ該證明書ノ所有者ハ三十日以内ニ之ヲ地方
長官ニ返納スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ第四條ノ證印ヲ烙印スヘシ
第八條 種牡馬ノ種付ヲ爲ストキハ其所有者又ハ管理人ハ證明書ヲ携帶スヘシ

證明書ハ當該官吏又ハ牝馬所有者若クハ管理人ヨリ其閱覽ヲ請求スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第九條 證明書ヲ毀損亡失シ若クハ證明書記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其書換若クハ再渡ヲ
地方長官ニ願出ヘシ

種牡馬斃死シタルトキハ證明書ヲ添ヘ其旨届出ヘシ
第十條 種牡馬ノ所有者又ハ管理人ハ帳簿ヲ調製シ種付牝馬ノ種類、年齢、毛色、體尺、特徴、種付年
月日及其所有者又ハ管理人ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第十一條 牝馬所有者又ハ管理人ニ於テ産駒ノ血統證ヲ請求スルトキハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ
之ヲ交付ヲ拒ムコトヲ得ス

第十二條 種牡馬検査委員其検査ヲ結了シタルトキハ速ニ其成績ヲ地方長官ニ報告スヘシ
地方長官ハ前項ノ報告ニ依リ證明書ヲ下付シタルトキハ種牡馬表ヲ調製シ其種類、年齢、體尺、毛色
及所有者ノ住所氏名ヲ管内ニ告示スヘシ

第十三條 地方長官ハ毎年一回以上主任官吏ヲシテ種牡馬ノ狀況、産駒ノ成績及第十條ノ帳簿ヲ檢
査セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ種牡馬所有者又ハ管理人ハ其検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 地方長官ハ第十二條第二項ノ種牡馬表ヲ告示シタルトキ及第十三條第一項ノ検査ヲ行ヒ

農務 種牡馬検査法

同上ヲ以テ第
八條ニ一項ヲ
加フ

タルトキハ其都度種牡馬表及検査ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ
 第十五條 農商務大臣ハ臨時主任官吏ヲ派遣シ種牡馬検査ノ執行ヲ監督セシメ若クハ種牡馬ノ狀況ヲ監察セシムルコトアルヘシ
 第十六條 第七條第一項第八條乃至第十一條及第十三條第二項ニ違背シタル者ハ一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

○種牡馬検査法ヲ施行セサル島嶼

鹿兒島縣大島郡各島嶼	全	應	色丹郡
同縣薩摩郡ノ内飯島	全	應	新知郡
同縣熊毛郡ノ内屋久島並口永良部島	全	應	紗那郡
北海道廳	全	應	擇捉郡
利尻郡	全	應	占守郡
奧尻郡	全	應	振別郡
禮文郡	全	應	苦前郡ノ内燒尻島天賣島
得撫郡	全	應	得撫郡

○種豚拂下規程 明治三十四年五月十日 告示第五三號

第一條 種豚ヲ拂下ケントスルトキハ種豚ノ種類、牝牡、年齢、頭數、代價及ヒ出願期日並ニ拂下期限ヲ公告スヘシ

第二條 種豚ヲ拂受ケント欲スル者ハ別記書式ニ依リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ拂下願書ヲ差出スヘシ
 前項ノ拂下願書ニハ飼育場ノ設備、飼養管理ノ方法、本業實驗ノ有無、蕃殖豚處分ノ見込等ヲ詳記シタル書面ヲ添附スヘシ
 第三條 出願者一人ニ拂下クヘキ頭數ハ牝牡ヲ合ハセテ三頭ヲ超ユルコトヲ得ス
 第四條 農商務大臣出願者ヲ不適當ナリト認メタルトキハ拂下ヲ許可セズ
 農商務大臣必要ナリト認ムルトキハ期間ヲ指定シテ願書ヲ變更セシムルコトヲ得此場合ニ於テ出願者期間内ニ願書變更ノ手續ヲ爲サルトキハ出願ハ其效力ヲ失フ
 第五條 農商務大臣出願ヲ許可シタルトキハ代金納付ノ期間及種豚引渡ノ期間ヲ指定シ拂下許可證ヲ下付スヘシ
 第六條 拂受人代金ノ納付ヲ怠リタルトキハ拂下ノ許可ハ其效力ヲ失フ
 第七條 拂受人種豚ノ引渡ヲ請求スルトキハ拂下許可證及ヒ代金納付證ヲ當該官吏ニ呈示スヘシ
 拂受人前項ノ證書ヲ呈示セサルトキト雖モ當該官吏ニ於テ拂受人ノ正當ナルコトヲ認メタルトキハ引渡ヲ爲スコトヲ得
 第八條 拂受人引渡期間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ期間後一頭ニ付一日金十五錢ノ割合ヲ以テ飼養費ヲ納付スヘシ
 第九條 拂受人引渡期間後二週間内ニ引渡ヲ請求セサルトキハ拂下ノ許可ハ其效力ヲ失フ此場合ニ於テハ既ニ納付シタル代金ハ之ヲ返還セズ
 第十條 引渡期間満了前ニ於テ拂下ノ目的タル種豚カ滅失シ又ハ廢疾ニ罹リタルトキハ拂受人ノ請求ニ因リ代金ヲ返還スヘシ

拂受人ハ隠レタル瑕疵ヲ事由トシテ契約ヲ解除シ又ハ代金ノ減額若クハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十一條 拂受人ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ

- 一 拂受ケタル種豚ヲ讓渡、貸付若クハ屠殺セントスルトキハ其事由ヲ具シ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ
 - 二 拂受ケタル種豚斃死シ又ハ逸走シタルトキハ其事由ヲ具シ三十日以内ニ農商務大臣ニ届出テ同時ニ血統書ヲ返納スヘシ
 - 三 前年ニ於ケル拂受種豚ノ交尾蕃殖ノ狀況、子豚ノ生育、改良ノ成績等ヲ毎年一月三十一日マテニ農商務大臣ニ報告スヘシ
 - 四 豚ノ飼養、管理及ヒ改良上ニ關シ農商務大臣ヨリ諮問アリタルトキハ速ニ之ニ應答スヘシ
- 第十二條 本規程ハ廳、府、縣、郡、市、區、町村又ハ官立若クハ公立ノ農學校、獸醫學校、畜産學校、農事試驗場、農事講習所ニ於テ種豚ノ讓渡ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス但第三條ノ規定ハ此限ニ在ラス

別記書式(用紙美濃紙)

種豚拂下願書

一何種

何頭

牝(牡)、年齢、代價何圓ノ分

右種豚拂下規程ヲ遵守シ豚ノ改良蕃殖ニ從事致度候間御拂下相成度別紙相添へ此段奉願候也

年月日

農商務大臣宛

住所職業

氏

名印

○獸疫豫防法

明治二十九年三月二十九日
法律第六〇號

第一條 此ノ法律ニ獸類ト稱スルハ牛、馬、羊、豕、犬ヲ謂ヒ獸疫ト稅スルハ左ノ十病ヲ謂フ

- 一 牛疫
- 二 炭疽
- 三 氣腫疽
- 四 鼻疽及皮疽
- 五 傳染性胸膜肺炎
- 六 流行性鵝口瘡
- 七 羊痘
- 八 豕虎列刺
- 九 豕羅斯疫
- 十 狂犬病

第二條 獸類獸疫ニ罹リタルコト若ハ其ノ疑アルコトヲ發見シタル所有者、管理人又ハ獸醫ハ直ニ其ノ旨ヲ所轄警察署又ハ市町村長特別市制ヲ施行スル市ニ於テハ區長市制町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區長、又ハ之ニ準スヘキ者ニ届出ヘシ
所有者又ハ管理人ニ於テ狂犬病ニ罹リタル獸類ヲ撲殺シタルトキ亦同シ

第三條 獸類獸疫ニ罹リタルトキ若ハ其ノ疑アルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ
 檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ鎮錮シ若ハ健獸ト隔離シ其ノ監督ヲ承クヘシ

第四條 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛、羊及狂犬病ニ罹リタル犬ハ所有者又ハ管理人ニ於
 テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ撲殺スヘシ

前項ノ所有者又ハ管理人現場ニ在ラザルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺シ及病
 毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フコトヲ得

第五條 地方長官東京府ハ警視廳、
監以下之ニ依リテハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ病性鑑定ノ爲割檢ヲ要スル獸類ヲ
 撲殺シ又ハ鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リタル獸類ノ撲殺ヲ命スルコト
 ヲ得

第六條 所有者又ハ管理人第四條ノ指揮ニ從ハス及前條ノ命令ニ從ハサルトキハ警察官及獸醫又ハ
 檢疫委員ニ於テ直ニ撲殺スルコトヲ得

第七條 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類ヲ除クノ外此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル
 獸類ノ屍體ハ所有者又ハ管理人ニ於テ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ直ニ之ヲ燒棄又ハ
 埋却スヘシ

前項ノ屍體ハ各部ヲ截取シ又ハ剖檢ヲ爲スコトヲ得ス但シ病性鑑定又ハ學術研究ノ爲特ニ地方長
 官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 所有者又ハ管理人ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ病毒ニ汚染シ又ハ其ノ疑アル
 物品ヲ燒棄、埋却シ若ハ之ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者、管理人、車長又ハ船長ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ獸疫ニ罹リ若ハ其ノ疑ア
 ル獸類ヲ繋留シタル場所、瀛車、船舶等ニ消毒ヲ行フヘシ

所有者又ハ管理人前二項ノ指揮ニ從ハサルトキ及車長、船長前項ノ指揮ニ從ハサルトキハ警察官
 及獸醫又ハ檢疫委員ハ直ニ燒棄、埋却シ若ハ消毒ヲ行フコトヲ得

第九條 此ノ法律ニ依リ撲殺シ又ハ獸疫ニ罹リ斃死シタル獸類ノ屍體及病毒ニ汚染シタル物品ノ埋
 却地ハ發掘若ハ使用スルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條 第四條、第五條及第八條第一項ノ場合ニ於テ地方長官ハ三人以上ノ評價人ヲシテ物品及發
 病前ノ獸類ノ價格ヲ評價セシメ左ノ標準ニ依リ所有者ニ手當金ヲ下付ス其ノ評價額ヲ不當ト認ム
 ルトキハ更ニ他ノ三人以上ノ評價人ヲシテ評價セシムルコトヲ得

一 牛疫、鼻疽及皮疽、傳染性胸膜肺炎、豕虎列刺、豕羅斯疫ニ罹リ撲殺シタ
 ル獸類
 評價額三分ノ一

二 病性鑑定ノ爲撲殺シタル獸類
 評價額五分ノ三

三 牛疫ニ感染ノ疑アル爲撲殺シタル牛羊
 評價額五分ノ四

四 燒棄又ハ埋却シタル物品
 評價額二分ノ一

手當金額ハ第一ノ場合ニ於テハ一頭六十圓、第二ノ場合ニ於テハ一頭百五十圓、第三ノ場合ニ於テ
 ハ一頭二百圓、第四ノ場合ニ於テハ總計十圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 此ノ法律ニ依リ左ニ掲クル獸類ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタトキハ手當金ヲ下
 付セス

一 第二條ニ違背シ届出ナキ獸類及之ニ觸接シタル物品

二 第六條ノ場合ニ於ケル獸類及第八條第一項ニ違背シタル場合ニ於ケル物品

三 狂犬病ニ罹リタル犬及其ノ病毒汚染ノ疑アル物品

四 第十二條ノ命令ニ違背シ移動シタル獸類及物品

五 第十五條ノ命令ニ違背シ檢疫ヲ受ケヌ又ハ輸入シタル獸類及物品

六 有病地ヨリ輸入シタル獸類及物品

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ出入、往來並病毒傳播ノ疑アル物品ノ運搬ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中必要ト認ムルトキハ屠獸場及獸類化製場ノ營業ヲ停止シ又ハ獸類ノ種類ヲ限リ其ノ市場、共進會等ノ開設ヲ停止スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ直ニ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ届出ヘシ

第十四條 地方長官ハ獸疫豫防上必要ト認ムルトキハ區域ヲ限リ健獸ノ検査ヲ行フコトヲ得

第十五條 外國ヨリ獸疫侵入ノ危険アリト認ムルトキハ有病地ヨリ又ハ有病地ヲ經テ輸入スル獸類及物品ノ檢疫ヲ行ヒ若ハ其ノ輸入ヲ停止スルコトヲ得

第十六條 獸疫豫防ニ關スル費用ハ國庫、府縣、市町村及一個人ノ負擔トス其ノ負擔ノ區分ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條 第四條第一項ニ違背シタル者、第五條ノ命令ニ違背シタル者及第十五條ノ檢疫ヲ受ケヌ又ハ輸入停止ニ違背シタル者ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

獸醫第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十八條 第七條、第八條第一項第二項、第九條ニ違背シタル者及第十三條ノ命令ニ違背シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

所有者又ハ管理人第二條ニ違背シタルトキハ罰前項ニ同シ

第十九條 第三條ニ違背シタル者及第十二條ノ命令ニ違背シタル者ハ刑法第二百四十九條ノ例ニ依リ處罰ス

第二十條 第一條ニ掲ケタル獸類獸疫ノ外獸畜傳染病豫防上必要ト認ムルトキハ勅令ヲ以テ此ノ法律ノ全部又ハ一部ヲ他ノ獸畜又ハ他ノ獸畜傳染病ニ適用スルコトヲ得

第二十一條 此ノ法律施行ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

第二十二條 此ノ法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

獸畜傳染病豫防ニ關スル從前ノ規則ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○獸疫豫防法施行細則 明治三十年一月七日

第一條 警察官又ハ市町村長特別市制ノ施行スル市ニ於テハ區長市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ區戶長又ハ之ニ準スヘキ者 獸疫發生ノ届出ヲ受ケタルトキハ地方長官ニ其旨ヲ報告シ同時ニ其部内ニ榜示スヘシ

第二條 獸疫ニ罹リタル獸類ノ全癒、斃死若クハ撲殺ハ所有者又ハ管理者ニ於テ獸醫ト連署シ直ニ所轄警察官署又ハ市町村役場ニ届出ヘシ

前項ノ届出ヲ受ケタル警察官又ハ市町村長ハ地方長官ニ報告スヘシ

第三條 第一條及第二條第一項ノ届出ヲ受ケタル警察官及市町村長ハ相互速ニ通報スヘシ

第四條 獸疫發生ノ届出又ハ通知ヲ受ケ若クハ其發生ヲ探知シタル警察官ハ直ニ現場ニ出張シ必要アルトキハ獸醫ヲシテ診斷セシムヘシ

第五條 第一條及第二條第二項ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ直ニ其旨管内ニ告示シ農商務大臣及鄰接府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

外國ノ獸疫侵入スルカ又ハ一地方ニ於テ獸疫蔓延ノ兆アルトキハ地方長官ハ農商務大臣及鄰接地並ニ航路關係アル道廳府縣ノ地方長官ニ急報スヘシ

第六條 獸疫發生シタルトキハ地方長官ハ其狀況ヲ調査シ毎週別記様式ニ依リ農商務大臣ニ報告ス
ヘシ但シ假性皮疽ハ毎月末ニ報告スルモ妨ケナシ

第七條 地方長官ハ獸疫豫防法第十二條及第十三條ニ依リ停止ヲ命シタルトキハ其旨農商務大臣及
鄰接地並ニ航路ノ關係アル道廳府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第八條 獸疫豫防法第三條ニ依リ獸類ノ鎖飼ヲ要スルトキハ之ヲ一定ノ場所ニ繋キ其逸出ヲ防キ又
隔離ヲ要スルトキハ病獸ヲ在來ノ場所ニ留置シ健獸ヲ安全ノ場所ニ移シ相互ノ交通ヲ絶テ病毒傳
播ノ媒介ヲ防クヘシ

前項ノ隔離ヲ實行シ難キ場合ニハ特ニ警察官ノ許可ヲ得健獸ヲ留置シ病獸ヲ他ニ移スコトヲ得

第九條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ヲ鎖飼シ又ハ隔離シタル場所ニハ警察官ノ許可ヲ得タル者
ノ外出入スルヲ許サス

第十條 地方長官ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ヲシテ獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ鎖飼若クハ
隔離ヲ嚴重ニ監督セシムヘシ但シ必要アルトキハ警察官ヲシテ病獸ヲ看守セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官ハ所屬官吏、市町村吏及獸醫ニ檢疫委員ヲ命スルコトヲ得

第十二條 地方長官ハ獸疫豫防法第十四條ニ依リ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ヲシテ健獸ノ検査ヲ行
ハシムルコトヲ得

第十三條 地方長官ハ獸疫流行中屠場又ハ獸類化製場ノ監督ヲ嚴重ニスヘシ

第十四條 地方長官ハ必要ト認ムルトキハ豫防區域ノ各要所ニ警察官又ハ相當ノ看守人ヲ配置スヘ
シ

第十五條 獸類ノ撲殺ハ其所在地ニ於テ行フヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ燒棄又ハ埋却スヘキ場
所ニ於テスルコトヲ得

第十六條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ屍體ヲ運搬セントスルトキハ天然孔ヲ塞キ全體ヲ消毒
包裹シテ汚物ノ脱漏ヲ防クヘシ其脱漏シタル場合ニハ直ニ之ヲ除去シ其場所ヲ消毒スヘシ

第十七條 獸疫ニ罹リ若クハ其疑アル獸類ノ屍體ヲ埋却セントスルトキハ皮膚ヲ亂截シ消毒藥ヲ散
布スヘシ

屍體及病毒汚染ノ物品ヲ埋却スル土坑ハ深サ八尺以上トシ屍體及物品ヲ投入シタル後厚ク石灰ヲ
散布シ土ヲ以テ土坑ヲ填塞スヘシ但シ羊痘、豕虎列刺、豕羅斯疫、狂犬病ノ場合ニ於テハ土坑ノ深
サ四尺以上トス

第十八條 獸疫豫防法第九條ノ埋却地ハ人家、飲料水、河流及道路ニ接近セサル適當ノ位置ヲ區畫シ
木標ヲ建テ人及獸類ノ往來ヲ禁スヘシ

第十九條 獸疫ノ病毒ニ觸接シタル者又ハ其疑アル者ハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ消
毒シタル後ニアラサレハ他ノ獸類ニ接近スルコトヲ得ス

第二十條 地方長官ハ獸疫豫防法第十二條及第十三條ノ停止ヲ解キタルトキハ其旨管内ニ告示シ農
商務大臣及隣接地並ニ航路ノ關係アル道廳府縣ノ地方長官ニ報告スヘシ

第二十一條 第五條第七條及第二十條ノ報告ヲ受ケタル地方長官ハ其旨管内ニ告示スヘシ

第二十二條 獸類ノ屍體及其病毒汚染ノ物品ヲ運搬スルニハ牛疫、傳染性胸膜肺炎及氣腫痘ノ場合
ニ於テハ牛、鼻疽及皮疽并ニ假性皮疽ノ場合ニ於テハ馬又炭疽ノ場合ニ於テハ牛馬ヲ用フヘカラ
ス

第二十三條 地方長官ハ狂犬病流行ノ際危險アリト認ムル區域ニ於テハ所有者ナキ犬ヲ撲殺セシメ
所有者ノ記名アル犬ハ嚴重ニ繋留セシムヘシ但シ使用上必要ナル飼犬ハ口網ヲ施シ網ヲ附シテ牽
キ行カシムルコトヲ得

面等ニ創傷潰瘍アルトキハ病獸ニ觸接スヘカラサルコト

第十一項 狂犬病ニ罹リタル獸類ニ咬傷セラル、トキハ人、獸類共ニ危險ノ症ニ陥ルヲ以テ狂獸アルノ場合ニハ特ニ注意シテ其逃走ヲ防キ成ル可ク人、獸類ヲシテ狂獸ニ接近セシメス速ニ之ヲ撲殺スルコト

第十二項 狂獸ニ咬傷セラレタル獸類ニシテ其確徴ヲ現ハサ、ル間持主ニ於テ撲殺ヲ欲セサルトキハ嚴重ニ之ヲ鎖錮シ其確徴現ハル、トキ直チニ之ヲ撲殺スルコト

假性皮疽ノ場合ニ於テ鼻粘膜ニ潰瘍又ハ結節ヲ生シタルトキ、結節及潰瘍全身ニ蔓延シ又ハ陰部ニ波及シタルトキ、結節深在シ治術ヲ施シ能ハサルトキ若ハ病症頑固ニシテ劇シキ慮列眞蒙ヲ發シタルトキハ該患馬ヲ撲殺スルコト

第十三項 病獸ノ糞尿其他ノ排泄物及病獸ニ使用シタル敷糞、飼料ノ殘物等ハ散逸ヲ防キ一定ノ場所ニ收集シ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ニ從ヒ燒棄若クハ消毒埋却スルコト

第十四項 病獸ノ取扱人其他總テ病獸ニ觸レタル者ハ其都度消毒スルコト

第十五項 撲殺スヘキ獸類ヲ燒棄場又ハ埋却地ニ牽キ行ク場合ニハ其道筋ハ傳染ノ虞アル獸類ノ所在地ヲ避ケ警察官及獸醫ノ監督ヲ受クヘキコト

第十六項 病獸牽付途中若クハ屍體運搬中ニ於テ糞尿其他ノ汚物ヲ漏ラストキハ土ト共ニ之ヲ除キ去リ其場所ニ濃厚石炭酸水、格魯兒石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

第十七項 病獸ノ屍體ハ石灰乳ニ浸セル布片、綿類ヲ以テ鼻、口、肛門、陰門等ヲ塞キ濃厚石炭酸水又ハ石灰乳ニ浸シタル莖、菰類ヲ以テ全體ヲ纏包シ天然孔ハ成ルヘク上方ニ向ケテ運搬スルカ又ハ特別ノ箱ニ入レテ運搬スルコト

第十八項 病獸若クハ其疑アル獸類ノ屍體ハ皮膚ヲ亂切シ石灰乳、粗製石炭酸又ハ石油ヲ注テ埋却スルコト

スルコト

第十九項 病獸ヲ牽出シタル後厩舎内ノ敷糞、糞便等ハ散逸セサル様運搬シテ燒棄シ若クハ石灰乳又ハ格魯兒石灰水ヲ注キ深ク埋却スルコト

第二十項 厩舎内ハ熱湯汁又ハ熱湯ヲ注キテ充分ニ洗滌シ石灰乳又ハ格魯兒石灰水ヲ注キ窓戸ヲ密閉シ格魯兒瓦斯又ハ亞硫酸瓦斯ノ煙煙ヲ行ヒ二十四時ヲ經テ窓戸ヲ開放スルコト

第二十一項 厩舎ノ隔壁、障木、床板等若クハ熱湯汁又ハ熱湯ヲ以テ洗滌シ石灰乳又ハ格魯兒石灰水ヲ注キ「セメント」、漆喰等ノ床、格魯兒石灰水ヲ以テ洗滌シ損所アレハ新ニ修理ヲ加ヘ腐朽ノ木壁、床板等ハ成ルヘク取毀テ燒棄スルコト

第二十二項 厩舎ノ土床ハ深サ一尺以上掘起シ新鮮ノ土砂ト取換ヘ病毒汚染ノ土ハ敷糞同様ニ處分スルコト

第二十三項 病毒ニ汚染シタル金屬製ノ物品ハ灼熱シ木製ノ器具ハ成ルヘク燒棄シ其燒棄シ能ハサルモノハ熱湯ヲ以テ洗滌シ石灰乳又ハ格魯兒石灰水ヲ注キ曝乾スルコト

第二十四項 糞尿溜及排泄溝ハ汚物ヲ浚滌シ熱湯汁又ハ熱湯ニテ洗滌シテ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布シ浚滌シタル汚物ニハ強硫酸又ハ生石灰ヲ混シ深ク埋却スルコト

第二十五項 運動場、欄柵等ノ病毒ニ汚染シタルトキハ其汚土ヲ掘起シ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布シ欄柵ハ熱湯又ハ熱湯汁ヲ以テ洗滌シ石灰乳又ハ格魯兒石灰水ヲ注クコト

第二十六項 牧場ハ病毒ニ觸レタル部分ヲ區劃シ病毒汚染ノ土ヲ掘起シ生石灰又ハ格魯兒石灰ヲ撒布スルコト

第二十七項 病毒ニ汚染シタル汽車、船舶ハ熱蒸氣ヲ用ヒテ消毒シ之ヲ用フル能ハサルトキハ熱湯又ハ海水ニテ洗滌シ石灰乳又ハ格魯兒石灰水ヲ注キ曝乾シ日光ヲ入ル、コト能ハサル船室ハ更ニ

明治三十三年
告示第三號ヲ
以テ第十二項
中追加

- 格魯兒又ハ亞硫酸ノ燻煙法ヲ行フコト
- 第二十八項 革具類ハ熱湯汁(二百倍)又ハ熱石鹼水ヲ以テ洗滌シ曝乾シテ後濃厚石炭酸水ヲ施スコト
- 第二十九項 病獸又ハ其屍體汚物ヲ取扱ヒ又ハ消毒ニ從事シタル者ノ衣服ハ燒棄シ又ハ沸煮曝乾スルコト
- 第三十項 病獸又ハ病毒汚染ノ物品ニ觸レタル者ノ履物ハ燒棄シ靴ハ石灰乳又ハ濃厚石炭酸水ニ浸シ獸脂ヲ塗リテ曝乾スルコト
- 第三十一項 獸疫流行地ニ於テハ病獸アルノ家ハ勿論總テ獸類飼養者ノ家ニ出入スル者ハ履物ニ注意シ殊ニ牛疫、炭疽、氣腫疽流行ノ場合ニハ成ルヘク入ルトキハ其家ノ構外ニ於テ履物ヲ脱シ出ルトキハ石炭酸水ニテ足ヲ洗ヒ後之ヲ穿ツコト
- 第三十二項 獸疫流行地ニ於テハ厩舎内ニ多量ノ乾草其他ノ飼料及不要ノ器具類ヲ置カサルコト
- 第三十三項 病毒ニ汚染シタル厩舎ニハ消毒ヲ行ヒタル後ト雖成ルヘク長ク傳染ノ虞アル獸類ヲ牽キ入レサルコト但シ之ヲ使用セントスルトキハ警察官及獸醫又ハ檢疫委員ノ指揮ヲ受クルコト
- 第三十四項 獸疫流行地ニ於テハ特ニ左ノ衛生事項ニ注意スヘシ
 - 一 獸類ノ健否ニ注意シ清潔ナル滋養、易化ノ飼料ヲ給スルコト
 - 二 獸體ハ勿論厩舎、器具等ヲ清潔ニスルコト
 - 三 厩舎内ニ新鮮ノ大氣ヲ通スルコト
 - 四 厩舎内ノ溫度ヲ調節スルコト
 - 五 清潔ノ飲料水ヲ給スルコト
 - 六 共同牧場ニ放牧セサルコト

明治三十三年
告示第三十五
項中改正

第三十五項 消毒方法ハ左ノ四種トス

- 一 燒却 燒却ニ適スルモノハ牛疫炭疽等ニ罹リテ斃死セル獸類ノ屍體、肥糞、敷糞、毛布、飼槽、水槽其ノ他甚ク病毒ニ汚染シタル物品ニシテ消毒後再ヒ用ニ供スル目的ナキモノ
- 二 蒸氣消毒 蒸氣消毒ニ適スルモノハ被服、毛布、器具等ニシテ一時間以上攝氏百度以上ノ濕熱ニ觸レシムヘシ但シ革具類ニハ之ヲ避クルヲ要ス
- 三 煮沸消毒 煮沸消毒ニ適スルモノハ被服、毛布ノ類ニシテ沸騰後一時間以上煮沸スヘシ
- 四 藥物消毒 藥物消毒ニ供スル藥劑並其ノ用法ハ左ノ如シ
 - 一 生石灰末 生石灰ニ少量ノ水ヲ加ヘ粉末トナシタルモノ但シ生石灰ハ少量ノ水ヲ加ヘ熱ヲ發シテ崩壊スルモノヲ選ム
 - 生石灰末ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ厩舎、糞尿溜、屍體等ノ消毒ニ用フ
 - 石灰乳(十倍) 生石灰一分
水九分
 - 石灰乳ハ用ニ臨ミテ之ヲ製シ一分ノ生石灰ニ九分ノ水ヲ徐々ニ加ヘ攪拌スヘシ其用量ハ生石灰末ノ五倍トス
 - 普通石灰ヲ生石灰末、石灰乳ニ代用スル場合ニハ倍量ヲ用フヘシ
 - 石灰乳ハ厩舎ノ隔壁、隔木、欄柵、床板其ノ他病毒ニ汚染セル場所ノ消毒ニ用フ
 - 一格魯兒石灰水(二十倍) 格魯兒石灰五分
水九十五分
 - 格魯兒石灰水ノ應用並用量ハ石灰乳ニ同シ但シ用ニ臨ミテ製スヘシ
 - 一石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸五分
酸一分水九十四分
 - 石炭酸水ヲ製スルニハ石炭酸五分ニ凡水一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ定量ノ水ヲ注キ後鹽酸一分ヲ加フヘシ温湯ヲ用フレハ其ノ溶解殊ニ速カナリトス但シ使用ノ際ニハ毎回振

盪スルヲ要ス

石炭酸水ハ屍體、金屬、木製ノ器具器械、革具類ノ消毒ニ供ス
稀釋石炭酸水 結晶石炭酸三分鹽
酸一分水九十六分

手足等ノ消毒ニ供ス但シ石炭酸水ニテ洗滌シタル後更ニ清水ヲ以テ洗淨スヘシ
粗製石炭酸

一 屍體、排泄物、糞尿溜等ノ消毒ニ供ス

一 昇汞水(千倍) 昇汞一分鹽酸十分
水九百八十九分

昇汞水ヲ製スルニハ昇汞ヲ定量ノ水ニ溶解シ後鹽酸ヲ加フヘシ

昇汞水ハ猛毒ニシテ無臭ナルカ爲メ危險ヲ來シ易シ故ニ貯藏使用ノ際十分ニ注意ヲ加フ
ルヲ要ス但シ金屬製ノ器ニ貯藏スヘカラス

昇汞水ハ陶器、石器、木製器具ノ消毒ニ供ス

一格魯兒瓦斯 格魯兒石炭一分ニ粗製硫酸又ハ鹽
酸二分ヲ注キ瓦斯ヲ發生セシム

厩舎、日光射入ノ惡シキ室内等ノ薰煙ニ供ス但シ窓戶ヲ密閉シテ薰煙シ一兩日ノ後窓戶ヲ放
開シ風ヲ通スヘシ

一 熱滴汁 粗製加里又ハ曹達一分水二十分若ハ新
製ノ木灰一分水五分ヲ煮沸シテ製ス

厩舎、器具等ノ洗滌消毒ニ供ス

第三十六項 左ニ各獸疫ノ病性、原因、症候ヲ略説ス

一 牛疫

(病性) 牛疫ハ牛屬固有ノ熱性傳染病ニシテ羊、山羊及他ノ反芻獸ニ傳染ス傳播ノ迅速ナル斃
死ノ夥多ナル獸疫中最モ險惡ノ症ナリトス

(原因) 傳染毒ノ本態ハ未タ詳ナラスト雖固性並ニ揮發性ニシテ病獸ノ呼吸氣、津唾、涙、鼻、口、
眼ノ粘液、汗、糞、尿、血液並ニ體內諸臟器ニ存ス或ハ病獸ヨリ直接ニ傳染シ或ハ間接ニ糞、敷
藁、芻秣、毛、皮、肉、被服、汽車、船舶、家畜商、犬、家禽等ノ媒介ニ由テ傳染ス

傳染毒ハ乾燥ノ氣中ニ在テハ速ニ死滅スルモノ、如シ然レトモ嗜好ノ境遇ニ在テハ數週間乃
至數箇月勢力ヲ保ツ本疫ノ始テ侵入スルヤ其毒勢最モ強烈ナリ傳染毒ハ攝氏六十度以上ノ熱、
零下十五度ノ寒氣、腐敗及諸種ノ消毒藥ニ依リ滅殺スルコトヲ得

(症候) 本病ハ急性ノ經過ヲ取リ主トシテ消化器粘膜炎ヲ侵ス病毒ノ潜伏期ハ普通六日乃至九日
トス初兆ハ熱候ニシテ體温ハ攝氏四十一度若クハ四十二度マテ昇騰シ脈小ニシテ一分時ニ六
十乃至百二十ヲ算シ泌乳、食慾共ニ減少シ倦怠シテ頭ヲ低ル斯ノ如キ前兆ニ續テ惡寒戰慄シ
皮温不均、呼吸促進、各部ノ粘膜炎ハ特ニ紅ヲ潮シ食慾、反芻全ク止ミ反テ渴ヲ増ス通便遲滯シ
糞ハ乾固ニシテ粘液ヲ附着シ間々輕キ痙攣ヲ發ス次テ眼、鼻、陰門ヨリ液 初期ハ漿液様末期ハ膿液
ニ粘液ヲ雜ヘタルモノ
ヲ漏ラシ大ニ流涎ス糞ハ漸次ニ柔軟流動狀トナリ大ニ下痢ス其糞汁ハ粘液様ニシテ惡臭ヲ放
チ往々血液ヲ混シ頻ニ努責窘迫シ直腸ノ粘膜炎露出ス病獸ハ速ニ羸瘦シ行步踉蹌トシ時ト
シテハ大ニ興奮シテ不安トナリ發狂ノ狀ヲ呈シ或ハ呼吸困難トナリ重性肺炎ノ徵ヲ發ス
口腔及陰腔ノ粘膜炎ハ赤色ノ斑點若クハ線條ヲ現ハシ灰白色乃至灰黃色ノ乾酪様滲出物 痙攣之ヲ
覆フ其滲出物ハ容易ニ剝脱シテ暗赤色ノ爛斑ヲ呈ス輕症ニ於テハ痙攣ヲ缺如スルコト
アリ又皮膚ニ小結節、膿疱及痂皮ヲ見ルコトアリ
以上ノ症候漸次充進スルニ從ヒ眼、鼻、口ノ分泌液增多シ惡臭ヲ放チ陰門、肛門哆開シ體温沈
下シ虚脱シテ斃ル

(經過及豫後) 豫後不良ニシテ大約一週日ヲ經レハ斃ル經過ハ疫ノ性質及牛ノ種類ニ依テ差アリ侵入

ノ初ニ當リテハ急劇ナルモ其終ニ及ヘハ漸ク輕緩トナル斃死ノ割合ハ百頭ニ付凡ソ九十頭乃至九十五頭ナリ

二 炭疽

(病性) 炭疽ハ一種ノ杆菌^{バチルス}ニ依テ發スル危險ノ傳染病ニシテ哺乳獸及鳥類ヲ侵シ通常病獸ヨリ直接ニ傳染セス人類、器具、芻秣、昆蟲等ノ媒介ニ由テ傳染シ又地中潜伏ノ病毒ヨリ傳播ス

(原因) 病毒ハ動物體ノ各部ニ存シ就中血液、分泌液、内臟、糞便等ノ中ニ多シ此細菌ハ芽胞ヲ生ス而シテ芽胞ハ頗ル抵抗力ニ富ミ容易ニ死滅セス地中ニ在テハ幾年間勢力ヲ存スルヲ以テ極テ危險ナリ

(症候) 此病ハ俄然發生シ急劇ノ經過ヲ取り多クハ一日乃至三日以内ニ斃ル其主要ノ徵候ハ劇甚ノ全身違和、大熱、粘膜出血トス此他皮膚ノ癰、浮腫、腸患、腦症、呼吸困難ノ如キ局所症候アリ隨テ炭疽ニ種々ノ細別アリ

甲 局部發生ナキモノ即チ通常芽胞傳染ニ依テ發スルモノニシテ甚急性、急性及次急性ノ別アリ(一)甚急性炭疽ニ在テハ腦卒中ノ狀ヲ呈シ數分時乃至一時間ニシテ口、鼻、肛門等ヨリ血液ヲ漏ラシ搐搦ヲ發シテ斃ル往々前夜壯健ノ獸翌朝ニ至テ斃死スルヲ見ルコトアリ又勞役、放牧若クハ採食中卒倒スルコトアリ此種ハ牛羊ニ多ク特ニ流行ノ初ニ方リテ屢々之ヲ見ル(二)急性炭疽ハ經過前者ニ比スレハ較々長ク二時間乃至十二時間ニ至リ最モ長キハ二十四時間ヲ閱ス病獸ハ急ニ發熱シ^{體温攝氏四十度乃至四十二度}腦充血又ハ肺充血ノ徵ヲ呈シ天然孔ヨリ血液ヲ漏ラシ搐搦ヲ發シ遂ニ窒息ニ由テ斃ル時トシテハ症狀一時輕減シ再ヒ舊ニ復ス(三)次急性炭疽ハ炭疽熱又ハ間歇性炭疽ト稱スルモノニシテ普通牛馬ニ於テ見ル所ノ症トス症候ノ大體ハ急性

ニ同シキモ經過ハ平均二十四時乃至四十八時最モ長キハ五日乃至七日ニ彌ル熱候顯著ニシテ惡寒戰慄、皮温不定、全身大違和等ノ外肺充血及腦充血ノ徵ヲ發シ之ニ加フルニ重症腸患ノ狀^{痲痛}ヲ以テシ病勢ノ弛張頗ル頻繁ナリ

乙 局部發症アルモノ即チ通常杆菌傳染ニ依テ發スルモノナリ皮膚ノ癰及浮腫ハ特ニ牛馬多ク癰ハ限局シ其初メ硬固ニシテ熱痛ヲ帶フルモ後ニハ寒冷無痛ニシテ脱疽ニ陥ル浮腫ハ扁平捏粉樣ニシテ往々波動シ寒冷無痛ナリ經過ハ三日乃至七日ニ亘リ治癒スルモノ少シトセス腫腸發生ノ前後ハ發熱ス

又癰及浮腫ハ舌、咽喉及直腸ニ發ス所謂舌炭疽、咽喉炭疽、直腸炭疽是ナリ此等ノ場合ニ於テハ癰ノ外熱、呼吸困難、喉頭狹窄音、嚥下困難、一般ノ「チアノーゼ」ヲ呈シ顎下、頸、胸前等ニ腫瘍ヲ發シ通便ニ方リ窘迫シ疼痛ヲ訴ヘ十二時乃至二十四時間内ニ斃ル此種ハ豕、犬ニ最モ多シ

動物ノ種類上ヨリ論スレハ間歇性炭疽、炭疽性卒中及癰ハ牛馬ニ多ク羊ニ在テハ炭疽性卒中ヲ主トシ犬ニ在テハ癰、豕ニ在テハ咽喉及舌ノ炭疽ヲ主トス

(豫後) 豫後ハ概シテ不良ニシテ斃死ノ割合ハ百頭ニ付凡ソ七十頭乃至九十頭トス最急性ノモノハ悉ク死ス時トシテ經過輕易ニシテ自然ニ治スルモノ亦ナキニアラス一タヒ此症ニ罹リテ恢復スレハ暫時死病質トナル

(公衆衛生上ノ關係) 炭疽ハ人ニ傳染シ險惡ノ症ヲ發セシムルヲ以テ公衆衛生上至大ノ關係アリ愛知縣、埼玉縣ニ於テハ往年此傳染ノ爲メ惡疾ヲ發シ死去シタル者アリ而シテ人ノ傳染スルハ創傷ヨリ毒ヲ受ケ又ハ病獸ノ肉ヲ食スルニ由ル

三 氣腫疽

(病性) 本病ハ特異ノ細菌ニ依テ發スル牛ノ傳染病ニシテ主トシテ幼牛ヲ侵ス其病毒ハ皮膚又ハ粘膜ノ傷創ヨリ體內ニ入ル

(原因) 病毒ハ抵抗力至大ニシテ二年間モ發芽力ヲ失ハス尋常薄弱ノ消毒藥ハ病毒ヲ殺滅スルヲ得ス本病ノ常在地ニ於テハ病毒ハ地中ニ存シ之ヨリ傳染ス

(症候) 氣腫疽ハ急劇ノ傳染病ニシテ皮膚ニ啞膿性ノ腫瘍ヲ發シ全身症狀、水脈腺腫及運動異常ヲ呈ス氣腫ハ體ノ諸部上部、頸部、胸、腋、十字部等ニ發スルモ飛節及腕節ヨリ下方ニハ曾テ發スルコトナシ罕ニハ口蓋、舌根、咽頭ニ發スルコトアリ腫瘍ハ初起小ニシテ疼痛ヲ帶ヒ速ニ蔓延シ數時間内ニ於テ非常ニ巨大トナリ甚シキハ全軀幹ニ散蔓スルコトアリ試ミニ腫瘍ヲ壓スレハ啞膿音鹽ナ火中ニ投シテ燒クカ如キ音ヲ發シ之ヲ打テハ鼓音ヲ放テ瘍ノ中央ハ乾燥無感覺ニシテ黑色ヲ帶ヒ皮革ノ如シ甚シキハ全ク壞死シテ冷却ス之ヲ切ルモ疼痛ヲ覺エス暗赤色ニシテ惡臭アルノ泡沫液ヲ漏ラス腫瘍ハ一箇ニ過キサレモノアリ又數多簇發スルモノアリ腫瘍鄰接ノ水脈腺ハ大ニ腫脹ス

全身症狀トシテハ食欲、反芻頓ニ廢絶シ病獸ハ倦怠沈憂シ大熱攝氏四十度マテヲ發シ肢ニ氣腫アルカ爲メ大ニ運動異常ヲ呈シ或ハ跛行シ或ハ步履強拘トナリ或ハ四肢ヲ地上ニ曳ク氣腫ノ蔓延スルニ從ヒ呼吸愈々促進シ時トシテハ痲痛ヲ發シ急ニ虛脱シテ斃ル

(潜伏期) 潜伏期ハ平均二日ナリ病性急劇ナルヲ以テ發病後一日半乃至三日ニシテ斃レ治スルコト罕ナリ

四 鼻疽及皮疽

(病性) 本病ハ馬屬ニ發スル惡性傳染病ニシテ一種特異ノ細菌ニ原因シ皮膚、水脈系及呼吸器ヲ侵スモノトス

(原因) 本病ハ直接ニ病獸ヨリ健獸ニ傳染シ又馬具、被衣、飼槽等ノ如キ媒介物ニ依テ傳染ス皮膚、潰瘍ノ分泌液、鼻ノ漏液ハ最モ傳染力ヲ逞フスルモ病毒ハ又諸内臟及血液中ニ存ス病獸侵入ノ徑路ハ呼吸器粘膜、皮膚及消化器粘膜トス

(症候) 本病ニ慢性ト急性トノ二種アリ各其症候ヲ異ニス

甲 慢性症ノ初發ハ緩慢陰微ニシテ年月ノ久キニ彌ルヲ以テ人多クハ之ヲ覺ラス隨テ從前ハ非常ニ長キ潜伏期ヲ有スルモノト看做シタリ然ルニ接種試驗ニ依レハ潜伏期ハ僅々三日乃至五日ニ過キス

鼻疽ノ主徴ニ三アリ(其一)鼻ノ一孔若クハ兩孔ヨリ灰白色ノ粘液少量ヲ漏ラス末期ニ至レハ潰瘍ヨリ出ル灰黄色又ハ灰綠色ノ粘稠液ニ清澄水様ノ加答兒分泌液ヲ混ス其狀恰モ菜種油ニ蛋白ヲ混シタルカ如シ又往々漏液中ニ血液ヲ混ス(其二)鼻粘膜ニ小結節及潰瘍ヲ生ス時トシテ此二者全ク缺如シ或ハ晚期ニ至リ始テ發生ス鼻腔下端ノ少結節ハ管ニ目擊シ得ルノミナラス又指以テ觸ル、ヲ得ヘシ小結節ハ速ニ潰瘍ニ變ス潰瘍ハ淺深一ナラス瘍底ハ凹陷シテ豚脂界ヲ呈ス少量ノ惡性膿ヲ漏ラス瘍縁ハ突隆シテ蝕蝕セラレタルカ如キ觀アリ(其三)顎下水脈線腫脹シ概ネ下顎骨ノ内側ニ固著シテ醜膿セス

營養漸次不良トナリ皮膚粗剛、毛色光澤ヲ失ヒ全身羸弱シ呼吸困難ヲ加ヘ咳嗽頻發ス不正ノ弛張熱又ハ間歇熱ヲ檢定スルコトアリ又衄血、血尿及骨折ノ素因ヲ認ムルコトアリ末期ニ及ヘハ四肢、胸腹ノ下面ニ浮腫ヲ發シ關節、陰囊、辜丸等ニ炎腫ヲ生ス

皮疽ハ前胸、肩、胸、腹、四肢或ハ其他ノ部位ノ皮膚及皮下織ニ豌豆大乃至胡桃大ノ結節ヲ生シ初ハ硬固ニシテ且疼痛アリ然レトモ漸次其結節ノ中心柔軟トナリ波動ヲ呈シ終ニ破潰シテ噴火口ノ狀ヲ呈シ黄色ノ液ヲ漏泄ス小潰瘍ハ痂皮ニ覆ハル、モノアリ病勢ノ進ムニ從ヒ結節

所謂 球腫葉々發生シ各潰瘍ニ遠絡セル水脈管ハ腫起シテ索狀ヲ呈シ所謂 素腫處々新球腫ヲ發シ恰モ念珠ノ如シ關係アルノ水脈腺亦腫脹硬結シ又ハ膿ヲ醸ス久シキヲ經レハ大ニ衰弱シ甚シキハ斃ル

乙 急性症ハ比較的馬ニ少ク驢騾ニ多シ初ヨリ急性ノ經過ヲ取リ或ハ慢性ノ症全身ニ汎發シテ急性トナリ或ハ他ノ急性病ト合併シテ來ル接種皮鼻疽ハ必ス急性ナリ病狀ハ急劇ナル敗血性傳染病ノ微ニシテ呼吸器粘膜炎潰爛シ皮膚、肺臟及他ノ臟器ニ病毒轉移ヲ致ス

本病ハ寒戰、大熱攝氏四十二度ヲ發シ鼻孔ヨリ膿樣粘液ヲ漏ラシ晚期ニ至レハ血液及敗膿ヲ泄ラシ間々之ニ唾液、食餌ヲ混ス鼻粘膜ハ小結節及潰瘍ヲ發シ潰瘍ハ往々彼此湊合シ終ニ鼻粘膜ノ全部潰爛シ實扶の里塊ヲ被ムル斯ノ如キ變化ハ僅々二三日内ニ發生ス呼吸ハ同時ニ促進シ氣息喘々タリ右ノ他更ニ皮疽ヲ發シ皮膚ノ浮腫、球腫、潰瘍、水脈管ノ索腫、水脈腺ノ腫脹、化膿ヲ見ル食慾減損、嚥下間々困難ニシテ下痢ヲ發シ尿ハ多量ノ蛋白ヲ含ミ體軀ハ急ニ瘦削ス

(經過及豫後)

慢性ノ鼻疽及皮疽ハ緩慢ニシテ數週、數箇月若クハ數年ノ久キヲ經テ鼻粘膜又ハ皮膚ヨリ肺ニ轉移ス所謂 膿反疽極テ頑固ノ症ハ七年ニ彌ルコトアリト云フ急性ハ三日乃至十四日ニシテ斃ル

(公衆衛生上ノ關係)

鼻疽及皮疽ノ病毒ハ創傷面ヨリ人ニ傳染シ致命ノ症ヲ發スルヲ以テ病馬ニ觸ル、者ハ慎重ノ注意ヲ要ス

五 傳染性胸膜肺炎

(病症) 傳染性胸膜肺炎ハ一ニ肺疫ト稱ス牛屬特異ノ傳染病ニシテ肺及胸膜ニ炎症ヲ發ス牛疫ニ亞ク險惡ノ症ニシテ最初散發スルコトアルモ多クハ地方性ヲ呈シ或ハ大ニ流行シ某地方ニ於テハ常在病トナル牛屬ノ外山羊ニ發スト云フ

(原因) 病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ病牛ノ呼吸氣中ニ存シ直接ニ病牛ヨリ健牛ニ傳染シ或ハ人及他ノ媒介物ニ依リ間接ニ傳染ス牛商ノ貨廐ハ傳播上極テ危險ナリ

(症候)

潜伏期ハ平均三週乃至六週日ニシテ一タヒ之ニ罹リタル牛ハ數年間又ハ終生免病ス本病ニ慢性ト急性トノ二期アリ

甲 慢性期即チ發生期ニシテ一ニ隱症期ト稱ス慢性肺病ノ微ヲ發シ二週乃至六週ニ亘ル罕ニハ數日ニ過キス肺ノ小葉ニ微細ノ病竈アルニ過キサルヲ以テ初起ハ短ク且乾キタル痛咳ヲ發シ漸々其數ヲ増シ強キ濕聲ノ咳嗽頻發スルニ至ル食慾、泌乳共ニ減少シテ三十九度半乃至四十度ノ熱ヲ發シ皮温均一ナラス肺ノ打診、聽診ノ結果ハ殆ント常態ニ異ナラサルカ或ハ氣胞音ノ常ヨリモ組腐若クハ微弱ナルヲ聞ク肋間部ヲ壓スレハ疼痛ヲ訴フ罕ニハ此期ニ於テ治ス

乙 急性期

一ニ發顯期ト稱シ此期ニ至レハ熱勢大ニ亢進シテ肋膜肺炎ノ諸徵明瞭トナリ呼吸疾速、困難、前肢ヲ開張シテ起立シ臥スコトヲ欲セス鼻孔豁開シ臍部ノ波動甚シク呼吸スル毎ニ呻吟ス試ニ背、腰及肋間部ヲ壓スレハ苦悶ヲ訴フ咳嗽ハ濕唝聲ヲ帶ヒ咳スル毎ニ苦悶ス又鼻孔ヨリ粘液ヲ漏ラシ間々之ニ血液ヲ混シ或ハ惡臭膿樣ノ液ヲ漏泄ス打診スレハ初期ニ鼓音後ニハ濁音ヲ發ス而シテ濁音ハ肺ノ大部ヲ占ム聽診スレハ氣胞音微弱若クハ全缺其代リトシテ氣管支呼吸、羅音及摩擦音ヲ聞ク肺ノ健部ニ於テハ氣胞音粗厲ナリ體温攝氏四十度乃至四十二度脈八十乃至百若クハ其以上ヲ算シ皮温定ラス鼻端乾燥、皮膚粗剛、食慾、反芻、泌乳共ニ休止、煩渴引飲、通便澀、尿ハ蛋白ヲ含ミ、孕牛ハ流産シ易シ、病久キヲ經レハ呼吸益困難ヲ加ヘ胸垂、胸下四肢ニ浮腫ヲ發シ倦怠、羸瘦甚シク終ニ窒息シテ斃ル

(經過及豫後) 肺疫ノ經過ハ時トシテハ急性時トシテ慢性ナリ概シテ強壯ノ幼獸並ニ良美ノ食ヲ喫スルモノニ在テハ急劇ニシテ老獸並ニ水分過多ノ食ヲ取ルモノニ於テハ緩慢ニシテ險惡ナリ病

獸百頭ニ付五十頭乃至七十頭ハ斃死シ三十頭ハ治癒不全ニシテ肺臟ニ慢性ノ變化ヲ貽スモノ多シ

牛ノ大群ニ於テハ疫ノ經過ハ奇異ニシテ初メ數頭ニ散發シ數週ヲ經ルノ後他ノ牛ヲ侵シ次テ大ニ蔓延ス斯ノ如クシテ疫ハ一廐舎ニ存在スルコト數箇月若クハ半年ノ久シキニ亘リ終ニ常在病トナル

六 流行性齙口瘡

(病性) 流行性齙口瘡ハ一名ヲ口蹄疫ト云フ急性發疹ニ屬スル所ノ傳染病ニシテ口腔粘膜、趾間ノ皮膚及乳房ニ水泡ヲ發シ主トシテ牛、羊、山羊及豕ニ發ス罕ニハ馬、犬、猫及家禽ニ傳染ス又人ニ傳染スルコト罕ナリトセス一タヒ此症ニ罹ルモ免病質ヲ得ス

(原因) 病毒ノ本態ニ關シ區々ノ說アリト雖未タ明確ナラス病毒ハ唾液、水泡ノ含液、乳汁、血液、糞尿、呼吸等ニ存シ頗ル粘靱ニシテ糞便等ノ中ニ在テハ數箇月若クハ一年間モ有力ナリ病獸ヨリ直接ニ傳染シ或ハ媒介物ニ由リ間接ニ傳染ス而シテ疫ハ専ラ交通貿易ニ依テ傳播ス

(症候) 牛ニ於テハ口腔粘膜、蹄冠及ヒ趾間ノ皮膚ニ水泡及潰瘍ヲ發シ羊、山羊、豕ニ在テハ病症概ネ足部ニ限局ス

(一) 口腔ノ症候 平均三日乃至五日ノ潜伏期ヲ經テ發熱シ口腔粘膜紅ヲ潮シ食慾、泌乳減少シ反芻休止兩三日ヲ經レハ齒齦、舌、頰、唇等ニ麻仁大ノ黃白色水泡ヲ點見ス此水泡ハ漸々増大シ間々甲乙湊合ス初メ澄液ヲ含ムモ後ニ至レハ渾濁シ膿様ノ液ニ變ス終ニ水泡ハ破潰シテ深紅色ノ上皮剝脫而テ呈シ所謂頻ニ唾液ヲ漏ラス水泡多クハ鼻鏡ニ蔓延ス本病ノ經過中病獸ハ大ニ羸瘦シ乳汁ハ一變シテ黃白色ヲ帶ヒ凝固シ易ク其味佳ナラス乳脂、乾酪ヲ製シ難シ病ノ經過ハ一二週日ニ過キサレモ合併症アルトキハ經過一變ス合併症ハ乳房ノ發疹、乳房炎

咽喉炎嚥下困難、食餌逆出、咳嗽、異物性肺炎、鼻腔及氣管支加答兒等ナリ又口腔ノ滲出劇甚ナルトキハ格魯布様ノ附著物ハ上皮ト共ニ分解シ臭氣ヲ放ツ又哺乳ノ幼獸ハ重性胃腸加答兒ヲ發スルコトアリ又子宮、陰腔、胸腹ノ皮膚竝ニ角膜ニ水泡ヲ發ス又角ノ實質發炎シ角根ニ水泡ヲ發シ脫角スルコトアリ

(二) 蹄ノ症候 蹄冠部及趾間ノ皮膚ハ口腔粘膜ノ如ク紅ヲ潮シ熱痛ヲ帶ヒ一兩日ヲ經テ水泡ヲ發ス水泡破潰スレハ病獸躑躅シ多クハ伏臥ス通常一二週日ヲ經テ治ス合併症ハ趾間皮膚ノ羅斯性炎症、潰瘍、膿腫、癰疽、關節炎、骨疽、脫蹄、膿毒症等トス

(經過及豫後) 口蹄疫ノ經過ハ年ニ依テ輕重ノ別アルモ概シテ定型的ノ良性經過ヲ取リ二三週日內ニ癒ユ斃死ハ皆無若クハ百頭中僅ニ一頭ニ過キス然レトモ或ル年ニ於テハ惡性ニシテ成長獸ハ百頭中一頭乃至五頭哺乳幼獸ハ五十頭乃至八十頭斃死ス

一廐舎若クハ一獸群中ニ於ケル疫ノ經過ハ四週乃至六週日ニ亘リ通常速ニ傳播スルモ或ハ徐々蔓延スルコトアリ一旦治癒ニ赴ケハ羸瘦セル者速ニ舊態ニ復ス時トシテハ瘦削、泌乳減少、皮膚粗剛、乳房炎、經久蹄病、痒性皮炎、跛行等ノ如キ餘病ヲ貽スコトアリ

七 羊痘

(病性) 羊痘ハ羊屬固有ノ熱性傳染病ニシテ皮膚ニ痘瘡ヲ發ス群羊ニ傳播シ大ニ羊毛ヲ損スルヲ以テ農業經濟上至大ノ關係アリ

(原因) 傳染毒ハ固性竝ニ揮發性ニシテ病羊ノ排泄物、分泌物、呼吸、皮膚蒸發等ニ存シ特ニ痘漿中ニ多シ毒性ハ粘靱ナルヲ以テ其病毒ニ汚染セル羊舎ニ在テハ五六箇月間モ毒力ヲ存スト雖消毒藥ヲ施セハ容易ニ死滅ス

本病ハ病羊、種痘羊ヲ健羊ノ群中ニ牽入ル、ニ依リ又媒介物牧羊者、犬、衣服、羊毛、糞、飼料、漁車等ニ由テ傳播ス牛、

山羊、豕及人ニモ傳染スルコトアリト云フ

(症候) 平均四日乃至七日ノ潜伏期ヲ經テ發熱シ倦怠、沈鬱、頭ヲ低レ食慾、反芻共ニ減少ス體温ハ四十一度乃至四十二度マテ昇騰シ脈搏疾速、呼吸増數、結膜潮紅シ眼、鼻ヨリ漿液ヲ漏ラシ一二日ヲ經レハ手ノ稀疎ナル局部顔面、四肢ノ内面、胸腹、尾ノ下面ニ紅斑ヲ發ス罕ニハ密毛ヲ帶ル部並ニ口腔、咽頭ノ粘膜ニ發疹ヲ見ルコトアリ

發疹後第五日ニハ小結節ノ頂頭褪色シ紅暈ヲ匝ラシ痘圍ノ皮膚ハ腫脹ス之ト同時ニ熱ハ減退シ更ニ數日ヲ經レハ水泡増大ス水泡ハ隆起シ或ハ扁平ニシテ淋巴様ノ無色液若クハ黃赤色ノ液ヲ含ム發疹後六日乃至七日ヲ經レハ熱痘トナル爾後痘漿愈々渾濁シ膿疱ニ變シ熱候亢進シ眼、鼻腔、咽喉及氣管支ノ粘膜ハ加答兒性炎症ヲ發シ眼及鼻孔ヨリ膿様粘液ヲ漏ラシ流涎、食餌吐出、嚥下困難、咳嗽、呼吸促進ヲ呈ス時トシテハ頭部大ニ腫脹シ皮膚ノ蒸發氣惡臭ヲ放ツ終ニ痘ハ乾涸結痂シ二三週許ニシテ脱落ス

(經過及豫後) 輕症ハ少數ノ痘ヲ散發シ輕易ノ熱候ヲ呈スルノミ重症ニ於テハ痘瘡簇發シ數多ノ痘ハ浸合シテ大化膿面トナリ皮膚ハ劇性炎ヲ發シ甚キハ皮膚ノ壞疽ヲ起シ惡臭ヲ放ツ所謂屍臭痘是ナリ此ノ如キ症ハ熱度頗ル高ク口腔、咽喉、氣管支及角膜ニ痘ヲ發シ關係アルノ水脈腺ハ大ニ腫脹シ間々化膿ス粘膜ノ炎症ハ格魯布性ヲ帶ヒ往々格魯布性肺炎ヲ發ス惡性經過ニ於テハ敗血症及膿毒症ヲ發シ關節、漿液膜、腦等ニ病毒轉移ヲ致ス或ハ肺炎又ハ喉頭格魯布ノ爲メ窒息シテ斃ル此種ノ痘瘡ハ假令ヒ治愈スルモ長キ時日ヲ要シ病羊ハ羸弱シ全體ノ毛ヲ脱シ深キ癩痕ト慢性跛行又ハ失明ヲ貽ス出血性痘瘡ニ於テハ皮膚、粘膜ノ所々出血シ腐壞スルニ至ル之ヲ腐痘ト云フ

羊群中ニ於ケル痘ノ經過ハ急慢善惡一定セス死亡ノ割合ハ通常百頭ニ付十頭乃至二十頭惡性

ハ五十頭若クハ其以上ナリ故ニ其重症、老獸並ニ幼弱ノ獸ニ於テハ豫後不良ナリ羊毛脱落、體重減少、流産、胎後病ノ如キ間接ノ損害極テ大ナリ

八 豕虎列刺

(病性) 豕虎列刺ニ腸症ト肺症トノ二種アリ腸症ニ於テハ大腸ノ實扶的理性炎症並ニ其附近水脈腺ノ腫脹ヲ發シ往々肺炎ヲ合併ス英、米、瑞西、丁抹ノ諸國ニ於テ大ニ流行シ通常病獸ノ肉若クハ病毒ヲ含メル食物ヲ啖フニ由テ腸ヨリ傳染ス肺症ハ卵圓形細菌ニ由テ發スル傳染性ノ胸膜肺炎ニシテ肺ノ壞死及慢性乾酪性變化ヲ發生シ易シ

(原因) 腸症ノ傳染毒ハ長卵圓形ノ細菌ニシテ運動力ヲ有シ長サ一・二乃至一・五「ミクロミリメートル」幅之ニ半ハシ中央ハ淡明ナリ(フロツシユ氏説) 肺症ノ傳染毒ハ卵圓形ノ細菌ニシテ運動セズ長サ一・二「ミクロミリメートル」幅〇・四乃至〇・五「ミクロミリメートル」兩極ノミ染色シ中央ハ染色セズ頗ル家兔ノ敗血菌ニ類シ又家禽虎列刺及出血症敗血症ノ細菌ニ類ス此細菌ハ特ニ肺ノ壞疽竈、肋膜滲出及氣管支水脈腺中ニ夥シク又血液、腹腔ノ臟器脾、肝、腎ニ存ス病毒ハ揮發性ニシテ重ニ呼吸ニ由テ傳染シ其傳染力頗ル劇烈ナリ豕ノ驅逐、往來ハ傳播上最モ危險ノ媒介ナリトス而シテ恐ラクハ皮膚ノ創傷及腸ヨリモ亦傳染スルモノナラント云フ

(症候) 腸症ト肺症トハ各徵候ヲ異ニシ兩症トモニ急性ト慢性トノ區別アリ
甲 急性腸症ハ豕疫侵入ノ初メニ於テ之ヲ見ル平均ノ經過ハ五日乃至八日ニシテ初期ニハ食慾減損及ヒ通便秘澀ノ兆ヲ呈シ倦怠、鬱憂、頭、尾ヲ低レ結膜潮紅シ眼瞼ニ乾涸ノ粘液ヲ凝著ス體温攝氏四十一度以上四十二度呼吸促進時トシテハ鼻孔ヨリ膿様粘液ヲ漏ラス晚期ニ至レハ下痢シ糞ハ稀薄ノ液狀ニシテ惡臭ヲ放チ間々血液ヲ混ス舌、頰、口蓋、軟口蓋、扁桃腺ニハ灰

白色若クハ灰黄色ノ質扶的里性潰瘍ヲ發ス又耳、鼻端、腹ノ下面、肢ノ内面並ニ肛圍ニ紅斑ヲ見ルコト罕ナリトセス最末期ニ至レハ病獸羸弱シ伏臥スレハ復タ起立スルコト能ハス搖擗ヲ發シテ斃ル

慢性瘍症ニ在テハ毫モ顯著ノ病徴ナシ唯虛弱ニシテ能ク發育セス時々咳嗽、下痢、皮疹ヲ生シ又耳ニ淡紅斑ヲ發ス

乙 急性肺症ハ頗ル急劇ニシテ往々數時間ニ斃ル其主徴ハ頸、脚等ノ皮膚ノ紅斑及大腫脹、咳嗽、呼吸困難、大熱及卒急ノ羸弱ニ在リ初起病家ハ稍々興奮シ續テ倦怠疲勞シ弛張性ノ大熱ヲ發シ少ク寒戰シ食慾減損、通便秘結ス此初期ニ於テ外觀上往々一時輕快トナルモ三四日ヲ經レハ短ク且乾キタル痲痺性ノ咳嗽ヲ發シ呼吸促進シ咳嗽ノ發作中ハ頭部粘膜藍紫色ヲ呈シ大ニ疲勞シ窒息ノ虞アリ呼吸困難、咳嗽ノ發作、熱候並ニ衰弱ハ益重キヲ加ヘ肺ヲ聽診スレハ氣管支呼吸、摩擦音及微弱ノ氣胞音ヲ聞ク終ニ病家ハ辱藥中ニ潜伏シ咳嗽ノ際頭ヲ擧ケ得ルノミ急性經過ハ平均三時間乃至九時間ナリト云フ

慢性肺症ニ在テハ肺ノ慢性病竈ハ肺癆ノ徴ヲ呈シ咳嗽、呼吸困難、鼻漏、羸瘦、鱗屑狀濕疹、下痢、貧血、麻痺ヲ發ス寄生性肺炎ト誤診シ易シ

九 豕羅斯疫

(病性) 豕羅斯疫ハ一種ノ細菌ニ由テ發スル特異ノ敗血症ニシテ出血性胃腸炎並ニ腎炎、脾腫及肝臟、心臟、筋肉ノ實質炎ヲ發シ歐羅巴各國ニ流行ス

(原因) 病毒ハ主トシテ消化器ヨリ侵入シ肺ヨリ浸入セサルモノ、如シ蓋シ病毒ハ毛細管ヲ填塞シ屍毒様ノ毒素ヲ生ス而シテ其毒素ハ神經系、筋肉並ニ大腺體ノ實質ヲ害ス家兎ノ體內ニ於テハ病毒滅衰スト云フ本病ハ直接傳染ニ由テ蔓延シ病毒ヲ含メル糞又ハ病獸ノ肉、内臟等

ヲ食スルニ依テ傳染スルモノ最モ多シ一回罹病シタルモノハ概ネ免病ス而シテ本病ノ細菌ハ溺水中ニ蕃殖ス故ニ泥沼沮如ノ地方ニ於テハ常在病トナリ專ラ夏期ニ流行ス

三箇月乃至十二箇月ノ幼豚最モ之ニ罹リ易ク産初第一月ニハ素因最モ少シ三歳ノ老家モ罕ニハ傳染スルコトアリ哺乳幼豕ハ病母ノ乳ニ依テ傳染セサルト云フ豕ノ種類ニ依テ罹病性ニ差異アルハ諸家ノ實驗ニ徴シテ明ナリ

(症候) 病毒ノ潜伏期ハ最短三日ニシテ俄然劇症ヲ發ス病家ハ食ヲ嫌フテ嘔吐シ大熱^{攝氏四十度}及神經障礙ヲ發シ倦怠、沈鬱、嗜眠、褥下潛匿、後肢ノ痿弱麻痺等ノ諸徴ヲ呈シ間々筋肉痙攣及咬牙ヲ認ム初期ハ通便秘澁シ結膜暗赤色若クハ褐赤色ヲ帶ヒ眼瞼腫起シ腹、胸ノ下面、會陰、脚ノ内面、耳、頭ノ如キ皮膚薄弱ノ部ニ掌大ノ紅斑ヲ發ス紅斑ハ鬱血ニ基クモノニシテ其初メ淡紅ナルモ後ニ至レハ暗赤色若クハ藍赤色トナリ間々増大シ甲乙湊合シ疼痛ヲ帶ヒス又隆起セス次テ病獸ノ糞ハ柔軟水様トナリ罕ニハ血液ヲ混ス末期ニ至レハ肺浮腫ノ爲メ呼吸大ニ促進シ全身「チアノーゼ」ヲ發シ體温沈下シ三四日ニシテ斃ル極テ急劇ノ症ハ二十四時間内ニ斃ル經過ノ長キモノハ八日若クハ其以上ニ渉ル

(豫後) 死亡ノ割合ハ百頭ニ付五十頭乃至八十五頭ナリ豫後ハ概ネ不良ナルモ經過四日ヲ超ユルモノハ稍々佳良ニシテ治癒ノ望アリ

十 狂犬病

(病性) 狂犬病ハ犬屬ノ固有傳染病ニシテ狂犬ノ咬傷ニ由テ人、家畜^{犬、猫、牛、馬、豚、羊、山羊}、家禽及野獸ニ傳染ス

(原因) 傳染毒ノ本態ニ關シテハ諸種ノ說アルモ未タ明確ナラス病毒ハ腦、脊髓及唾液中ニ存シ體外ニ於テハ發育セス

(症候) 潜伏期ハ一定セス犬ニ於テハ平均三週乃至六週ニシテ長キハ數月ニ亘リ短キハ數日ニ過キス

狂犬病ニ噪狂、嚙狂ノ二種アリ固ト是レ同一ノ病ニシテ唯症狀ヲ異ニスルノミバストール氏ノ說ニ據レハ噪狂ハ主トシテ腦ヲ侵ストキ及病毒ヲ直接ニ腦ニ接種スルトキニ發シ嚙狂ハ專ラ脊髓ヲ侵ストキ又ハ病毒ヲ皮下ニ接種スルトキニ發スト云フ噪狂ハ嚙狂ニ變シ嚙狂亦噪狂ニ轉スルコトアリ又二者ノ中間ニ位スル症狀アリ而シテ狂犬病ハ定型的ノ急性病ニシテ必ス死ニ歸スルモノトス

甲 噪狂 噪狂ニ三期アリ前期、刺戟期、痲痺期是ナリ

(一)前期 前期又ハ沈鬱期ハ半日乃至二日間持續ス此間病犬ノ舉動一變シ憚惡執拗トナリ不安ニシテ憤怒、驚愕シ易ク動モスレハ幕下ニ潛匿シ頻ニ居所ヲ變シ時ニ卒然跳起ス罕ニハ從順、溫和ナル者アリ又咬傷部ニ異常ノ癢覺ヲ感シ自ラ之ヲ嚙ミ或ハ之ヲ舐ム味覺亦一變シ常食ヲ嫌ヒ好テ寒冷ノ物ヲ舐メ藁、草、土石、木片、硝子ノ碎片、襪襪ノ如キ種々ノ異物ヲ嚙下シ甚シキハ自己ノ糞尿ヲ啖フ或ハ絶エス自己若クハ他犬ノ生殖器ヲ嗅キ若クハ之ヲ舐ム此期ニ於テ已ニ輕微ノ咽頭痙攣、嘔意及便秘ヲ見ル(二)刺戟期ハ三四日ニ亘リ狂亂及痙攣ノ發作ヲ來シ各發作ハ數時間ニ渉ル此期ニ於テハ不安ノ徵益々加ハリ檻柵、鐵鎖等ヲ嚙斷シ或ハ窓戸ヲ破壞シテ逃避セント欲ス戶外ニ在レハ目的ヲ達シテ奔走シ間々遠隔ノ地ニ到ル又大ニ咬癖ヲ發シ眞ニ發狂ノ狀ヲ呈シ人畜ヲ問ハス途中ニ遭遇スル者ハ悉ク之ヲ咬傷ス其咬力ノ劇シキ間々齒牙ヲ破碎スルニ至ル又自體ノ尾、陰具、四肢等ヲ嚙ムモノアリ人畜ヲ避ケ全ク人ヲ咬傷スルノ傾向ナキモノハ例外ニ屬ス音聲ハ全ク一變シ粗嘎ノ聲ヲ放テ哮吠ス蓋シ變聲ハ聲帶ノ痲痺ニ由ルモノニシテ診斷上ノ一大要徵ナリ或ハ狂亂セスシテ專ラ沈鬱ノ狀ヲ呈シ痴鈍幻惑一所

ヲ凝眸虛視シ空中ニ向テ蠅ヲ捕フル狀ヲナシ絶エス吠鳴シ鞭箠ヲ意トセサルモノアリ但シ馴育宜キヲ得タル犬ハ瞑目ニ至ルマテ主人ノ命ニ服スル者アルモ斯ノ如キハ絶無稀有二屬ス(三)痲痺期又ハ末期ニ於テハ病獸大ニ羸瘦シ粗毛墜起、眼球陷沒、咽喉痲痺シテ一物ヲモ嚙下ズル能ハス大ニ涎ヲ流ス續テ下顎痲痺シ口ヲ哆キ舌ヲ出ス終ニ後肢、尾、直腸、膀胱亦癱瘓シ五日乃至八日ヲ^{週ケモ}經レハ腦痲痺及全身虛脫ノ爲メニ斃ル狂犬病ノ經過中體温ノ高低ニ關シテハ定説ナシヘリング氏等ハ攝氏三度以上モ昇騰シ又速ニ沈下スルヲ見タリ

十一 假性皮疽

(病性) 假性皮疽ハ一ニ馬ノ分芽微病ト名ケテ地方性皮膚病ニシテ一種ノ分芽微ニ原因ス其ノ症候、病的變狀等ハ略々眞性皮疽ニ同シ

(原因) 本病ノ傳染毒ハ一種ノ分芽微^{サツカロミセス}ニシテ病的組織及病的產物ニ現在シ又膿漿中ニ遊離シ或ハ膿球中ニ存ス而シテ本病ハ瘴氣性兼觸接性傳染病ニシテ傳染ノ本源ハ土地ニ存ス其ノ傳染病媒介物ハ土壤、厩舍、器具、鞍、馬具、芻秣、蓐藁、皮膚、寄生蟲等ニシテ馬ヨリ馬ニ直接傳染スルハ稍々稀ナルカ如シ

潜伏期ハ未タ詳ナラス

(症候) 本病ハ低濕沮洳ノ地方ニ多ク高燥ノ地ニ少ナク多雨ノ年、洪水ノ後ニ多シ又暑期ヨリモ寒冷ノ候ニ頻發スルモノニシテ皮膚ニ球腫、膿瘍及潰瘍ヲ發スルヲ主徵トス其ノ病機ハ淋巴管ニ沿フテ近鄰ノ皮膚及皮下織ニ蔓延シ劇症ニ在テハ鼻粘膜ニ波及スルコトアリ患部ハ一定セス全身ニ發スルコトアリ或ハ各部ニ限局シテ發ス就中前胸、肩、腋窩、胸腹壁、背、胸腹ノ

明治三十三年
告示第三號ヲ
以テ第十一號
追加

下面等ニ類發ス又屢々頸側、包皮、龜頭、陰囊等ニ發シ顔面ニ於テハ唇、頰及鼻翼ニ發ス
 球腫ハ初メ豆大乃至棗實大ニシテ硬ク發生後四五日ヲ經レハ軟化シテ膿瘍ニ變シ其ノ面ニ落
 屑脫毛アリ膿瘍ハ速ニ破潰シテ膿ヲ泄ス膿ノ狀ハ患畜ノ體質ニ依テ一様ナラス或ハ濃稠ニシ
 テ乳皮ノ如ク或ハ稀薄ノ膿漿ヨリ成リ黃白色ノ凝塊ヲ混シ間々血液ヲ雜フ瘍底及瘍縁ヨリ帶
 赤黃色ノ肉芽ヲ發生シ帶黃色ノ膿汁ヲ排ス重症ニ在テハ肉芽ハ皮膚面ニ隆起シ息肉狀ヲ呈ス
 此ノ如キ潰瘍ハ四肢ノ下部ニ多ク數多簇發スレハ其ノ觀恰モ菌茸ノ皮膚ニ亂生スルカ如シ其
 ノ甚シキニ至テハ象皮脚ヲ生ス

鼻腔其ノ他呼吸道ノ粘膜變狀ハ概シテ皮疽ニ併發シ吸入作用ニ由テ傳染シ又ハ顔面ノ皮膚ヨ
 リ連續蔓延ヲナス原發ノ純性鼻疽ハ極メテ稀ナリ鼻腔ノ病患ハ概テ兩側ニ發シ侵蝕性ノ回陷
 潰瘍ハ稀ニシテ瘍底ヨリ肉芽ヲ發生ス其狀皮膚ノ潰瘍ニ同シ輕症ノ假性鼻疽ニ於テハ鼻漏ナ
 キモ重症ニ於テハ粘液、膿樣粘液、血液若ハ敗膿狀ノ漏液アリ呼吸氣ハ往々臭氣ヲ帶ヒ鼻腔狹窄
 スレハ呼吸困難トナリ鼻塞音ヲ放ツ

顎凹淋巴腺ノ腫脹ハ稀ニシテ鼻腔ニ變狀アルモ腫脹ハ必スシモ之ニ伴ハス假性鼻疽ノ劇症ニ
 在テハ兩側ノ腺腫大スルモ輕症ハ之ヲ缺ク其ノ腫腺ハ稍々硬キモ自在ニ移動シ得ヘク真性皮
 鼻疽ニ於ケルカ如ク硬結シテ結節狀ヲ呈セス

睪丸等ニ及ホス病的作用ハ先ツ陰囊若ハ包皮ヨリ始マリ播種的作用ニ由テ固有莢膜、睪丸、副
 睪及精系ニ蔓延シ莢膜ノ二葉ヲシテ癒著セシム局處ノ皮膚變狀ナクシテ睪丸ニ原發スルハ稀
 ナリ又眞性鼻疽ハ肺ニ類發スルモ假性皮疽ハ肺ヲ侵スハ稀ナリ

假性皮疽尙ホ一小部ニ限局スレハ全身違和ノ狀ナク患馬ハ快活ニシテ食欲善良毫モ熱候ヲ呈
 セス病勢増進スルモ尙ホ能ク使役ニ堪フ既ニ鼻腔ニ發生シ或ハ非常ニ蔓延スレハ營養不良ト

ナリ麻痺、惡液ニ陥リ遂ニ斃ル重症ニ於テハ食欲稍々減シ消耗熱ヲ發スルコトアリ
 (經過及豫後) 經過ハ甚々緩慢ニシテ數月ノ久シキニ瀕ル眞ノ急性症ハナキモ皮膚若ハ呼吸器粘膜ノ
 大部ニ蔓延スレハ較々急性ノ觀ヲ呈ス

本病ハ増進シテ底止スル所ナキカ故ニ自然ニ放置スレハ遂ニ斃ル然レトモ皮膚ノ一小部ニ限
 局セル輕症ハ手術ニ賴テ全治ス則チ限局ノ輕症ナレハ豫後善良ナルモ全身ヲ浸サレ鼻腔等ニ
 病變アルモノ已ニ惡液質象皮病ニ陥ルモノハ豫後不良ナリ

○獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費用負擔區分ノ件 明治三十四年六月二十七日 勅令第一三九號

第一條 獸疫豫防法第十六條及畜牛結核病豫防法第十六條ニ依リ獸疫及畜牛結核病豫防ニ關スル費

用負擔ノ區分ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 左ノ費用ハ國庫ノ負擔トス

一 獸類撲殺及物品棄却手當

一 臨時獸醫備入手當及旅費

一 市町村吏員ニ非サル檢疫委員及畜牛結核病検査員ノ旅費

一 評價人手當及旅費

一 消毒用藥品費

第二 左ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

一 器具器械費

一 被服費

一 通信及器具器械運搬費

一家屋其ノ他借料

一 國庫ノ負擔ニ屬スルモノヲ除クノ外檢疫委員ノ手當及旅費並畜牛結核病検査員ノ手當

一 畜牛結核病豫防ノ爲要スル備人料
一 雜費

第三 左ノ費用ハ市町村ノ負擔トス

一 獸疫豫防ノ爲要スル備人料

一 獸疫豫防ノ爲要スル標示費

第四 左ノ費用ハ一個人ノ負擔トス

一 獸類ノ牽付、鎖錮、撲殺及其ノ屍體並物品ノ棄却ニ要スル費用

一 検査、緊留又ハ鎖錮中ニ要スル飼料等ノ費用

第二條 獸疫豫防法第十五條ニ依ル檢疫費及畜牛結核病豫防法第七條ニ依ル検査費ハ前條第四ニ掲

クルモノヲ除クノ外國庫ノ負擔トス

第三條 沖繩縣ニ於テハ當分ノ内府縣及市町村ノ負擔ニ屬スル費用ハ國庫ノ負擔トス

第四條 獸疫豫防法ニ依ル第一條第二ノ費用ハ北海道ニ於テハ北海道地方費ノ負擔トス

附則

明治二十九年勅令第三百七十七號ハ之ヲ廢止ス

○ 獸疫豫防法施行ニ付臨時獸醫ヲ備入ル、トキ手當ノ件 明治三十年三月二十七日 訓令第四號

明治二十九年法律第六〇號獸疫豫防法施行ニ付臨時獸醫ヲ備入ル、トキハ一人一箇月金三十五圓以

三十二年三月
訓令第一四號
ヲ以テ金額改
正

○ 監督獸醫手當ノ件 (警視廳、道廳府縣) 明治三十二年三月三十一日 訓令第一五號

明治二十九年法律第六十號獸疫豫防法施行上臨時獸醫ヲ備入レタル場合之レカ監督ノ任ニ當ル獸醫

○ 牛疫檢疫規則 明治三十三年三月二十二日 省令第五號

第一條 韓國、清國及露領西伯利ノ諸港ヨリ輸入スル牛羊、皮骨類其他牛疫傳播ノ虞アル物品ハ檢疫

ヲ受ケタル後ニ非サレハ之ヲ陸揚スルコトヲ得ス

第二條 檢疫ハ兵庫縣神戸港及長崎縣長崎港ニ於テ之ヲ行フ

第三條 檢疫官ハ船舶ニ臨檢シ必要ト認ムルトキハ航海日誌ヲ檢閱スルコトヲ得

船長又ハ船長ノ職務ヲ行フ者ハ尋問書ニ事實ヲ記載シ之ニ署名スヘシ

第四條 檢疫官ハ必要ト認ムルトキハ牛羊ノ所有者若ハ管理人又ハ船長其他ノ船員ヲシテ之ヲ緊留

所ニ送致セシメ且相當ノ期間之ヲ緊留スルコトヲ得

第五條 牛疫感染ノ疑アリ又ハ之ニ罹リタル牛羊及病畜ニ汚染シ又ハ其疑アル皮骨類其他ノ物品ハ

獸疫豫防法ノ規定ニ從ヒ之ヲ處分スヘシ

第六條 檢疫官檢疫ヲ終リタルトキハ證明書ヲ交付スヘシ

第七條 檢疫所所在地ノ地方長官ハ所屬官吏及獸醫ヲ以テ檢疫官トシ檢疫ヲ行フヘシ

第八條 第一條ニ掲ケタル港ヲ經テ輸入シ又ハ他ノ港ヨリ若ハ他ノ港ヲ經テ輸入スル牛羊、皮骨類其他

牛疫傳播ノ虞アル物品ノ檢疫ヲ行ハントスルトキハ其港名及檢疫施行ノ期日並場所ヲ告示スヘシ

農務 牛疫檢疫規則

本則ノ規定ハ前項ノ檢疫ニ之ヲ準用ス
 第九條 本則ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治三十年農商務省令第十八號牛疫檢疫規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

○畜牛結核病豫防法 明治三十四年四月十二日
 法律第三五號

- 第一條 乳用牛、外國種牛及雜種牛ハ結核病ノ有無又ハ輕重ヲ定ムル爲行政官廳ニ於テ之ヲ検査ス
 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ニ付テモ亦同シ
- 第二條 乳用牛、種牡牛及結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ノ検査ハ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ之ヲ行フ
- 第三條 検査ノ期日及場所ハ行政官廳之ヲ指定ス
- 第一條ニ掲ケタル畜牛ノ所有者又ハ管理者ハ前項ノ指定ニ從ヒ其ノ検査ヲ受クヘシ
- 第四條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ヲ發見シタルトキハ所有者、管理者又ハ獸醫ニ於テ直ニ之ヲ届出ツヘシ
- 第五條 結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ隔離スヘシ
- 第六條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ撲殺スヘシ
 輕症結核病ニ罹リタル畜牛ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ鎖飼スヘシ
- 第七條 外國ヨリ輸入スル畜牛ハ輸入申告後特ニ定メタル場所ニ於テ「ツベルクリン」注射ノ方法ニ依リ之ヲ検査ス

前項ノ検査ニ關シテハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第一項ノ畜牛ニシテ結核病ニ罹リ又ハ其ノ疑アルトキハ税關長又ハ検査員ニ於テ其ノ輸入ノ禁止
 緊留其ノ他必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

第八條 前條ニ依リ輸入ヲ禁止セラレタル畜牛ヲ撲殺セムトスルトキハ税關長及検査員ノ指揮ニ從フヘシ

第九條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體及其ノ部分、畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ消毒スヘシ

第十條 重症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ハ皮角蹄ヲ除クノ外検査員ノ指揮ニ從ヒ所有者又ハ管理者ニ於テ之ヲ燒棄又ハ埋却スヘシ但シ認可ヲ得タル裝置ヲ以テ化製スルモノハ此ノ限ニ在ラス

輕症結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁並屍體及其ノ部分ノ處分方法ハ主務大臣之ヲ定ム

第十一條 結核病ニ罹リタル畜牛ヲ置キタル場所並病毒ニ汚染シ及其ノ疑アル物品ハ検査員ニ於テ其ノ燒棄又ハ埋却ヲ命スルコトヲ得

第十二條 結核病ニ罹リタル畜牛ノ乳汁、屍體若ハ其ノ部分又ハ病毒ニ汚染シ若ハ其ノ疑アル物品ヲ埋却シタル場所ハ三箇年間之ヲ發掘スルコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 第六條又ハ第十一條ニ依リ畜牛ヲ撲殺シ又ハ物品ヲ燒棄若ハ埋却シタル場合ニ於テハ其ノ評價額ノ二分ノ一ニ當ル手當金ヲ下付ス

畜牛ノ手當金ハ一頭ニ付外國種牛ニ在リテハ七十五圓、雜種牛及内國種牛ニ在リテハ五十圓、六箇
 月未滿ノ幼牛ニ在リテハ十五圓ヲ超ユルコトヲ得ス物品ノ手當金ハ總テ十圓ヲ超ユルコトヲ得

ス
 畜牛及物品ノ評價ハ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム但シ其ノ評價ヲ不當ト認メタルト
 キハ更ニ三人以上ノ評價人ヲ選定シテ之ヲ爲サシム
 第十四條 左ノ場合ニ於テハ畜牛ノ手當金ヲ下付セス
 一、検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ又ハ妨ケタルトキ
 二、第四條、第五條又ハ第六條ニ違背シタルトキ
 三、検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタルトキ
 左ノ場合ニ於テハ物品ノ手當金ヲ下付セス
 一、前項各號ノ一ニ該當スルトキ
 二、第九條、第十條第一項又ハ同條第二項ニ基ツキテ發シタル命令ニ違背シタルトキ
 三、第七條第二項、第三項又ハ第八條若ハ第十一條ノ命令ニ從ハサルトキ
 第十五條 手當金ヲ受クヘキ者其ノ全部又ハ一部ヲ拒否スル處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スル
 コトヲ得

第十六條 畜牛結核病豫防ニ關スル費用ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國庫、府縣及一個人ニ於テ之ヲ負
 擔ス

第十七條 検査ヲ受ケス、之ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者、検査ヲ受ケスシテ畜牛ヲ輸入シタル者、第
 五條若ハ第六條ニ違背シタル者又ハ第七條第三項ノ命令ニ從ハサル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十八條 第四條、第九條、第十條第一項若ハ第十二條ニ違背シタル者又ハ第七條第二項、第八條若
 ハ第十一條ノ命令ニ從ハサル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十九條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法及本法ニ基ツキテ發スル命令ノ處罰ニ關シテ之ヲ準

用ス

附則

本法ハ明治三十六年七月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ外國ヨリ輸入スル畜牛ニ關シテハ明治三十四年七
 月一日ヨリ之ヲ施行ス

○輸入畜牛結核病検査規則 明治三十四年六月十八日
 省令第六號

第一條 外國ヨリ輸入スル畜牛ニ對スル結核病ノ検査ハ神奈川縣橫濱港、兵庫縣神戸港及ヒ長崎縣
 長崎港ニ於テ之ヲ行フ

第二條 検査員ハ検査ヲ行フ地ノ地方長官ニ於テ所屬官吏及ヒ獸醫ヨリ之ヲ選定ス

第三條 検査員ハ税關長ヨリ畜牛輸入ノ申告アリタル旨ノ通告ヲ受ケタルトキハ其畜牛ヲ送致スヘ
 キ場所、期限其他検査ノ爲メ必要ナル事項ヲ輸入申告者ニ指示スヘシ

第四條 検査員結核病ノ虞ナシト檢定シタルトキハ輸入申告者ニ其畜牛ニ對スル證明書ヲ交付スヘ
 シ

検査員結核病ニ罹リタルモノ又ハ其疑アルモノト檢定シタルトキハ其畜牛ノ右臀部ニ下字ノ烙印
 ヲ爲スヘシ

第五條 検査員ニ於テ畜牛結核病豫防法第七條第三項ノ規定ニ依リ輸入ヲ禁止スルノ必要アリト認
 メタルトキハ税關長ニ通告シテ其處分ヲ求ムヘシ

検査員畜牛結核病豫防法第七條第三項ノ規定ニ依リ緊留其他ノ處分ヲ命シ又ハ同法第八條ノ規定
 ニ依リ指揮ヲ爲シタルトキハ其旨ヲ税關長ニ通告スヘシ

○獸醫免許規則 明治二十三年八月二十七日 法律第七六號

- 第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタルモノニ限ル
- 第二條 獸醫免狀ヲ受ケタルコトヲ得ル者左ノ如シ
 - 一 獸醫免許試験ニ合格シ其證書ヲ有スル者
 - 一 官立府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
 - 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
 - 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若クハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第六條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五

十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコトアルヘシ
 禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
 第九條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解カレタルモノニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ
 第十條 免狀ヲ受ケスシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十一條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
 第十三條 獸醫免許試験規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條 獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
 第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス
 第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル規定ハ總テ廢止ス

○獸醫免許試驗規則 明治二十三年九月二日 省令第一二號

第一條 試驗ノ科目ハ左ノ如シ

- 一 家畜解剖學

- 一 同 生理學
- 一 同 藥物學
- 一 同 內科學及其ノ實地
- 一 同 外科學及其ノ實地
- 一 蹄鐵學及其ノ實地

第二條 試驗法ハ筆記及實地ノ二様トシ實地試驗ハ筆記試驗ヲ終ハリタル後之ヲ行フ但時宜ニ依リ口述試驗ヲ以テ實地ニ代フルコトアルヘシ

第三條 試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ

第四條 農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ撰定シテ試驗ヲ行ハシム

第五條 試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験地名ヲ願書ニ記載シ修學履歷書ヲ添ヘ一月若クハ七月中其ノ居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ

第六條 受験者ハ試驗期日三日前受験地ノ宿處ヲ其ノ地方廳ニ届出ヘシ

第七條 試驗及第者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ

第八條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ效ナキモノトス

附 則

第九條 第十回獸醫免許試驗ニ限り家畜ノ解剖學、生理學、藥物學、內科學、外科學ニ就キ筆記試驗ヲ行フ

○獸醫假免許手續(道廳府縣) 明治二十三年九月二日 訓令第四四號

第一條 獸醫假免許ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀ス

二十五年六月三日訓令第二

十號ヲ以テ第二條ヲ刪除シ第三條ヲ第二條ニ改メ

ヘシ

一 營業區域ノ廣袤及地勢ノ峻夷

一 區域内牛馬ノ頭數

一 營業年限

第二條 獸醫假免許狀下付ノ出願ニ係ル細則ニ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○獸醫免許及試驗願書ノ件(道廳府縣) 明治二十二年十一月二日 訓令第三九號

獸醫開業免許狀同假開業免許狀下付願書及開業試驗願書ハ自今副本差出ニ及ハス

○獸醫轉居届ノ件 明治二十二年十一月三十日 告示第一五號

開業獸醫(假開業獸醫ヲ除ク)ニシテ明治二十二年十二月一日以降轉居セシ者ハ其都度直ニ當省農務局ヘ届出ヅヘシ

○獸醫蹄鐵工免許規則ニ依リ私立學校學則認可請求規程 明治二十三年十一月一日 省令第一八號

本年ハ法律第七十六號獸醫免許規則第二條第三項及同年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則ヲ認可ヲ請ハント欲スルトキハ左ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ記入シ教員ノ族籍氏名年齢及履歷ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ其ノ校長又ハ校主名ヲ以テ地方廳ヲ經由シ農商務大臣ニ差出スヘシ

但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校主ハ其ノ學校ノ卒業試驗終了ノ後十五日以内ニ地方廳ヲ經由シ卒業者ノ族籍氏名年齢及最終學期ノ試験成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 教員ノ員數及資格

農務 獸醫免許規則

三三三

一 獸醫學校教員ハ三名以上トシ内少クモ一名ハ農科大學獸醫本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一 蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ内一名ハ農科大學獸醫本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二 學科目

一 獸醫學校學科

動物學及理化學
病理學通論
解剖學及其ノ實習
生理學
藥物學
內科學
外科學

產科學

動物疫論及警察法
病體解剖學及其ノ實習
家畜飼養法蕃殖法及衛生論
蹄鐵學及其ノ實習
治療法實習

一 蹄鐵學校學科

撰鐵、鍛鍊、造蹄鐵及造釘法實習
蹄鐵學及其ノ實習

蹄ノ解剖、生理及病理論
家畜衛生論

三 修學年限

一 獸醫學校滿三年以上

一 蹄鐵學校滿一年以上

○ 獸醫、蹄鐵工ニ關スル登録稅額

明治二十九年三月
法律第二十七號第八條附載

新規登録

獸醫

金十二圓

蹄鐵工

金五圓

假免許獸醫

金三圓

假免許蹄鐵工

金一圓

二 登録事項ノ變更

每一件金五十錢

○ 蹄鐵工免許規則

明治二十三年四月三日
法律第三一號

第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ鐵蹄工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應ジ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 蹄鐵工免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 蹄鐵工免許試驗ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
- 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
- 一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其卒業證書ヲ有スル者
- 一 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク

- 第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタルモノ、氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之レヲ公告スヘシ
- 第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ
- 第六條 蹄鐵工免狀ヲ受クル者ハ其免狀下付ノトキ手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ
- 第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ
- 第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第十一條 蹄鐵工免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム
- 附 則
- 第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ
- 第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス
- 第十四條 此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼ネント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受クル者ハ第六條ノ手数料ヲ要セス
- 第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

○蹄鐵工免許試驗規則 明治二十三年七月十九日 省令第六號

- 第一條 蹄鐵工免許試驗ハ蹄鐵ノ學術ニ就キ筆記口述及實地ヲ以テ之ヲ行フ
- 第二條 試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ
- 第三條 農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選定シテ試驗ヲ行ハシム
- 第四條 試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験ノ地名ヲ願書ニ記載シ一月若クハ七月中其居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ差出スヘシ
- 第五條 受験者ハ試驗期日三日前受験地ノ宿所ヲ其地方廳ニ届出ツヘシ
- 第六條 試驗及第者ニハ試驗主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ
- 第七條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス

○蹄鐵工假免許手續 (道廳府縣) 明治二十三年七月十九日 訓令第三八號

- 第一條 蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工乏シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ
 - 一 區域、廣袤、地勢及馬匹頭數
 - 一 營業年限
- 第二條 假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

○蹄鐵工免許及試驗願書ノ件 (北海道) 明治二十三年九月十九日 訓令第五二號
(廳府縣) 蹄鐵工免狀同假免狀下付願書及免許試驗願書ハ副本差出スニ及ハス

○狩獵法 明治三十四年四月十二日 法律第三三號

第一章 獵具、獵法

第一條 本法ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、網、竊繩又ハ獲ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ
前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第二條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル器若ハ陷阱ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
前項ノ外ノ獵具、獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官ハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ
便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得

第三條 日出前、日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル
建物、船舶若ハ汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 左ニ掲ケル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 御獵場
- 二 禁獵區
- 三 公道
- 四 公園
- 五 社寺境内
- 六 墓地

第五條 欄、柵、圍障若ハ作物植付アル他人ノ所有地ニ於テハ所有者又ハ占有者、他人ノ共同狩獵地
ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 地方長官ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場

合ニ於テハ十箇年以内ノ期間ヲ以テ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第七條 地方長官ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ區域ヲ限リ銃獵ヲ禁スルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第八條 狩獵ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ欄、柵又ハ圍障
アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第九條 從來地方ノ慣行ニ依リ一定ノ區域内ニ於テ共同狩獵ヲ爲ス者ハ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ
受クルコトヲ得但シ其ノ出願ニ關スル規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十條 免狀ヲ分チテ甲乙ノ二種トス

甲種免狀ハ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ乙種免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ
下付スルモノトス

第十一條 免狀ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ムヘシ

- 一 等 所得稅百圓以上、地租五百圓以上若ハ營業稅百五十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族
- 二 等 所得稅三十圓以上、地租三十圓以上若ハ營業稅二十圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族
- 三 等 一等、二等以外ノ者

第十二條 免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス但シ北海道ニ於テハ九月十五
日ヨリ翌年四月十五日マテトス

前項期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 免狀ノ使用ハ本人ニ限ルモノトス

第十四條 獵者ハ出獵ノ際免狀ヲ携帯スヘシ

警察官、憲兵、森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ検査スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十五條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ地ノ所轄警察官署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ヘシ
免狀ヲ亡失シ若ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ手數
料金二十五錢ヲ納ムヘシ

第十六條 未成年者ハ乙種免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十七條 免狀ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第十八條 學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ理由ニ因リ保護鳥獸又ハ其ノ他ノ鳥獸ノ捕
獲ヲ要スルトキハ地方長官ハ何時タリトモ特ニ之カ許可ヲ與フルコトヲ得但シ捕獲シタル鳥獸ハ
之ヲ賣買スルコトヲ禁ス

前項ノ場合ニ於テハ第十一條ヲ適用セス

第三章 鳥獸保護

第十九條 保護鳥獸ヲ捕獲シ又ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス但シ保護期間前ニ捕獲シタル鳥獸ハ其ノ
期間ノ初日ヨリ二週間以内ニ於テ賣買スルハ此ノ限ニ在ラス

飼養ニ係ル保護鳥獸ハ前項期日後ト雖農商務大臣定ムル所ノ規則ニ依リ賣買スルコトヲ得
保護鳥獸ノ種類及保護期間ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十條 保護鳥類ノ卵又ハ雛ヲ取リ若ハ之ヲ賣買スルコトヲ禁ス但シ學術研究ノ爲之カ採取ヲ要
スルトキハ地方長官ハ特ニ其ノ許可ヲ與フルコトヲ得

第四章 罰則

第二十一條 第八條第一項、第十二條第二項ニ違背シテ狩獵ヲ爲シ又ハ詐欺ノ所爲ヲ以テ狩獵免狀

若ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケ又ハ詐テ共同狩獵地ヲ表示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ犯罪ノ
用ニ供シタル器具ハ之ヲ沒收ス

第二十二條 第二條第一項、第三條若ハ第四條ニ違背シタル者ハ罰前條ニ同シ

前項ノ處罰ヲ受ケタル者ノ免狀ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第二十三條 第五條、第十四條第三項、第十九條第一項、第二十條ニ違背シタル者ハ四十圓以下ノ罰
金ニ處ス但シ第五條ニ付テハ土地所有者、占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待
テ處斷ス

第二十四條 第十四條第一項、第十五條第一項、第十七條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以
下ノ科料ニ處ス

附則

第二十五條 本法ハ明治三十四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十六條 本法施行前ニ免許ヲ受ケタル獵區及共同狩獵地ハ本法施行後ト雖其ノ免許期間仍從前
ノ規定ヲ適用ス

第二十七條 本法施行前ニ受ケタル狩獵免狀ハ本法施行後仍其ノ効力ヲ有ス

第二十八條 本法施行前ニ明治二十八年法律第二十號狩獵法ノ罰則ヲ適用スヘキ行爲アリタルトキ
ハ本法施行後仍其ノ罰則ヲ適用ス

第二十九條 明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過ス
ルニ非サレハ本法ニ依リ狩獵免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第三十條 本法中地方長官ノ職務ハ東京府ニ於テハ警視總監之ヲ行フ

本法中市町村長ノ職務ハ北海道、沖繩縣ノ區ニ於テハ區長、町村制ヲ施行セサル地ニ於テニ町村長

ニ該當スヘキ者之ヲ行フ

○狩獵法施行規則 明治三十四年六月二十六日 省令第七號

第一條 狩獵法第一條ノ網トハ羅罾、投網、霞網其他ノ張網ヲ謂ヒ鵜繩トハ流シ網、張鵜繩ヲ謂ヒ槩トハ高槩、千本槩ヲ謂フ

第二條 狩獵免狀ヲ受ケントスル者ハ願書ニ免狀ノ種類、等級及ヒ身分、職業、氏名、住所年齢ヲ記載シ且狩獵法第二十二條又ハ明治二十八年法律第二十號狩獵法第二十一條ノ處罰ヲ受ケタルコトノ有無及處罰ヲ受ケタルコトアルトキハ其年月日ヲ附記スヘシ

前項ノ願書ニハ狩獵法第十一條ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ
但一等ヲ受ケントスル者ハ此限ニ在ラス

第三條 狩獵免狀ノ再渡又ハ書換ヲ請求スル場合ニ於テ納付スヘキ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ
收入印紙ハ請求書ニ貼付消印スヘシ

第四條 狩獵免狀ヲ受ケタル者其氏名ヲ變更シ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ三週間内ニ其旨ヲ地方長官ニ届出ヘシ身分ニ異動アリタルトキ亦同シ

新住所地カ他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免狀ノ種類、等級及ヒ身分、職業、氏名、住所、年齢ヲ記載シタル書面ヲ其地方長官ニ差出スヘシ

第五條 地方長官ハ其下付スヘキ免狀用紙ノ概數ヲ毎年七月十五日限リ農商務大臣ニ申告スヘシ

第六條 地方長官ハ免狀原簿ヲ備ヘ置キ之ニ免狀ノ種類、等級、番號及ヒ獵者ノ身分、職業、氏名、住所、年齢ヲ登錄スヘシ

第七條 獵者其免狀ヲ喪失シタルトキハ直チニ其事由ヲ詳記シタル書面ヲ地方長官ニ差出スヘシ此

三十四年省令
第九號ヲ以テ
加第二條但書追

場合ニ於テハ地方長官ハ其旨ヲ公告スヘシ

第八條 地方長官ハ第一號様式ニ依リ免狀統計表ヲ調製シ毎年十二月十五日マテニ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第九條 地方長官狩獵法第六條ノ規定ニ依リ禁獵區ヲ設ケタルトキハ其禁獵ノ期間、理由及ヒ時期ヲ記載シタル書面ニ圖面ヲ添附シ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

禁獵ノ區域、期間若クハ時期ヲ變更シ又ハ禁獵區ヲ廢止シ若クハ繼續シタルトキハ其理由ヲ記載シタル書面ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ區域ヲ變更シタル場合ニ於テハ其變更ノ區分ヲ示ス圖面ヲ添附スヘシ

第十條 土地所有者禁獵區ノ設置ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其禁獵ノ期間、理由及ヒ時期ヲ記載シ圖面ヲ添附シテ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

前條第二項ノ規定ハ土地所有者出願ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十一條 前二條ノ場合ニ於テ禁獵區ヲ設ケタルトキハ地方長官ハ禁獵ノ區域、期間及ヒ時期ヲ公告スヘシ

禁獵ノ區域、期間若クハ時期ヲ變更シ又ハ禁獵區ヲ廢止シ若クハ繼續シタルトキハ其旨ヲ公告スヘシ

第十二條 地方長官鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲メ禁獵區ヲ設ケタルトキハ毎年九月三十日マテニ其禁獵區ニ於ケル鳥獸蕃殖ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十三條 共同狩獵地ノ免許ヲ受ケントスル者ハ願書ニ其免許ヲ受ケントスル期間ヲ記載シ圖面及ヒ共同狩獵ノ慣行ヲ證スルニ足ル書類ヲ添附シ地方長官ヲ經由シテ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

第二十八條 左ニ掲クル鳥類ハ三月一日ヨリ十月三十一日マテ捕獲スルコトヲ禁ス
 一 雉 キトリ 一 鶯 ウツクサ

第二十九條 左ニ掲クル鳥類ハ四月十六日ヨリ十月十四日マテ(北海道ニ於テハ九月十四日マテ)捕獲スルコトヲ禁ス
 一 鶉 ヒヨドリ 一 椋鳥 トビ
 一 松鷄 エゾヤマネ 一 鳩 トビ 一 雲雀 クナ 一 鶇 ヒヨドリ
 一 鳩 トビ 一 鶇 ヒヨドリ 一 雷鳥 ライオン 一 鶇 ヒヨドリ

第三十條 農商務大臣ニ於テ前三條ニ掲ケサル鳥獸ノ保護ヲ必要ト認ムルトキハ其鳥獸ノ名稱、保護期間及ヒ區域ヲ告示スヘシ

第三十一條 狩獵法第十九條第一項但書ノ規定ニ依リ保護鳥獸ヲ賣買セントスル者ハ保護期間ノ初日マテニ其賣買セントスル鳥獸ノ名稱及ヒ數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 前項ノ鳥獸ヲ賣買シタルトキハ保護期間ノ初日ヨリ十五日内ニ其名稱及ヒ數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十二條 保護鳥獸ヲ飼養スル者ハ保護期間ノ初日ヨリ二週間ヲ經過シタル翌日ニ於ケル現在ノ鳥獸ノ名稱及ヒ數ヲ十五日内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ
 前項ノ鳥獸ノ數ニ異動ヲ生シタルトキハ十五日内ニ其年月日及ヒ事由ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十三條 飼養ニ係ル保護鳥獸ヲ賣買シタルトキハ賣渡人ニ於テ十五日内ニ買受人ノ氏名、住所、賣渡ノ年月日及ヒ鳥獸ノ名稱、數ヲ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第三十四條 第二十條、第二十一條ノ木標若クハ第二十二條ノ制札ヲ毀棄汚損シタル者又ハ第二十五條、第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十一條乃至第三十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

一等免狀雛形 紙地白色

表 川下川

狩獵免狀 第一種(乙)甲

姓名	住所	身分	年	氏名	種	數	期

明治 年 月 日

農商務省 許之印 應府縣印

裏 川下川

狩獵免狀 第一種(乙)甲

要 領 令 法 獵 狩

二等免狀雛形 紙地綠色

表 川下川

狩獵免狀 第二種(乙)甲

姓名	住所	身分	年	氏名	種	數	期

明治 年 月 日

農商務省 許之印 應府縣印

裏 川下川

狩獵免狀 第二種(乙)甲

要 領 令 法 獵 狩

三等免狀雛形 紙地淺紅色

表
川下川

狩獵免狀
第三種(乙)甲

農商務省 許之田

應府縣 廳

明治 年 月 日

姓名	住所	身分	種別	期限	備考

五寸五分

裏
川下川

狩獵法 令 摘 要

五寸五分

第一號樣式

明治何年度狩獵甲(乙)種免狀統計表

應府縣名

種目	一 等	二 等	三 等	計
免狀受取高				
免狀下付高				
免許稅				
免狀再渡及書換高				

第二號樣式

免狀再渡及書換手數料

附銃獵禁止地名

新設地名 解除地名 何々々

鳥獸(卵雛)捕獲(採取)表

自明治何年何月何日 至同 年何月何日

應府縣名

鳥獸(卵數)名 員 數	捕獲(採取)ノ理由	捕獲(採取)地	許可ヲ受ケタルモノノ住所	氏 名

備考

第三號樣式

有害鳥獸捕獲表

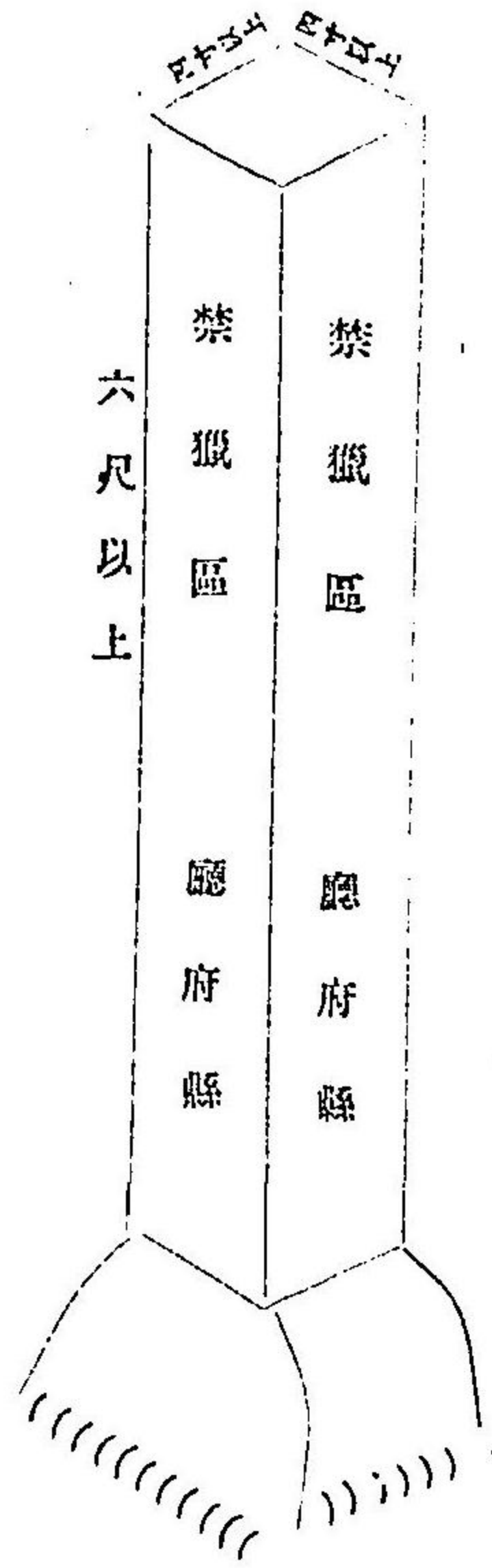
自明治何年何月何日 至同 年何月何日

應府縣名

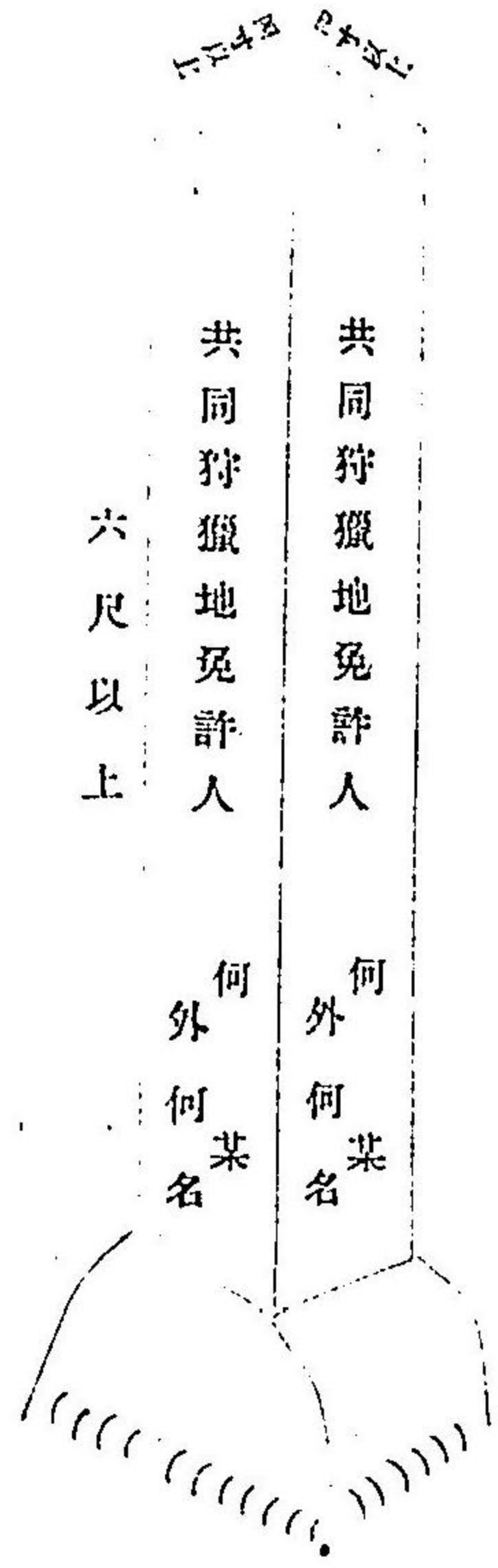
鳥獸名 員 數	被害ノ狀況	捕獲地	許可ヲ受ケタルモノノ住所	氏 名

備考									

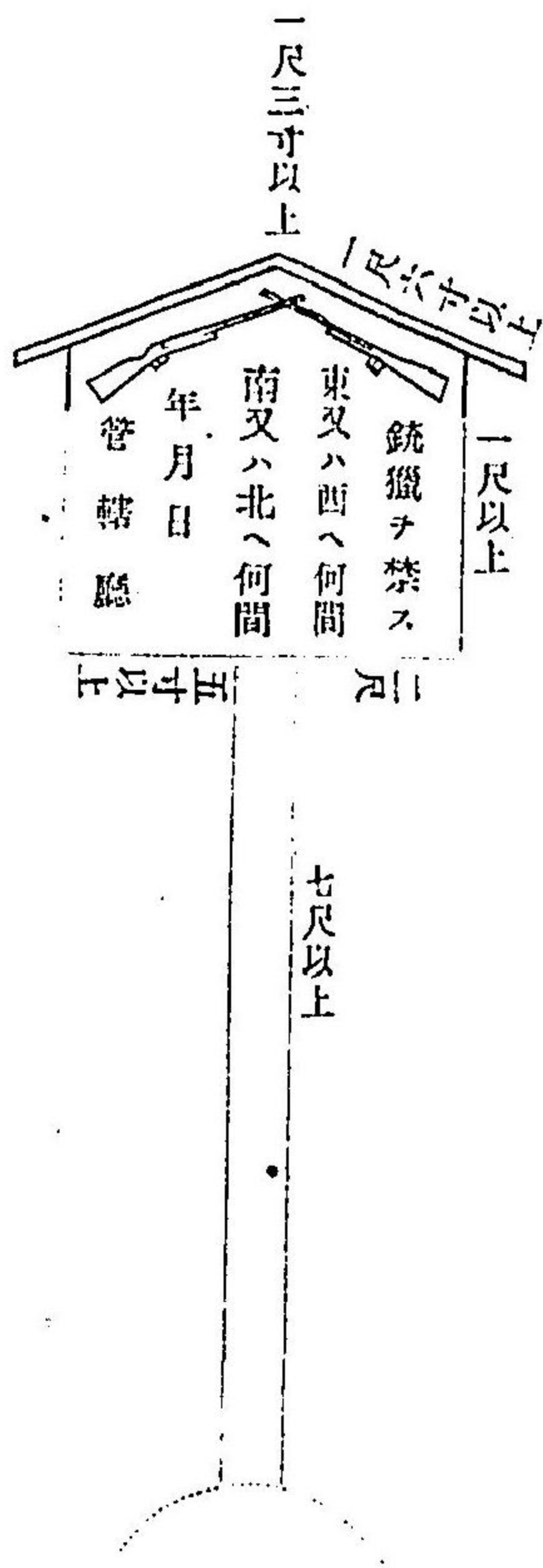
禁獵區木標錐形



共同狩獵地木標錐形



銃獵禁止制札錐形



(備考) 本規則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ施行ス

○共同狩獵地出願書樣式及圖面雛形ノ件
明治三十四年七月二十五日
告示第九九號

第一號樣式(用紙美濃紙正副二通)
共同狩獵地免許願

本籍
現住所
身分

何

某
年齡

何府何國何市何町何大字何

小字何全地

何町步

但官地何々々

何町步

小字何ノ内

何町步

但官地何々々

何町步

合計

何町步

右ノ箇所從來ノ慣行ニ依リ共同狩獵地ト致度候ニ付御許可ノ日ヨリ向フ何年間免許相成度狩獵法
第九條同法施行規則第十三條ニ依リ別紙狩獵ノ慣行調書及圖面相添此段願上候也

年 月 日

前書ノ通相違無之ニ付證明ス

何

某
印

(現住所)
何市町村長

何

某
剛

(共同狩獵免許地)
何市町村長

何

某
剛

農商務大臣宛
第二號樣式(用紙美濃紙正副二通)
共同狩獵地變更願

本籍
現住所
身分

何

某
年齡

何縣何國何市何町何村

合計何町步

右從前許可ノ分

何府何國何市何町何大字何

小字何全地

但官地何々々

小字何ノ内

何町步

何町步

但官地何々々

何町步

但官地何々
民地何々

合計

何町歩

何町歩

右今同増加(減)ノ分

總計

何町歩

明治何年農第何號ヲ以テ共同狩獵地免許相成候處更ニ接續地何町歩ヲ加ヘ(前共同狩獵地何町歩ヲ減シ)其區域變更致度候ニ付御許可相成度狩獵法第九條同法施行規則第十四條ニ依リ別紙圖面相添此段願上候也

年月日

前書ノ通相違無之ニ付證明ス

農商務大臣宛

(現住所)

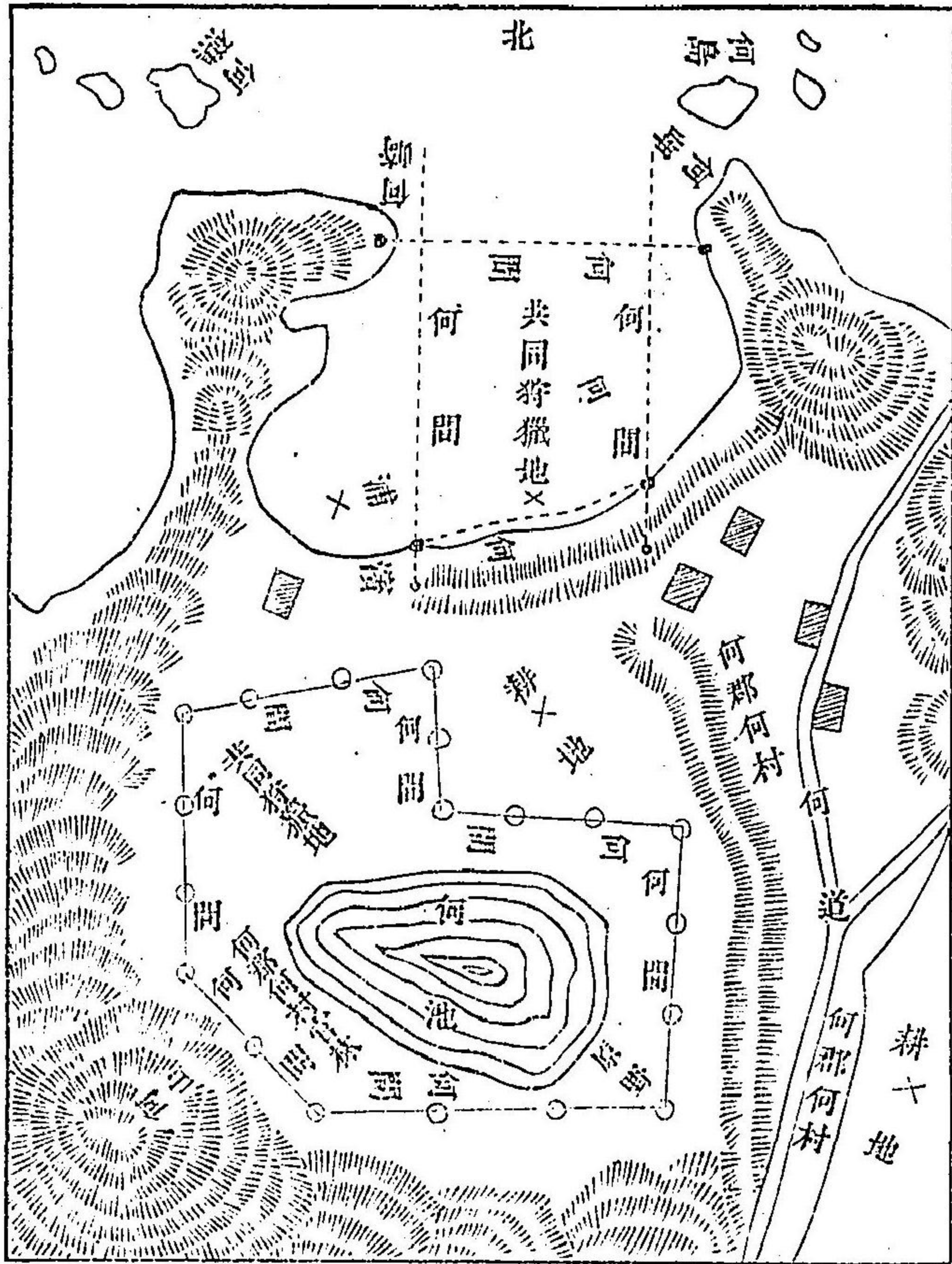
何市町村長

何 某 印

(共同狩獵免許地)

何市町村長

何 某 印



備考
 一 圖面ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 周圍ノ國郡市町村名
 一 周圍ノ間敷
 一 水面ニ於ケル共同狩獵地ノ境界線ハ一定不動ノモノニシテ見通シ若シ一定不動ノモノナキトキハ木標ニ箇ヲ建設シ之ヲ見通シテ定ムヘシ但湖沼ノ全面ヲ共同狩獵地トスル如キ場合ハ此限ニアラス

標目

- 共同狩獵地 黑色
- 境界線 黑色
- 國郡町村界 黑色
- 道路 朱色
- 原野 紫色
- 宅地 淡洋紅
- 木標 朱色
- 川澤 藍色
- 湖池沼 藍色
- 耕地 黃色
- 山林 綠色